堤頭遺跡

昭和55年度県営圃場整備事業粕川地区に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書（2）

1988

群馬県勢多郡粕川村教育委員会

堤　頭　遺　跡

昭和55年度県営圃場整備事業粕川地区に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書（2）

序

粕川村は、群馬県を代表する山である赤城山の南麓中央に位置しております。風光明媚なこの地域は、古来より人間の生活の舞台として様々な形で利用されて来た地域であると言われております。

この我が粕川村は、村の基幹産業である農業の近代化を目指しての構造改善を図るため、昭和53年からほぼ全村を対象として県営圃場整備事業に着手したのです。この事業により村の姿は色々な面において一新されることとなりました。

この圃場整備事業によって、古来からの村の景観は一変してしまいました。しかし、一方では、この事業によって多くのこれまで知られていなかった粕川村の古代の人々の暮らしの一端を知ることが出来たのです。それは埋蔵文化財の発掘調査による大きな成果であります。

この埋蔵文化財の発掘調査による成果の蓄積もすでに9年にも及び、その量は膨大なものがあります。

ここに報告する『堤頭遺跡』は昭和55年度の県営圃場整備事業に係る緊急発掘調査によって発見されたものです。縄文時代から平安時代にかけて連綿と営まれた集落の址であり、特に、この遺跡から検出された弥生時代の終わりから古墳時代にかけての集落は、赤城山南麓の初期の農耕集落であり、それは正に、現在の「農業粕川」の基盤を成すものではないでしょうか。

調査にあたり調整の労を取って戴いた地元土地改良区の役員の皆さん、また、地元土地所有者の皆さんには心よりお礼申し上げます。また、酷寒の中、発掘調査に参加協力戴いた方々にもお礼を添たいと思います。

最後に、ここに公表する成果が多くの人達に活用されることを祈念して序と致します。

粕川村教育委員会

教育長　　中　嶋　茂　美

例　　言

1. 本書は昭和55年度粕川地区県営圃場整備事業第７工区に係る埋蔵文化財『堤頭(つつみかしら)遺跡』の発掘調査報告書である。
2. 堤頭遺跡は群馬県勢多郡粕川村大字一日市(ひといち)字堤頭(つつみかしら)211番地他及び同大字下東田面(しもひがしたなば)字石切(いしきり)290番地他に所在する。なを、発掘当初は堤頭遺跡、石切遺跡と区別して呼称していたが、今回の報告にあたり『堤頭遺跡』と総称することとした。なを、遺跡の略称は堤頭地区　Ｆ４、石切地区　Ｆ５である。
3. 発掘調査は昭和55年10月２日から昭和56年１月22日まで実施した。また、整理作業は昭和62年４月６日から昭和63年１月29日まで行った。
4. 発掘調査は粕川村教育委員会が昭和55年度国庫補助金及び群馬用水土地改良事業所委託金の一部を使用して実施した。また、整理作業は昭和62年度国庫補助金の一部を使用して行った。
5. 調査は粕川村教育委員会の直営事業であり、同教育委員会文化財担当小島純一が担当した。なを調査参加者は以下の通りである。

   新井政雄　尾上三　笠原磯寿　金子金三郎　鎌塚栄太郎　真藤佐太郎　瀬戸徳三　田島梅三　立川誠三郎
   長瀬信吉　根岸利久　星野勇　松村捷代　松村徳治　天川くに子　天川せん　天田モト　石川紀恵
   小沢富江　恩田ハツノ　篠原芳江　田島禮子　登山サダ　中島あぐり　中野ヒロ子　長瀬トモ　長瀬久子
   長瀬政子　茂木邦子　茂木芳子
6. 資料整理及び報告書作成には以下のものが参加した。

   笠原嘉子　鈴木幸子　田島洋子　中島あぐり
   吉沢てい子
7. 調査組織及び事務局は以下の通りである。

   調査組織

粕川村教育委員会

教育長	金井久雄
事務局長	白石高士(昭和58年７月転出)
係長	坂本　実(昭和62年７月転出)
主事	武井修一(昭和57年４月転出)
調査担当	小島純一

   報告書作成事務局

粕川村教育委員会

教育長	金井久雄(昭和62年９月退任)
	中嶋茂美(昭和62年10月就任)
事務局長	羽鳥武男(昭和61年７月着任)
係長	小林　進(昭和62年７月着任)
派遣社会教育主事	
	横沢克明(昭和62年４月着任)
文化財担当	小島純一

8. 発掘出土品についてはすべて粕川村教育委員会で保管している。
9. 調査から整理にかけて、多くの方々から御指導、御助言を賜った。心より感謝申し上げます。

凡　　例

1. 本書の挿図に使用した方位記号は磁北を示す。調査に使用したグリッド基準線は国家座標を使用している。
2. 本書で使用した地形図は図１　国土地理院20万分の１「宇都宮」。図２　国土地理院2.5万分の１「鼻毛石」を使用している。
3. 本書の遺構平面図の縮尺は１／80、遺物実測図の縮尺は１／６、写真図版の遺物は１／６である。また、遺物写真中の番号は地区名、遺構番号、図版番号を示している。
4. 本書の遺物観察表の法量の欄は、特別の記述がないかぎり、上から器高、口径、底部径をそれぞれ示している。

目　　次

序

例　　言

凡　　例

Ⅰ　発掘調査の経緯 …… 3

Ⅱ　堤頭遺跡の位置と周辺の地形 …… 4

Ⅲ　発掘調査の概要 …… 5

1．基本土層 …… 5

2．調査された遺構 …… 5

(1) 住　　居　　址 …… 5

(2) グリッド出土遺物 …… 17

(3) 蓄　　銭 …… 17

挿　図　遺構平面図 …… 18

遺物観察表 …… 39

挿　図　遺物実測図 …… 75

Ⅳ　成果と問題点 …… 95

写真図版 …… 101

挿 図 目 次

図１　堤頭遺跡の位置…… 2
図２　堤頭遺跡と周辺の発掘調査遺跡…… 3
図３　堤頭遺跡と周辺の地形…… 4
図４　堤頭遺跡基本土層柱状図…… 5
図５　検出された遺構(1)……18
図６　検出された遺構(2)……19
図７　検出された遺構(3)……20
図８　検出された遺構(4)……21
図９　検出された遺構(5)……22
図10　検出された遺構(6)……23
図11　検出された遺構(7)……24
図12　検出された遺構(8)……25
図13　検出された遺構(9)……26
図14　検出された遺構(10)……27
図15　検出された遺構(11)……28
図16　検出された遺構(12)……29
図17　検出された遺構(13)……30
図18　検出された遺構(14)……31
図19　検出された遺構(15)……32
図20　検出された遺構(16)……33
図21　検出された遺構(17)……34
図22　検出された遺構(18)……35
図23　検出された遺構(19)……36
図24　縄文時代の出土遺物……75
図25　弥生時代の出土遺物(1)……76
図26　弥生時代の出土遺物(2)……77
図27　弥生時代の出土遺物(3)……78
図28　弥生時代の出土遺物(4)……79
図29　古墳時代前期の出土遺物(1)……80
図30　古墳時代前期の出土遺物(2)……81
図31　古墳時代前期の出土遺物(3)……82
　　古墳時代中期の出土遺物(1)……82
図32　古墳時代中期の出土遺物(2)……83
図33　古墳時代中期の出土遺物(3)……84
図34　古墳時代後期の出土遺物(1)……85
図35　古墳時代後期の出土遺物(2)……86
図36　奈良・平安時代の出土遺物(1)……87
図37　奈良・平安時代の出土遺物(2)……88
図38　奈良・平安時代の出土遺物(3)……89
図39　奈良・平安時代の出土遺物(4)……90
図40　グリッド出土遺物(1)……91
図41　グリッド出土遺物(2)……92
図42　蓄銭拓影(1)……93
図43　蓄銭拓影(2)……94
図44　赤城山南麓地域の赤井戸式土器の祖形……95
図45　堤頭遺跡全体図……99

写 真 図 版

ＰＬ．１　堤頭遺跡調査地区
　　１．堤頭地区（Ｆ４）全景
　　２．石切地区（Ｆ５）全景
ＰＬ．２　１．Ｆ５－15号住居址遺物出土状態
　　２．　同　全景
ＰＬ．３　１．Ｆ４－６号住居址全景
　　２．　同　遺物出土状態
ＰＬ．４　１．Ｆ４－13号住居址全景
　　２．Ｆ４－14号住居址遺物出土状態
　　３．　同　全景
ＰＬ．５　１．Ｆ４－16号住居址遺物出土状態
　　２．　同　上
　　３．　同　全景
ＰＬ．６　１．Ｆ４－24号住居址全景
　　２．Ｆ４－32号住居址遺物出土状態
　　３．　同　全景
ＰＬ．７　１．Ｆ５－１号住居址遺物出土状態
　　２．　同　上
　　３．　同　全景
ＰＬ．８　１．Ｆ４－12号住居址全景
　　２．　同　貯蔵穴内遺物出土状態

3．Ｆ５－18号住居址全景
ＰＬ．９　１．Ｆ４－17号住居址全景
２．　同　竈部全景
ＰＬ．10　１．Ｆ４－22号住居址全景
２．Ｆ４－18号住居址全景
３．Ｆ５－11号住居址遺物出土状態
ＰＬ．11　１．Ｆ４－10号住居址全景
２．　同　遺物出土状態
３．Ｆ５－20号住居址全景
ＰＬ．12　１．Ｆ５－Ｂｇ－31グリット遺物出土状態
２．Ｆ５－Ｂｌｍ－30，31グリット遺物出土状態
３．Ｆ４－Ｂｗ－16グリット蓄銭
ＰＬ．13　弥生時代の出土遺物(1)
ＰＬ．14　弥生時代の出土遺物(2)
ＰＬ．15　弥生時代の出土遺物(3)
ＰＬ．16　弥生時代の出土遺物(4)
ＰＬ．17　古墳時代前期の出土遺物(1)
ＰＬ．18　古墳時代前期の出土遺物(2)
ＰＬ．19　古墳時代前期の出土遺物(3)
ＰＬ．20　古墳時代前期の出土遺物(4)
古墳時代中期の出土遺物(1)
ＰＬ．21　古墳時代中期の出土遺物(2)
ＰＬ．22　古墳時代中期の出土遺物(3)
ＰＬ．23　古墳時代中期の出土遺物(4)
ＰＬ．24　古墳時代中期の出土遺物(5)
ＰＬ．25　古墳時代後期の出土遺物(1)
ＰＬ．26　古墳時代後期の出土遺物(2)
奈良・平安時代の出土遺物(1)
ＰＬ．27　奈良・平安時代の出土遺物(2)
ＰＬ．28　奈良・平安時代の出土遺物(3)

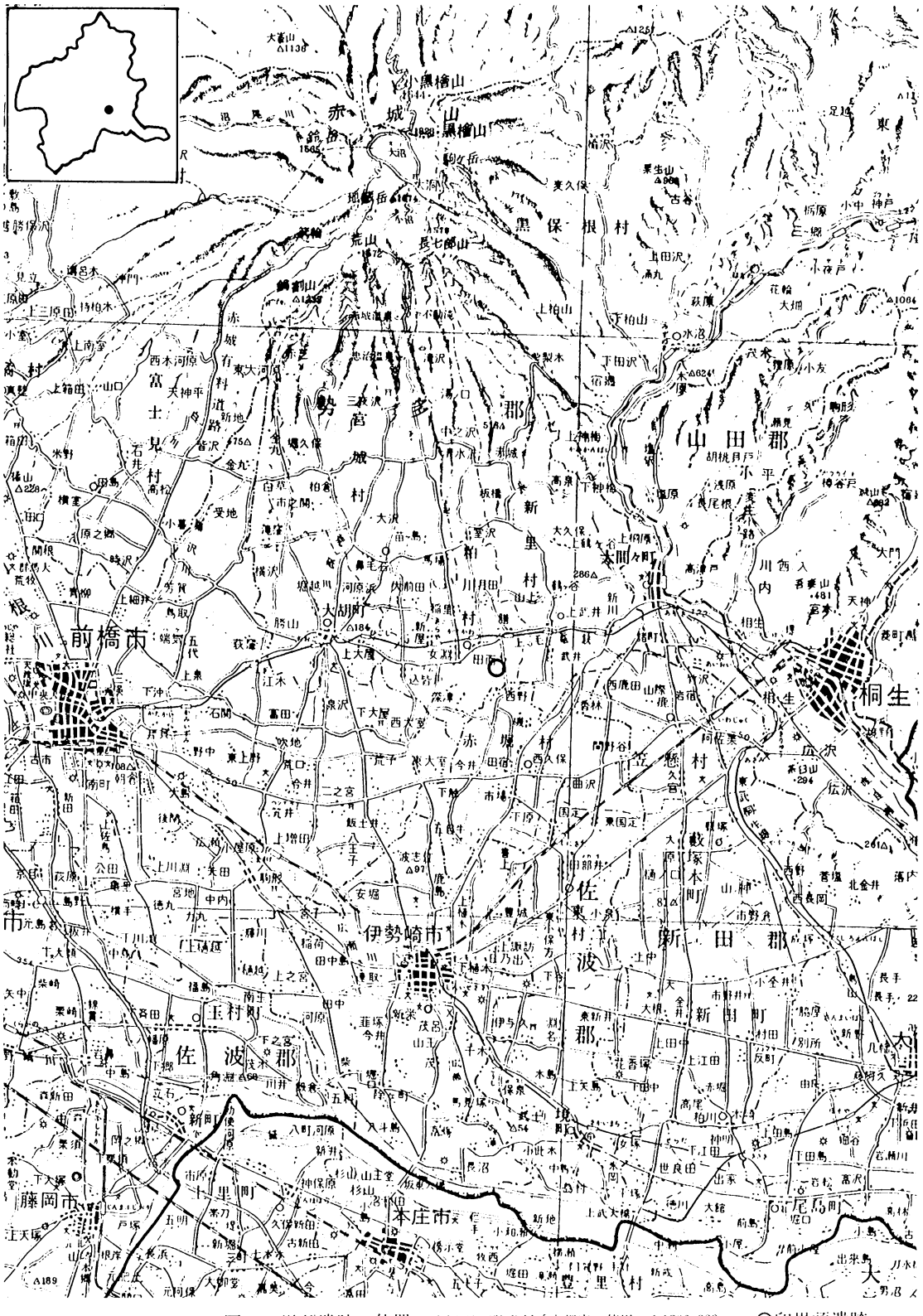


図１　堤頭遺跡の位置　国土地理院発行「宇都宮」使用　1:200,000　○印堤頭遺跡

Ⅰ　発掘調査の経緯

粕川村は、昭和53年度から昭和62年度までの10年間にわたって全村の約70％の耕地を対象として、県営圃場整備事業が行われ、ほぼその面工事も終了しようとしている。

この間、教育委員会は昭和54年度から埋蔵文化財の専門職員を採用し、開発によって破壊を受ける遺跡への記録保存を前提とした発掘調査を開始した。すでに、これまでに発掘調査を実施した遺跡は50遺跡を数えようとしている。しかし、この10年間に整理作業が終了し正式報告書を刊行できたものは３冊、概報を含めてもわずかに７冊である。

このような中で、埋蔵文化財発掘調査の本来の目的の一つである万人が活用できる資料の公表をめざし、これまでの発掘調査遺跡の本報告をここに数年間にわたって公表して行こうと考える。

今年度は、昭和55年度県営圃場整備事業に係る発掘調査報告(2)として『堤頭遺跡』の発掘調査報告書をここに刊行する。

昭和55年度の圃場整備事業は、粕川村の南東部にあたる第７工区内（田面地区）を対象として実施された。この工事対象区域内には前田遺跡、一日市城跡、堤頭遺跡、石切遺跡の４遺跡が確認されており、緊急発掘調査の対象となった。（図２）発掘調査は、国庫補助金及び群馬県委託金の一部を使用し、粕川村教育委員会が直営事業で実施した。

調査は圃場整備工事に先行して、４月より前田遺跡に着手し、一日市城跡、堤頭遺跡、石切遺跡へと順次進行して行った。

本報告の堤頭遺跡は昭和55年10月２日より発掘調査に着手し、昭和56年１月22日まで調査を行った。調査面積は8000㎡、調査参加人員は延べ1690人である。

なを、当初は堤頭遺跡（Ｆ4）、石切遺跡（Ｆ5）とそれぞれ別の遺跡名を付けて呼称していたが、報告書作成の段階で『堤頭遺跡』に統一した。

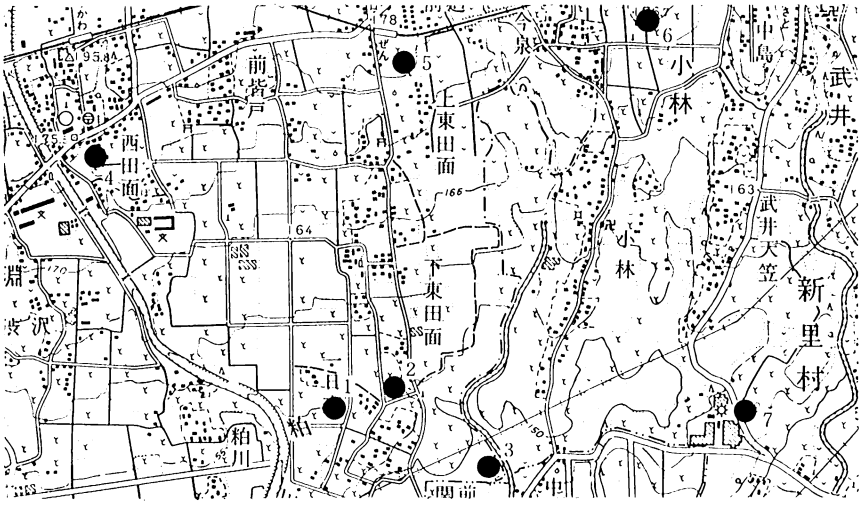


図２　堤頭遺跡と周辺の発掘調査遺跡

II　堤頭遺跡の位置と周辺の地形

堤頭遺跡は、粕川村の南東部、大字一日市字堤頭と大字下東田面字石切に所在する。粕川村内を東西に横切る県道桐生・大胡・前橋線と上毛電鉄が交差する膳駅から南に約1.5kmで、新里村、赤堀町との町村界近くに位置している。遺跡の標高は153mである。

粕川村の地形は、大きく赤城山の裾野地形と粕川等の河川による扇状地形とに分けることができる。

赤城山の裾野地形は粕川村の北部から東部にかけて良く残っている。その特徴は、いわゆる「馬の背状」と形容される幅の狭い尾根とそれと平行する開析谷に代表され、赤城山の火山原形面の上を関東ローム層が厚く覆っている。

一方、扇状地形は村の中央部から南西部に広がっている。この地域は比較的起伏が少なく、水田が良く発達している。また、扇状地内には独立丘状にローム台地が確認できる。一部では関東ローム層の上を扇状地の構成物である砂壌土が覆っていることが確認されている。

堤頭遺跡はその扇状地面に残る洪積台地上にある。遺跡地の中央部にある谷地は山麓開析によって形成されたものが、その後の扇状地形成期に河川化し、中世以降一部では人力によって河川改修を受け、谷地化したものと考えられる。

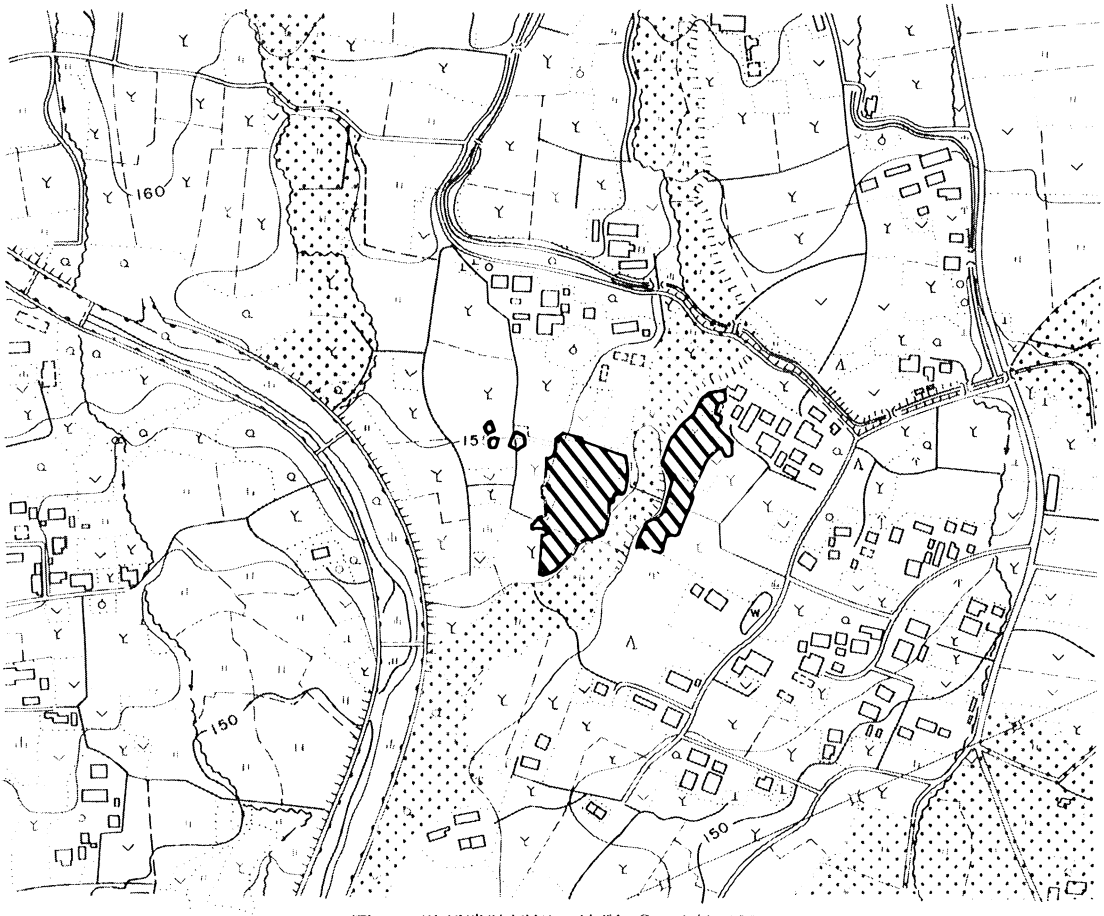


図3　堤頭遺跡周辺の地形　S＝1/4,000

III 発掘調査の概要

1. 基本土層

基本土層は、遺跡を堤頭と石切との二つの小字に分けている谷地周辺と、その外縁部ではかなり異なっている。

谷地周辺　桑畑として利用されていた。

Ⅰ層：耕作土。灰褐色土で、軟らかく、サラサラしている。II層：褐色土。浅間山C軽石(As-C) 及び榛名二ッ岳軽石 (FP) 粒を含む。耕作による攪乱がこの層までおよび部分的に存在する。III層：黄褐色土。砂壌土。谷地周辺にのみ確認できる。灰褐色土と黄褐色土が斑状になっている。粕川村内の扇状地では一般的に確認できる。IV層：茶褐色土。粘性が強い。部分的に砂壌土を含む。

谷地外縁部　桑畑として利用されていた。

Ⅰ層：耕作土。褐色土。II層：黒褐色土。浅間山C軽石 (As-C) 及び榛名二ッ岳軽石 (FP) 粒を含む。古墳時代以降の住居跡等の遺構埋土に一般的に認められる。III層：黄褐色土。関東ローム層である。上部には浅間白糸軽石 (A-SP) 粒が確認できる。以下は一般的な洪積台地の層序と同様である。

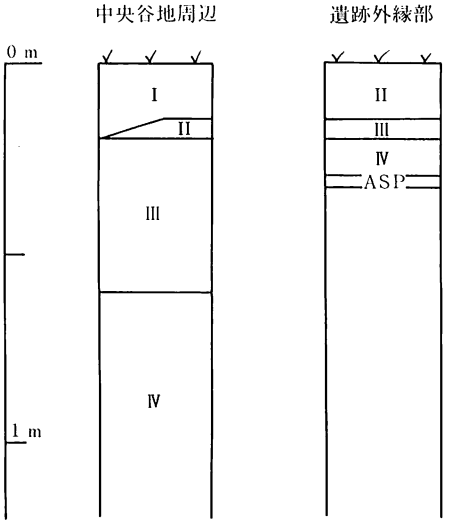


図4　堤頭遺跡　基本土層柱状図

2. 調査された遺構

発掘調査によって検出された遺構は、縄文時代前期の住居1軒、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、赤城山南麓地域に特徴的な土器群である赤井戸式土器の良好な一括資料を出土した住居13軒、古墳時代前期のS字状口縁台付き甕を伴う一括資料を出土した住居1軒、古墳時代中期の住居7軒、古墳時代後期の住居3軒、奈良・平安時代の住居30軒、古墳時代前期の遺物集中区1ケ所、古墳時代中期の遺物集中区2ケ所、時期不明の井戸2基、同じく時期不明の溝3条、遺構を伴わない蓄銭1ケ所であった。

(1) 住居址

F5－15号住居址（図5、図24、PL.2）

位置　石切地区の北西部。Bh－33。16住に一部を切られている。

形状　ほぼ正方形。壁は緩やかに立ち上がる。長辺4.3m×短辺4.2m。

面積　16.4m²　　**方位**　N－7°－W

床面　ローム土を40cmほど掘り込んで床面としている。堅く、良く締まっている。

炉址　中央やや北よりに設けられた埋甕炉である。埋甕は、口縁部や底部の欠損した深鉢3個を使用していた。

柱穴　5個の柱穴が検出された。柱穴はほぼ四隅に規則的に配されており、1個のみ炉址の近くにある。各柱穴の規模は、P_1径58×深さ64cm、P_2 40×81cm、P_3 34×82cm、P_4 40×53cm、P_5 34×21cmである。

周堀　検出されなかった。

遺物　遺物の大部分は床面より浮いた状態で出土している。図24－1・5・6は埋甕である。（遺物観察表：P39）

備考　住居址埋土は、非常に堅い褐色土である。

本住居は住居址に直接付設する埋甕から諸磯a式期のものと考えられる。

F 4－2号住居址（図5－2、図25－8～10）

位置　堤頭地区の最も北に位置している。Ax－8。一部を溝によって切られている。

形状　やや南北に長い方形を呈する。上部からの攪乱により壁の残りは悪い。長辺6.7m×短辺5.7m。

面積　36.8m²　　**方位**　N－21.5°－W

床面　黄褐色の砂壌土を床面としている。攪乱により一部不明瞭。

炉址　北壁よりの中央に位置している。拳大の礫7個を持った地床炉である。焼土は礫の周辺には確認されなかったが、やや離れた所でブロック状に検出された。

柱穴　4個の柱穴が検出された。柱穴はほぼ四隅に規則的に配されていた。各柱穴の規模は、P_1径34×深さ95cm、$P_2$32×69.7cm、$P_3$35×43cm、$P_4$41×74.8cmである。

遺物　3点の遺物がほぼ床面に密着の状態で出土した。（遺物観察表：P40）

備考　周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

F 4－4号住居址（図6－1、図25－1～7、PL.13）

位置　堤頭地区の北。2号住の南に位置している。Az－6。3号住によって一部を切られている。

形状　ほぼ正方形を呈する。住居址の堀込みは深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。長辺3.4m×短辺3.2m。

面積　9.6m²　　**方位**　N－48°－E

床面　茶褐色土を床面としているため、全体に堅い。

炉址　周溝は検出されなかった。

柱穴　2個が確認された。各柱穴の規模は、P_1径26×深さ20cm、$P_2$42×20cmである。

遺物　図6－1・4は床面よりやや浮いた状態で出土したが、他は床面密着で出土している。（遺物観察表：P40、41）

備考　貯蔵穴は住居址南東隅に確認された。平面形は円形で、規模は径50×深さ45cmである。

F 4－6号住居址（図7－2、図26－1～9、PL.3・13）

位置　堤頭地区の北、4号住居址の南東に位置する。Bb－6。一部を12号住居址によって切られている。

形状　やや南北に長い方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。長辺5.4m×短辺5.0m

面積　26.9m²　　**方位**　N－39°－W

床面　堅く、叩き締められている。

炉址　住居址北西壁よりの中央部、主柱穴を結ぶ線よりも外に設けられている。拳大より大きめの礫2個を配した地床炉である。炉内には焼土と灰が顕著に認められた。

柱穴　4個の柱穴が、ほぼ四隅に規則的に検出された。各柱穴の規模は、P_1径36×深さ62.2cm、$P_2$34×82.3cm、$P_3$49×32.3cm、$P_4$38×58.2cmである。

周堀　検出されなかった。

遺物　ほとんど総ての遺物は床面密着の状態で出土した。特に、住居址南隅からの出土が多かった。遺物の出土状態をみると立位の状態で置かれていたものが多い。（遺物観察表：P41、42）

備考　貯蔵穴は検出されなかった。住居址南隅からは灰白色粘土の固まりが検出された。

F 4－13号住居址（図6－3、図25－22～30、PL.4－1）

位置　堤頭地区、6号住居址の南に位置し、12号住居址と接している。Bd－6。

形状　南北に長い長方形を呈する。壁は垂直に立ち上がる。長辺4.9m×短辺3.9m。

面積　18.3m²　　**方位**　N－51°－E

床面　堅く叩き締められている。

炉址　住居址北中央部に位置している。拳大の礫1個を配した地床炉である。炉内には焼土が顕著に認められた。

柱穴　2個の柱穴が確認された。2個の柱穴は住居の中央部に南北にならんで確認された。各

柱穴の規模はP_1径28×深さ40cm、$P_2$26×60cmであった。

周堀　検出されなかった。

遺物　ほとんどが床面密着の状態で出土しているが完形品が無く、すべて破片での出土である。（遺物観察表：P42、43）

備考　貯蔵穴は住居東壁の中央部にある。中には焼土及び灰が確認された。平面形は円形、規模は径79×深さ20cmである。また、本住居址には、北壁よりの二隅に、それぞれ面積2.1m²、1.5m²程で、他の床面よりも3cm程高くされたベッド状遺構が付設されている。

F4—14号住居址（図8—3、図27—1～13、PL.4—2・3）

位置　堤頭地区の北、13号住居址の西側で16号住居址の北側に位置している。Bc—10。

形状　やや南北に長い方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がるが浅い。長辺5.6m×短辺4.9m

面積　26.6m²　　**方位**　N—43.5°—W

床面　住居址中央部がやや高くなっている。床面は堅いが、叩き絞められているほどではない。

炉址　住居址北壁寄りの中央部に位置している。柱穴を結ぶ線よりも外に位置している。焼土は顕著に認められた。

柱穴　4個の柱穴がほぼ四隅に規則的に検出された。各柱穴の規模は、P_1径44×深さ69.4cm、$P_2$34×71、cm$P_3$29×73.8cm、$P_4$43×71.2cmである。

周堀　検出されなかった。

遺物　図27—2・6・9・10は床面よりやや浮いた状態で出土している。他の遺物はほぼ床面密着の状態で出土している。特に南壁寄りに遺物の出土は集中していた。遺物の出土状態では同図2・3が立位で出土している。（遺物観察表：P43、44）

備考　貯蔵穴は検出されなかった。

F4—16号住居址（図9—1、図27—14～21、図28—1～8、PL.5）

位置　堤頭地区のほぼ中央部に位置している。すぐ北には14号住居址がある。Be—10。

形状　南北に長い長方形を呈する。壁は垂直に立ち上がるが浅い。長辺7.7m×短辺6.3m。

面積　50.4m²　　**方位**　N—11°—E

床面　比較的柔らかく、不明瞭であった。

炉址　住居址北壁寄り中央部に位置している。挙大の円礫を持つ地床炉である。焼土は薄い。

柱穴　4本の柱穴が規則的に配されている。各柱穴の規模はP_1径30×深さ57.8cm、$P_2$35×58.3cm、$P_3$36×57cm、$P_4$29×60.8cmであった。

周堀　検出されなかった。

遺物　図27—14・15・18、図28—7は床面よりやや浮いた状態で出土している。他は床面密着である。（遺物観察表：P44～46）

備考　貯蔵穴は南壁中央部やや西に検出された。平面形は円形で、規模は径50×深さ57.2cmである。

F4—19号住居址（図8—1、図26—14・15）

位置　堤頭地区の北、4号住居址の西に位置している。Ay—9。

形状　下辺を西にした不整形な台形状を呈する。床面は不明瞭であり、炉址、柱穴、周堀は検出されなかった。長辺2.3cm×短辺1.9m。

面積　6.0m²　　**方位**　N—30°—E

遺物　床面密着の状態で出土した。（遺物観察表：P46）

F4—26号住居址（第4図2、図26—16・17）

位置　堤頭地区の南、24号住居址の南に位置している。Bp—10。

形状　ほぼ正方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。長辺3.6m×短辺3.5m

面積　13.1m²　　**方位**　N—78°—W

床面　部分的に堅い部分があるが、全体に軟弱である。

炉址　住居中央よりやや北西に位置している。地床炉で、焼土は顕著に認められた。

柱穴　4個の柱穴が確認されたが、その配置は不規則で、柱穴の規模も小さい。P_1径30×深さ

17.5cm、$P_2$38×29.7cm、$P_3$43×51.4cm、$P_4$39×25.1cmであった。

遺物　完形品はなく2点が床面密着の状態で検出された。

備考　壁周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

F4－28号住居址（第6図、図28－19・20、PL．6－1）

位置　堤頭地区の南、30号住居址の北に位置している。Bt－14。

形状　東西に長い長方形を呈する。住居址の掘り込みが深く非常に残りが良い。長辺5.3m×短辺4.4m

面積　24.7m²　　**方位**　N－63.5°－W

床面　非常に堅く、叩き締め状で、住居中央部が他に比べやや高くなっている。

炉址　地床炉で、20cm程の長さの細長い炉石を持つ。長辺よりの柱穴を結ぶ直線上のほぼ中央に配されていた。

柱穴　4個の柱穴が検出された。いずれも、規則的に住居の四隅に位置している。P_1径32×深さ71.6cm、$P_2$46×67cm、$P_3$35×68cm、$P_4$36×57.8cmである。

遺物　遺物の出土量は極めて少なく、2点の遺物が住居の南西部壁よりの床面直上から検出された。（遺物観察表：P49）

備考　周堀、貯蔵穴は検出されなかった。住居址南西の一部を時期不明の井戸址によって切られている。

F4－32号住居址（図9－2、図28－9～18、PL．6－2）

位置　堤頭地区の発掘地区中最も南に位置している。31号住居址と接している。Bx－18。

形状　南北に長い長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。長辺5.0m×短辺4.2m

面積　19.5m²　　**方位**　N－34.5°－E

床面　堅く叩き絞められ、ほぼ平坦である。

炉址　住居址北の柱穴を結ぶ直線上の中央に位置している。地床炉で、長さ30cmほどの炉石を持つ。また、炉址上面には図28－17が潰れた状態で出土している。

柱穴　規則的に住居址の四隅に配された4個の柱穴が検出された。P_1径30×深さ43.5cm、$P_2$31×46.1cm、$P_3$33×51.2cm、$P_4$30×52.2cm。

遺物　図28－16は床面より10cmほど浮いた状態で出土した。他の遺物は、ほぼ住居址床面密着の状態で出土している。（遺物観察表：P48）

備考　周堀は検出されなかった。貯蔵穴は住居址南壁の中央やや西隅よりに検出された。平面形は円形で、規模は径53×深さ71.5cmである。

F5－8号住居址（図7－1、図25－11～21）

位置　石切地区の北東部、Bj－27。

形状　南北に長い長方形を呈する。住居上面の攪乱により、壁の立ち上がりは浅い。長辺8.2m×短辺5.4m

面積　45.2m²　　**方位**　N－25°－W

床面　堅く、叩き絞め状の床であるが、北西部分は不明瞭であった。

炉址　住居東側の長辺で、柱穴を結んだ直線より壁側の中央やや南に位置している。地床炉で挙大の炉石を持つ。焼土は顕著であったが灰層は確認できなかった。

柱穴　規則的に配された4個の柱穴の外に、南北に1個づつの柱穴が検出された。P_1径39×深さ71cm、$P_2$36×81.4cm、$P_3$55×81.1cm、$P_4$38×76.4cm、$P_5$28×66cm、$P_6$28×90.5cm。

遺物　住居址南西隅及び南辺よりに集中して検出された。総て床面密着の状態で出土した。（遺物観察表：P47、48）

備考　壁周堀は東壁下のみで検出された。巾18cm×深さ2～4cmであった。貯蔵穴は南壁寄りの中央やや西に位置している。平面形は円形、規模は径50×深さ83.1cmであった。

F5－25号住居址（図6－2、図26－10～13）

位置　石切地区の東中央部に位置している。24号住居址に接している。Bp－25。

形状　不整形な隅丸の長方形を呈する。壁の立

ち上がりは不明瞭で、皿状を呈する。また、床面も不明瞭であり柔らかい。炉址や柱穴、貯蔵穴、周堀などは検出されなかった。長辺2.6m×短辺1.9m。

面積 3.9m² **方位** N－39°－E

遺物 5点の遺物が床面と考えられる面よりもやや浮いた状態で、まとまって出土している。（遺物観察表：p50）

F5－1号住居址（図10－2、図29～図31－1～4、PL.7）

位置 石切地区の西端に位置している。Bf－44。

形状 整った隅丸方形を呈する。壁は垂直に立ち上がる。長辺5.0m×短辺4.8m。

面積 25.1m² **方位** N－10°－E

床面 堅いが叩き絞め状とはなっていない。住居址中央部がやや高く作られている。

炉址 住居址北壁側の中央東よりで、柱穴を結ぶ直線よりやや内側に位置している。地床炉であり、焼土のみ薄く確認できた。

柱穴 規則的に配された4個の柱穴と南壁よりに1個の柱穴が検出された。P_1径23×深さ54cm、$P_2$26×82cm、$P_3$24×64cm、$P_4$24×68cm、$P_5$66×40cm。

遺物 図29－3及び図31－4は床面より10cm程浮いた状態で出土した。他の遺物は床面密着の状態で検出されている。遺物は北壁よりに集中して分布していた。（遺物観察表：p50～53）

備考 貯蔵穴は住居址北東隅に検出された。平面形は円形で、径132cm×深さ24cmである。周堀は壁に沿って全周する。周堀幅20～28cm×深さ6～10cmである。住居址の西側を一部、南北に時期不明の溝によって切られている。

F4－11号住居址（図13－2、図31－1～6）

位置 堤頭地区の北東部に位置している。平安期の10号住居址に切られている。Bf－3。

形状 不整形な長方形を呈する。住居東側の壁を除いて、他の壁は不明瞭であった。長辺5.2m×短辺3.6m。

面積 19.2m² **方位** N－76°－E

床面 ローム土を床面としているが、不明瞭である。

竈址 北壁中央部に位置していたものと考えられる。袖部は細長い礫を4～5個立位に並べることによって形作られている。周辺から白色粘土が一部検出されたことから礫の上を白色粘土によって薄く被覆したものと考えられる。竈本体は総て壁内側に作り付けられている。煙道は検出されなかった。支脚は高坏の一部欠損品（図31－4）を転用し、伏せた状態で使用している。

柱穴 住居址正面の竈やや東に1個が検出された。径54×深さ45cm。

遺物 総ての遺物が床面直上で出土している。（遺物観察表：p53～54）

備考 貯蔵穴、周堀は検出されなかった。

F4－12号住居址（図11－1、図31－7～21、PL.8－1・2）

位置 堤頭地区の北東部に位置し、6号、10号、13号住居址と接している。Bd－6。

形状 ほぼ正方形を呈する。壁は垂直に立ち上がる。長辺7.5m×短辺7.4m。

面積 54.0m² **方位** N－80°－E

床面 堅く、叩き絞め状を呈し、ほぼ水平に整えられている。

炉址 住居址の中央やや北西よりに位置している。地床炉であるが、焼土が僅かに認められたのみで灰層等は確認できなかった。

柱穴 住居址の四隅に規則的に配された4個の柱穴が検出された。P_1径40×深さ75cm、$P_2$36×81.6cm、$P_3$38×86cm、$P_4$42×78cm。

遺物 床面直上及び貯蔵穴内から多くの遺物が出土した。図31－7・8・12は床面から15cm程浮いた状態で出土した。（遺物観察表：p54、55）

備考 貯蔵穴は住居址南壁中央やや東に検出された。隅丸の方形で規模は径100cm×深さ46cmであった。底面からは図31－13・18・20・21などの遺物が出土した。

F4－17号住居址（図11－2、図32－1～8、

PL．9）

位置　堤頭地区の北東部に位置している。16号住居址の東にあたる。Bh－8。

形状　南北に長い長方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。長辺5.2m×短辺3.9m。

面積　18.0㎡　　**方位**　N－8°－W

床面　柔らかく、比較的不明瞭である。

竈址　東壁の南部分に付設されている。長さ20～30cm大の細長い礫を立位に使用して袖部を形作っている。また、焚口部分は大型の礫を用いて、鳥居状に形作られていたものと考えられる。支脚には高坏の欠損品を伏せた状態で転用している。竈内には焼土が顕著に認められた。柱穴、周堀は検出されなかった。

遺物　総ての遺物が竈址、及びその周辺の床面直上から出土した。図32－8は竈址内、5は支脚として転用されていたものである。(遺物観察表：P56)

備考　貯蔵穴は住居址北西隅に検出された。平面形は円形で、規模は径74×深さ36cmである。

F4－22号住居址（図12－1、図32－9～13、PL．10－1）

位置　堤頭地区のほぼ中央部に位置している。Bl－12。

形状　東西に長い長方形を呈するが、やや東壁が歪んでいる。壁は垂直に立ち上がる。長辺7.7m×短辺5.4m。

面積　30.4㎡　　**方位**　N－81°－E

床面　部分的に堅いところと軟弱な部分があり凹凸が激しい。

炉址　住居址東壁よりに焼土の分布が一部でみとめられたが、炉址とは言いがたい。

柱穴　4個の柱穴が検出された。西壁よりに壁と平行に並ぶ2個と、東壁よりの中央に1個、住居址中央部に1個が検出された。P_1径50×深さ42cm、$P_2$38×49cm、$P_3$84×65cm、$P_4$50×47cm。

遺物　総ての遺物は床面に密着の状態で出土した。(遺物観察表：P56、57)

備考　周溝は検出されなかった。貯蔵穴は東壁のほぼ中央部に平面形が円形のものと南壁の中央やや東よりに平面形隅丸方形のものが検出された。規模はそれぞれ径46×深さ60cm、長辺82×短辺52×深さ55cmである。

F4－29号住居址（図12－3、図32－14～19）

位置　堤頭地区の南に位置している。Bs－15。

形状　住居址の北西部が攪乱により不明である。長辺5.0m×短辺2.8m（現存長）

面積　10.7㎡　　**方位**　N－61°－W

床面　堅く叩き絞められているが南部分は柔らかい。

炉址　現存部分では検出されなかった。

柱穴　2個の柱穴が確認された。それぞれ規則的に配されている。P_1径34×深さ66cm、$P_2$34×64cm。

遺物　6点の遺物が検出されたがいずれも床面密着の状態で出土している。(遺物観察表：P57)

備考　貯蔵穴は検出されなかった。周溝は現存部分では全周するものと考えられる。周溝巾12～34cm、深さ4～9cmである。

F4－7号住居址（図12－2）

位置　堤頭地区の北部、6号住居址に接している。Bc－8。

形状　東西に長い長方形を呈する。壁は垂直に立ち上がる。長辺3.0m×短辺2.5m。

面積　6.7㎡　　**方位**　N－55°－W

床面　堅くしっかりしている。

備考　竈址、柱穴、周堀は検出されなかった。遺物は小破片が少量出土したのみであった。

F4－30号住居址（図14－4）

位置　堤頭地区の南部、29号住居址の南に位置している。

形状　東西に長い隅丸の方形で、台形状を呈する。長辺4.9m×短辺4.1m。

面積　19.1㎡　　**方位**　N－72°－W

床面　住居址中央部は叩き締められているが周辺はやや柔らかい。

備考　竈址、炉址、柱穴、周堀は検出されなかった。遺物も出土しなかった。

Ｆ５－18号住居址（図13－１、図33－10～15、ＰＬ．８－３）

位置　石切地区の北部、平安期の17号住居址に一部を切られている。Be－33。

形状　正方形を呈する。壁は垂直に立ち上がる。長辺5.8m×短辺5.6m。

面積　30.4㎡　　**方位**　Ｎ－81°－Ｅ

床面　叩き締め状ではないが、明瞭である。

柱穴　規則的に配された４個の柱穴が検出された。P_1径46×深さ78cm、$P_2$42×80cm、$P_3$40×62cm、$P_4$42×52cm。

遺物　図33－14は床面から15cm程浮いた状態で出土した。他の遺物は総て床面密着の状態で出土している。（遺物観察表：ｐ59）

備考　炉址、周堀は検出されなかった。貯蔵穴は住居址南東隅に検出された。平面形は円形で径84cm×深さ84cmであった。

Ｆ５－14号住居址（図14－１、図33－１～９）

位置　石切地区の北部中央に位置する。

形状　東西に長い長方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がり掘り込みは浅い。長辺5.2m×短辺4.6m。

面積　22.4㎡　　**方位**　Ｎ－２°－Ｅ

床面　柔らかく、不明瞭である。

遺物　住居址中央部にまとまって床面より20cm程浮いた状態で出土した。（遺物観察表：ｐ58）

備考　竈址、炉址、柱穴、周堀は検出されなかった。

Ｆ４－18号住居址（図15、図34－１～17、図35－１・２、ＰＬ．10－２）

位置　堤頭地区の中央部に位置する。Bi－11。

形状　南北に長い長方形を呈する。東壁はやや竈部分で膨らむ。長辺6.4m×短辺5.4m。

面積　32.1㎡　　**方位**　Ｎ－３°－Ｗ

床面　堅く、締まっているが、叩き締め状ではない。

竈址　東壁の中央に付設されている。袖部は30cm程残存し、茶褐色の粘土を用いて構築されている。右袖部分には長胴甕を伏せて補強材として使用している。燃焼部は幅50cm、奥行き60cmで壁の内側に作られている。煙道部は燃焼部から60°立ち上がり、壁よりも50cm程外に出る。

柱穴　５個の柱穴が検出された。住居址のほぼ対角線上に規則的に並ぶ４個と西壁中央に１個が確認された。P_1径36×深さ56cm、$P_2$50×75cm、$P_3$34×56cm、$P_4$42×56cm、$P_5$56×60cm。

遺物　竈周辺、住居址北東隅、住居址中央の床面に密着の状態で出土した。図34－15は竈袖部の補強材として使用されたものである。（遺物観察表：ｐ59～61）

備考　貯蔵穴は住居址南東隅に検出された。不整形な円形を呈し、径90cm×深さ58cmを測る。周堀は検出されなかった。

Ｆ５－11号住居址（図17－１、図35－３～10、ＰＬ．10－３）

位置　石切地区の北部中央に位置している。Bm－28。

形状　ほぼ正方形を呈する。住居址の掘り込みが深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。長辺3.1m×短辺2.7m。

面積　6.9㎡　　**方位**　Ｎ－13°－Ｗ

床面　特に堅い面がなく、不明瞭である。

竈址　南東隅に設けられている。焼土、粘土等は認められず、住居壁も全く焼けていない。袖石と考えられる石が２個検出された。

遺物　図35－12は北東隅で出土したが、他の遺物は総て竈址周辺でまとまって出土した。（遺物観察表：ｐ61、62）

備考　貯蔵穴、柱穴、周堀は検出されなかった。

Ｆ４－３号住居址（図16－１、図35－12～14）

位置　堤頭地区の北部、４号住居址を切っている。Ay－７。

形状　ほぼ正方形を呈する。壁は直線的であるが、東壁は西壁にたいしてやや開きぎみになる。長辺3.6m×短辺3.3m。

面積　11.6㎡　　**方位**　N－11°－W

床面　砂壌土を掘り込んで床面としている。特に堅い面はない。

竈址　東壁中央部に付設されている。袖部は住居東壁と同一線上にある。長さ50cm程の細長い礫を立位に使用して袖にしている。燃焼部は幅40cm、奥行き50cmで、壁より外側にある。

遺物　総ての遺物は床面直上で出土した。(遺物観察表：p62)

備考　柱穴、貯蔵穴、周堀は検出されなかった。

F4－5号住居址（図16－2、図35－15・16)

位置　堤頭地区の北部、3号住居址の東に位置している。Az－6。

形状　ほぼ正方形を呈する。掘り込みが浅く、壁の立ち上がりは極めて低い。長辺4.9m×短辺4.2m。

面積　15.8㎡　　**方位**　N－3°－W

床面　砂壌土を床面としているが、堅く叩き締められている。

竈址　東壁の中央やや南に付設されている。上面は掘削を受けているため不明瞭であるが、焼土及び灰層が確認できた。

柱穴　2個の柱穴と考えられるピットを検出した。P_1径32×深さ12cm、$P_2$34×42cm。

周堀　南壁を除いて、壁下には周堀が巡っている。規模は幅20～26cm、深さ4～6cmである。

遺物　図35－15は貯蔵穴内から16は竈内から出土した。(遺物観察表：p62)

備考　貯蔵穴は住居址南東隅に設けられている。平面形は隅丸方形で、規模は長辺80cm×短辺66cm、深さ44cmである。また、北西隅、南西隅にもそれぞれ隅丸方形の土壙が検出された。規模はそれぞれ長辺100cm×短辺70cm×深さ26cm、長辺96cm×短辺88cm×深さ40cmである。

F4－9・10号住居址(図19－1、図37－1～22、PL.11－1・2)

位置　堤頭地区の北東部に位置している。11号住居址を切っている。Bd－3。

形状　9号住居址は10号住居址にきられているが北壁の一部を除いて不明瞭であった。10号住居址は東西方向に長い長方形を呈する。長辺4.4m×短辺3.3m。

面積　13.3㎡　　**方位**　N－5°－E

床面　9号住居址・10号住居址共にローム土を掘り込んで床面としているが特に堅い面はなかった。9号住居址の床面は10号住居址の床面に比べて7cm程高い。

竈址　10号住居址には北壁西よりに竈が設けられている。袖部は人頭大の礫と白色粘土をもちいて作られ、10～20cm程住居址内に伸びている。燃焼部は幅40cm、奥行き50cmである。煙道部は70cm程延びて、40°の角度で立ち上がり、煙り出し部には甕の上半部を煙突状に用いている。

遺物　図37－20は竈煙出し部に転用されていたものである。同図22は9号住居址から出土したものである。他の遺物は総て床面直上から出土した。同図9・7・12・14はそれぞれ重なって出土した。(遺物観察表：p65、66)

備考　周堀、柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

F4－15号住居址（図18－2、図36－9）

位置　堤頭地区の中央部西端に位置する。

形状　南北に長い長方形を呈する。Bd－11。長辺3.8m×短辺2.9m。

面積　9.9㎡　　**方位**　N－7°－W

床面　特に堅い面はない。

竈址　東壁南よりに付設されていたものと考えられる。僅かに焼土及び灰層が検出された。

備考　竈部及び住居址の南隅は時期不明の溝によって攪乱を受けている。遺物は小破片が少量確認されたのみであった。柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

F4－20号住居址（図14－5）

位置　堤頭地区の中央部西端に位置する。15号住居址の西にあたる。Bd－13。

形状　東西に長い長方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。長辺3.3m×短辺2.5m。

面積　7.2㎡　　**方位**　N－69°－W

床面　特に堅い面は検出されなかった。

備考　竈址、柱穴、周堀、貯蔵穴、遺物は検出されなかった。

Ｆ４－21号住居址（図22－６）

位置　堤頭地区の中央部西端で、８号住居址の西に位置する。Bi－13。

形状　東西に長い長方形を呈する。確認面からの掘り込みが浅く壁の立ち上がりは浅い。長辺3.6m×短辺2.6m。

面積　7.9㎡　　**方位**　N－70°－W

床面　特に堅い面は検出されなかった。

竈址　住居址東壁中央に位置する。燃焼部は幅60cm、長さ60cm程で、床面よりやや掘り下げて作られている。また、燃焼部中央には拳大の円礫を用いた支脚があった。

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴、遺物は検出されなかった。

Ｆ４－23号住居址（図14－２、図37－１）

位置　堤頭地区の中央西端で、20号住居址の南に位置する。Bf－14。

形状　不整形な方形を呈する。確認面からの掘り込みが浅く、壁の立ち上がりは極めて浅い。長辺2.6m×短辺2.5m。

面積　6.0㎡　　**方位**　N－９°－W

床面　特に堅い面は確認出来なかった。

遺物　住居址南東隅で1点検出された。（遺物観察表：ｐ66、67）

備考　竈址、柱穴、周堀は検出されなかった。

Ｆ４－24号住居址（図17－２、図36－16・17）

位置　堤頭地区の南部東端で、26号住居址の北に位置している。Bo－11。

形状　ほぼ正方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。長辺3.6m×短辺3.25m。

面積　10.5㎡　　**方位**　N－75°－W

床面　特に堅い面は確認されなかった。

竈址　東壁南よりに付設されている。竈の全長は130cmで、総て壁外側に作り出されている。袖部は壁に拳大の礫を用いて作られている。燃焼部は幅50cmで、床面を僅かに掘り込んでいる。

遺物　竈周辺から集中して出土した。（遺物観察表：ｐ64）

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。住居址埋土上層には浅間山Ｂ軽石（As-B）が検出された。

Ｆ４－25・27号住居址（図18－１、図36－１・２）

位置　堤頭地区の南、24号住居址の西に位置している。Bp－13。

形状　27号住居址は、大部分を25号住居址によって切られている。そのため全体の形状は不明である。25号住居址は南北にやや長い隅丸長方形を呈する。長辺4.6m×短辺3.9m。

面積　16.3㎡　　**方位**　N－54°－W

床面　特に堅い面は検出されなかった。

竈址　25号住居址に伴うもので、東壁中央やや南に付設されている。竈本体は総て壁外側に作り出されている。燃焼部は幅60cm、奥行き70cmで、煙道は50°で立ち上がる。

遺物　25号住居址で2点の遺物が検出された。いずれも竈部周辺からの出土である。27号住居址からは遺物は検出されなかった。（遺物観察表：ｐ63）

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は25号住居址、27号住居址ともに検出されなかった。

Ｆ４－31号住居址（図23）

位置　堤頭地区の最も南に位置する。32号住居址と接している。Bv－19。

形状　南北に長い長方形を呈するが、南東隅が大きく外側に張り出す。長辺4.4m×短辺2.8m。

面積　10.8㎡　　**方位**　N－10°－W

床面　部分的に堅い面が確認された。

竈址　北壁中央に付設されている。幅60cm、奥行き56cmで、燃焼部中央には支脚を据えたと考えられる小穴を検出した。

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。遺物も小破片が竈内より少量出土したにすぎない。

Ｆ５－２号住居址（図19－１・２、図38－７～９）

位置　石切地区の北部西端に位置している。Bd－48。

形状　ほぼ正方形を呈するが、竈の付設される東壁が西壁に比べて広がる。長辺4.2m×短辺4.1m。

面積　13.8㎡　　**方位**　N－83°－W

床面　住居址中央にやや堅い面が確認されたが、他は特に堅い面はなかった。

竈址　東壁中央やや南よりに付設される。袖部には細長い礫を用いている。竈は壁外側に作り出されている。燃焼部は床面より10cm程掘り下げられている。幅54cm、奥行き145cmである。

遺物　図38－７・８は竈内、９は住居址北隅から出土した。（遺物観察表：ｐ67）

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

Ｆ５－３号住居址（図21）

位置　石切地区の北部西端、２号住居址の北に位置する。Bd－49。

形状　東西に長い長方形を呈する。南北の壁がやや歪でいる。長辺3.9m×短辺3.3m。

面積　10.9㎡　　**方位**　N－77°－E

床面　上層からの攪乱があり不明瞭。特に堅い面は検出されなかった。

竈址　攪乱により不明瞭である。燃焼部は幅64cm、奥行き76cmである。僅かに焼土が確認できた。

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。遺物は小破片が確認されたのみである。

Ｆ５－４号住居址（図14－３）

位置　石切地区の北部東端で８号住居址の東に位置している。Bh－25。

形状　南北に長い長方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。長辺4.9m×短辺3.7m。

面積　16.4㎡　　**方位**　N－42°－E

床面　砂壌土を床面としているが堅い。

備考　竈址、柱穴、貯蔵穴、周堀、遺物は検出されなかった。

Ｆ５－５号住居址（図18－４、図38－10～13）

位置　石切地区の北部東端で、４号住居址の南に位置している。

形状　南北に長い隅丸長方形を呈する。長辺4.2m×短辺3.3m。

面積　11㎡　　**方位**　N－77°－W

床面　砂壌土を床面としているが、全体に堅い。

竈址　東壁中央南よりに付設されている。燃焼部の幅90cm、奥行き60cmである。焼土の量も少なく、あまり全体に焼けていない。

周堀　南壁を除いて総ての壁下に周堀が検出された。規模は幅20～24cm、深さ４～６cmである。西隅及び竈周辺ではつながらず切れている。

遺物　竈周辺及び住居址南西部に集中して検出された。遺物は床面より３～５cm程浮いた状態で検出されている。（遺物観察表：ｐ67）

備考　柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

Ｆ５－６号住居址（図20－１・２、図38－14～20）

位置　石切地区の北部東端で５号住居址の南に位置している。Bk－23。

形状　南北に長い長方形を呈する。確認面からの掘り込みが浅く、壁の立ち上がりは浅い。長辺3.7m×短辺2.6m。

面積　9.1㎡　　**方位**　N－82°－W

床面　砂壌土を床面としているが堅い。比較的床面には凹凸がある。

竈址　東壁の中央北よりに付設されている。幅70cm、奥行き100cmである。袖部及び竈壁部には細長い礫４個が置かれている。また中央には支脚として細長い礫が設置されていた。

遺物　竈内から図38－14・18～20が出土した。他の遺物は総て床面密着の状態で出土した。（遺物観察表：ｐ68）

備考　柱穴、周堀は検出されなかった。貯蔵穴は住居址南西隅に検出された。平面形は南北に長い楕円形で、規模は長径幅90cm、短径幅60cm、深さ32cmである。７号住居址の一部を切っている。

F 5－7号住居址（図20－5、図39－1～4）

位置　石切地区の北部東端、6号住居址に一部を切られている。Bn—23。

形状　南北に長い長方形を呈する。長辺4.6m×短辺3.6m。

面積　14.7m²　　**方位**　N—13°—E

床面　砂壌土を床面としているが全体的に堅い。6号住居址の床面と比べて5cm程低い。

竈址　北壁中央やや東に付設されている。燃焼部の幅60cm、奥行き40cmで床面よりやや上がっている。

遺物　図39—3・4は竈内より、同図1・2は床面直上から出土している。(遺物観察表：p69)

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

F 5－9・10・24号住居址（図17—4、図20—2、図21—1、図36—3～8、図38—21・22、図39—5）

位置　石切地区の中央部東端で、25号住居址の西に位置する。9号住居址が最も西に位置し、24号住居址がその東に、10号住居址が24号住居址の南に位置している。Bo—27。

形状　9号住居址は南北に長い長方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。長辺5.3m×短辺4.5m。24号住居址は南北に長い長方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。長辺4.8m×短辺3.6m。10号住居址は9・24号住居址に一部を切られているためにその全体形は不明。現存する南辺は3.9mを測る。

面積　9号住居址　21.1m²、24号住居址　15.2m²

方位　9号住居址　N—73°—W、24号住居址　N—70°—W

床面　三軒の住居址はいずれも砂壌土を床面としているが、比較的床は堅くしっかりしている。9号住居址と10号住居址の床はほぼ同一の高さであるが、24号住居址の床面はそれらより5cm程低く作られている。

竈址　9号住居址の竈は東壁の南よりに設けられている。焼土が僅かに認められた。幅48cm、奥行き144cmである。24号住居址の竈も東壁の南よりに設けられている。既に竈の上面は削平されており、僅かに竈の袖部の礫の据え方が確認された。

備考　柱穴、周溝は検出されなかった。貯蔵穴は24号住居址に確認できた。平面形は隅丸方形で、径50cm×深さ36cmであった。

F 5—12号住居址（図22—3）

位置　石切地区の北部中央で、11号住居址の北に位置している。Bl—29。

形状　西壁、南壁が不明瞭であるため全体の形状は不明。現存する東壁の長さは4.3mである。

面積　不明　　**方位**　N—6°—W

床面　特に堅い面は認められなかった。

竈址　東壁の中央やや南に設けられている。焼土は認められたが全体の形状は不明瞭である。竈部の幅90cm、奥行き74cmである。

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。遺物についても小破片が少量出土したのみであった。

F 5—16号住居址（図17—4、図35—11）

位置　石切地区の北部で15号住居址と接している。Bh—32。

形状　南北に長い長方形で壁は緩やかに立ち上がる。長辺4.7m×短辺3.9m。

面積　16.8m²　　**方位**　N—58°—W

床面　住居址の中央部に堅い面があった。

竈址　東壁南よりに設けられている。燃焼部は床面よりやや掘り下げられている。幅136cm、奥行き100cmである。

遺物　床面密着の状態で出土した。(遺物観察表：p62)

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

F 5—17号住居址（図22—5、図39—6～13）

位置　石切地区の北部中央に位置し、18号住居址の一部を切っている。Bf—32。

形状　南北に長い長方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。長辺5.1m×短辺4.3m。

面積　19㎡　　**方位**　N－75°－W

床面　攪乱が著しく、床面は不明瞭である。

竈址　住居址東壁の中央やや南よりに設けられている。井戸等の攪乱により不明瞭である。掘り方では、幅160cm、奥行き100cmを測る。

遺物　図39－7・8・12・13は攪乱土の中から一括で出土している。また、同図6・9・10は17号住居址内に住居址を切って造られた井戸内からの出土である。(遺物観察表：p69、70)

備考　柱穴、周堀は検出されなかった。貯蔵穴は住居址南東隅に設けられている。平面形は円形であった。

F5－19号住居址（図21－3、図36－10～15）

位置　石切地区の中央部西に位置している。15号住居址の西にあたる。Bh－35。

形状　南北に長い長方形を呈する。長辺4.1m×短辺3.7mを測る。

面積　13.7㎡　　**方位**　N－89°－W

床面　ローム土を床面としているが、特に堅い面は確認できなかった。

竈址　東壁中央やや南よりに設けられている。竈の残存状態は悪い。袖部には人頭大の礫1石づつを用いている。幅50cm、奥行き90cmを測る。

遺物　図示した遺物は総て床面から5cm程浮いた状態で出土した。(遺物観察表：p64)

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

F5－20号住居址（図22－1・2、図39－15～18、PL.11－3）

位置　石切地区の中央部、9号住居址の西に位置している。Bo－29。

形状　南北に長い隅丸の長方形を呈する。長辺3.7m×短辺3.1m。

面積　9.2㎡　　**方位**　N－83°－W

床面　特に堅い面は検出されなかった。

竈址　南東隅に付設される。挙大の礫を用いて袖部及び燃焼部の壁を形作っている。燃焼部は床面を僅かに掘りくぼめている。幅20cm、奥行き50cmを測る。

遺物　遺物は総て竈内から出土した。(遺物観察表：p70)

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

F5－21号住居址（図20－21、図39－14）

位置　石切地区の最も南に位置している。Bx－31。

形状　南北に長い長方形を呈する。長辺3.2m×短辺2.6m。

面積　7.1㎡　　**方位**　N－30°－E

床面　特に堅い面は検出されなかった。床面は比較的凹凸を持つ。

竈址　北東隅に設けられているが明瞭ではない。焼土の分布も極めて少ない。幅74cm、奥行き48cmを測る。

遺物　砥石が1点検出されたのみである。(遺物観察表：p70)

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

F5－22号住居址（図22－4、図39－19～25）

位置　石切地区の南部西端に位置する。Bv－37。

形状　東西に長い長方形を呈する。確認面からの掘り込みが浅く、壁は緩やかに立ち上がる。長辺4.28m×短辺3.9m。

面積　15.9㎡　　**方位**　N－68°－W

床面　特に堅い面は検出されなかった。

竈址　東壁中央やや南に付設されている。残存状態は悪い。幅76cm、奥行き70cmを測る。

遺物　住居址北東隅にまとまって検出された。(遺物観察表：p70、71)

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

F5－23号住居址（図18－3、図38－1～6）

位置　石切地区の南部東端に位置している。Bv－28。

形状　遺構が黒色土内に掘り込まれていたために、全体の形状は西壁及び竈部の一部を除いて不明。現存する西壁の長さ3.6mである。

面積　不明　　**方位**　N－83°－E

床面　特に堅い面は確認できなかった。竈の焼土及び灰層の確認できた面を床面として把握した。

竈址　東壁に付設されたものと考えられる。袖部には細長い礫を立位に用いて袖としていた。燃焼部の幅90cm、奥行き86cmを測る。

遺物　竈部周辺からまとまって出土した。(遺物観察表：p66、67)

備考　柱穴、周堀、貯蔵穴は検出されなかった。

(2)　グリット出土遺物

石切地区に3箇所の土器集中出土地点が確認された。

Bg－31グリッド（図40—16～25、PL．12—1）

石切地区の北部中央部、17号住居址の東にあたる。2×2m程の範囲の中に土器がまとまって出土した。他の遺物は含まない。遺物の出土はほぼ同一レベルに集中していた。出土遺物は、完形品は少ない。(遺物観察表：p72、73)

Bm・l—30・31グリッド（図41、PL．12—2）

石切地区のほぼ中央、12号住居址の西にあたる。2×4m程の範囲の中に土器のみがまとまって出土した。遺物は完形品が多い。出土遺物には比較的レベル差があった。(遺物観察表：p73、74)

Bt・u・v—29・30グリッド（図40—1～15・36）

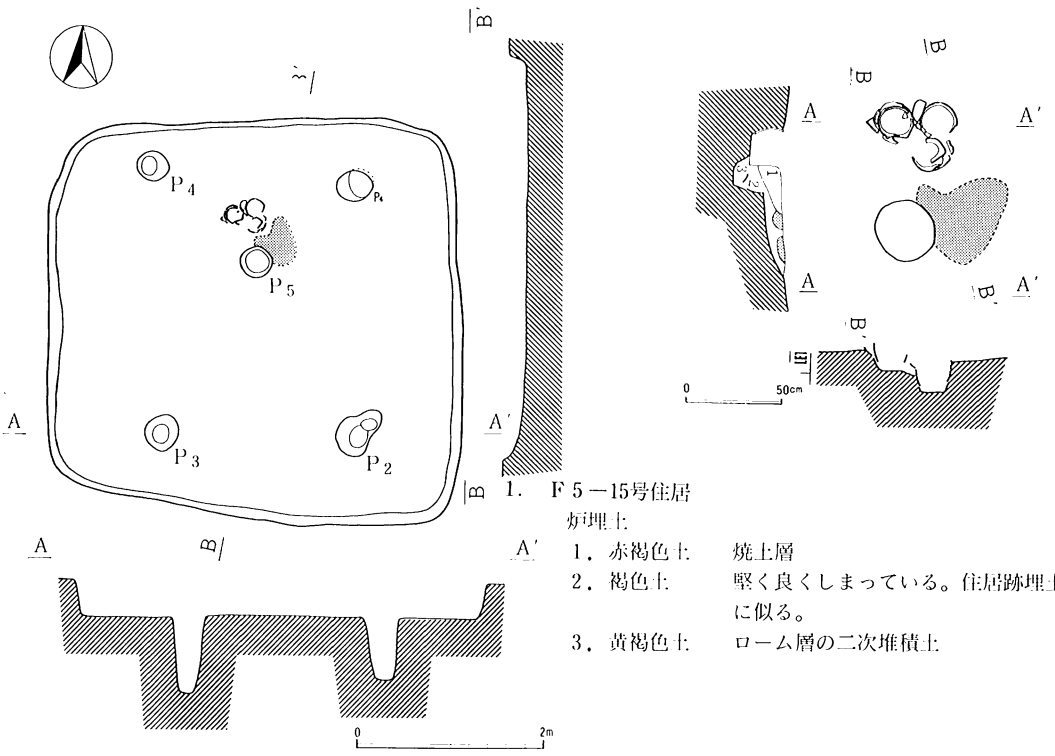
石切地区の南部、12×16m程の範囲の中に出土した。出土遺物は破片がほとんどである。浅間山C軽石（As-C）の純層が確認され、遺物はAs-Cの直上から一部はAs-Cに潜り込んだような状態で出土した。また、当初はAs-C下の水田の可能性も考慮したが、畦等の検出が無いこと、花粉分析によりイネ科の花粉が極めて少なかったこと、などから積極的に水田とするには根拠に乏しい状況である。(遺物観察表：p71、72)

(3)　蓄銭（図42・43、PL．12—3）

堤頭地区の南部、30号住居址の南、Bw－16グリッドで、ジョレン掻け作業中に出土した。

精査の結果、遺構は検出されず、僅かに銭の出土した地点が掘りくぼんでいただけであった。また、周辺からは甕等の容器の出土は無く、銭の中央には繊維質の縄様のものが一部で残存していた。採集できた銭の総数は884枚であった。

図5．検出された遺構 (1)



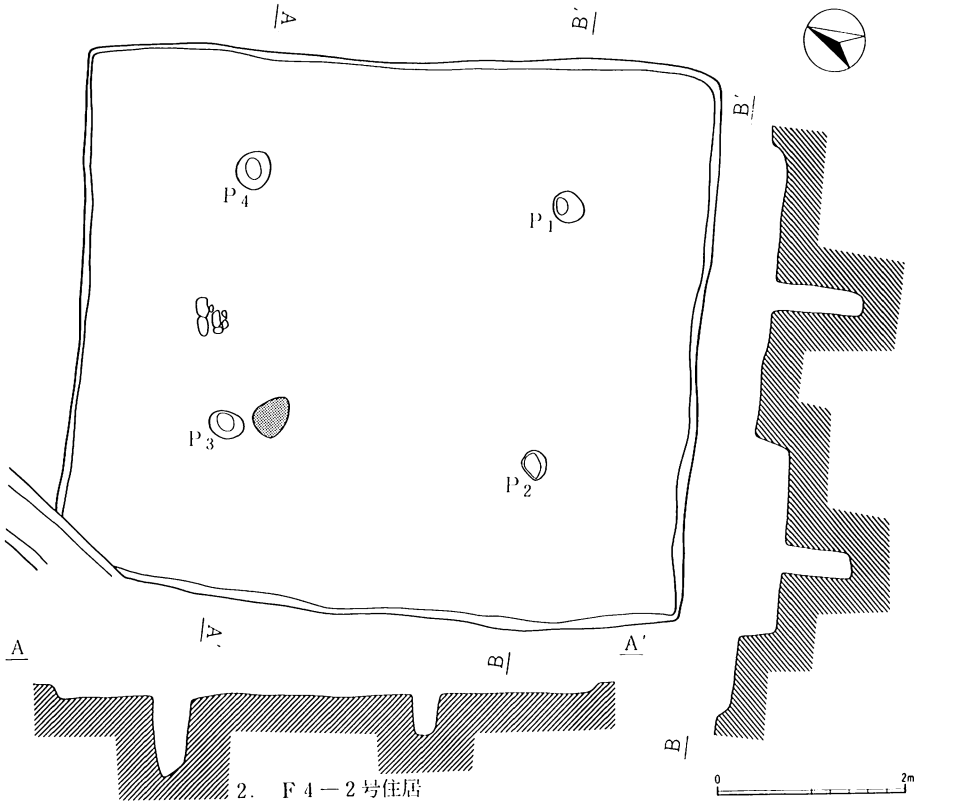
1．F5－15号住居

炉埋土

1．赤褐色土　焼土層

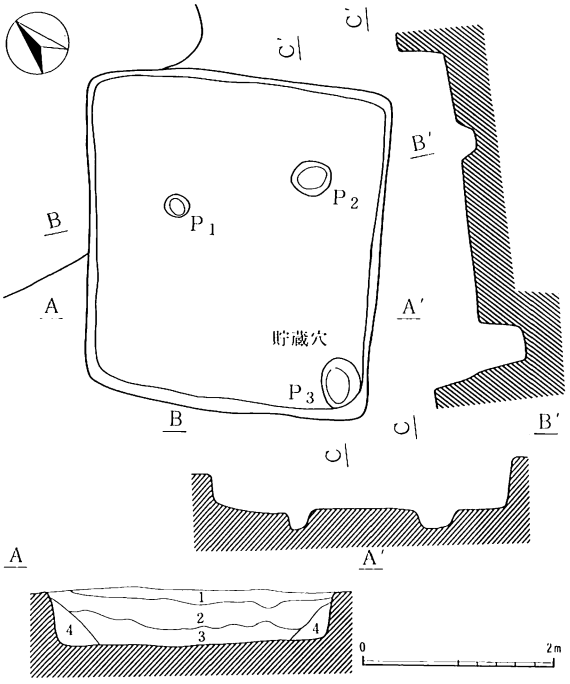
2．褐色土　堅く良くしまっている。住居跡埋土に似る。

3．黄褐色土　ローム層の二次堆積土



2．F4－2号住居

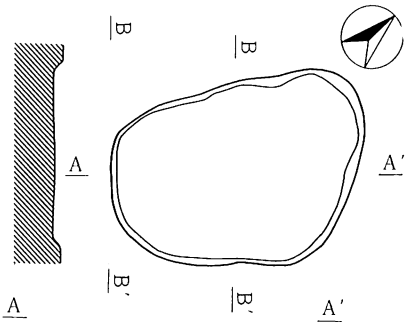
図6．検出された遺構 (2)

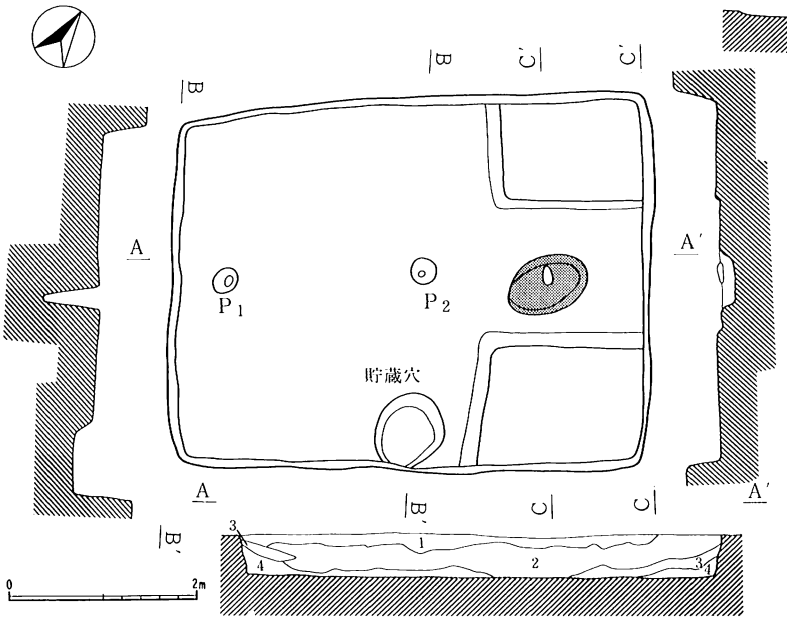


1．　F４－４号住居

住居埋土

1．暗褐色土　　浅間C軽石をかなり多量に含む。
2．黒褐色土　　粘性、しまり無し。炭化物粒を多く含む。浅間C軽石を僅かに含む。
3．茶褐色土　　地山の灰白色砂質土のブロック、炭化物粒、焼土粒を多く含む。
4．暗茶褐色土　灰白色砂質土粒、炭化物粒を含む。





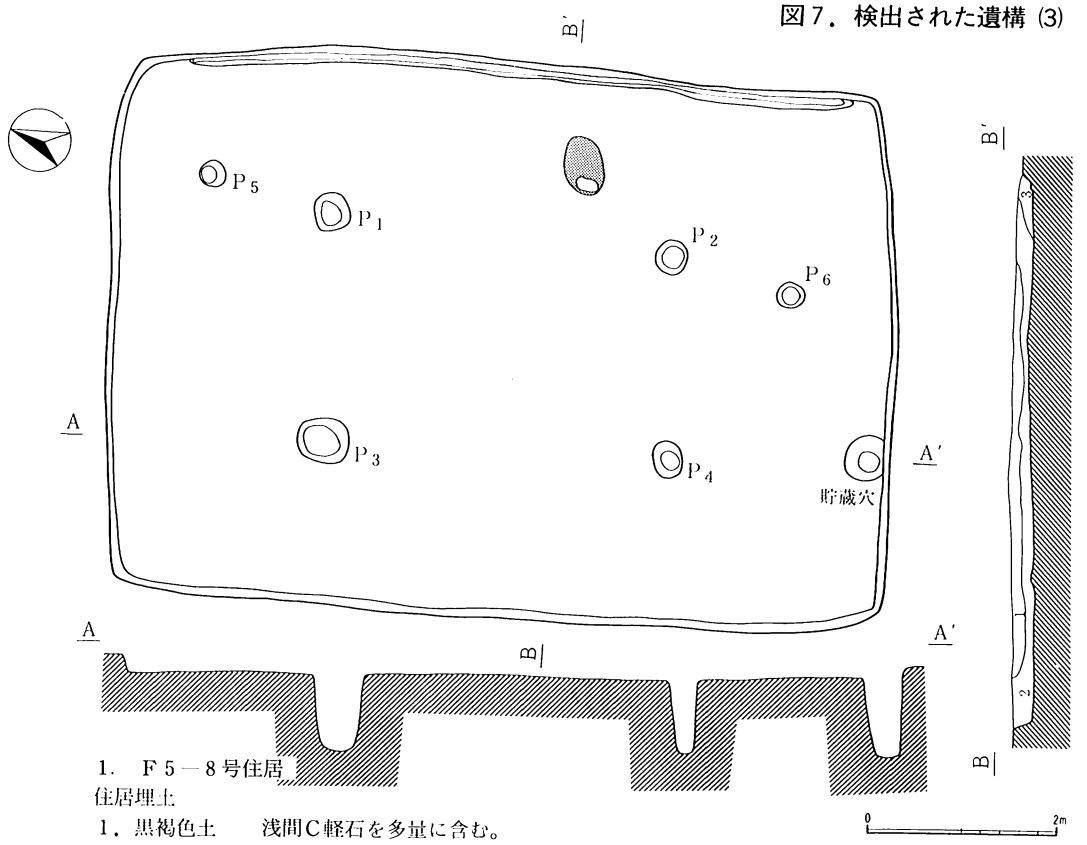
2．　F５－25号住居

3．　F４－13号住居

住居埋土

1．暗褐色土　　浅間C軽石をかなり多量に含む。
2．暗茶褐色土　浅間C軽石をほとんど含まない。灰白色砂質土ブロックを多く含む。
3．黒褐色土　　含有物をほとんど含まない。粘質が強い。
4．茶褐色土　　焼土粒、炭化物粒を若干含む。

図７．検出された遺構 (3)



1．　Ｆ５－８号住居

住居埋土

1．黒褐色土　　浅間Ｃ軽石を多量に含む。

2．暗褐色土　　浅間Ｃ軽石をほとんど含まない。１層に比べ粘性を増す。

3．暗褐色土　　含有物をほとんど含まない。

2．　Ｆ４－６号住居

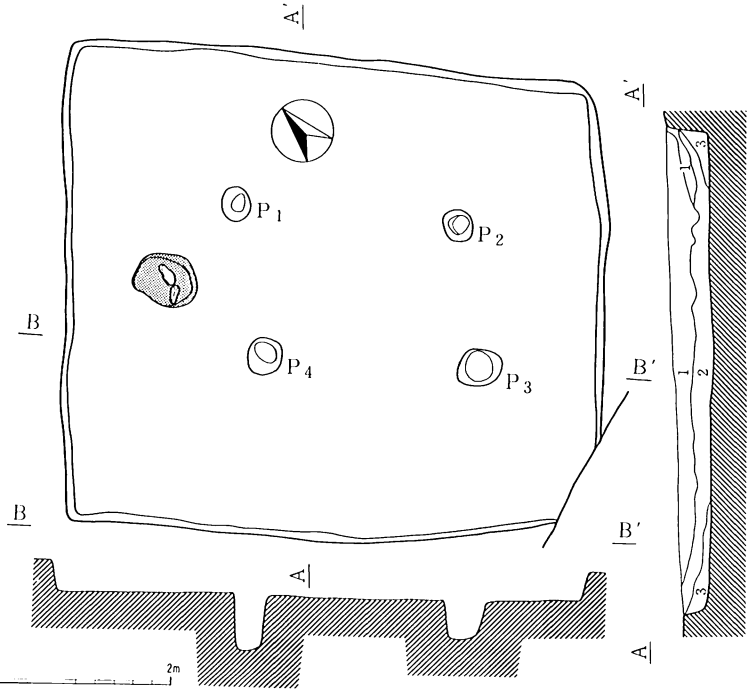
住居埋土

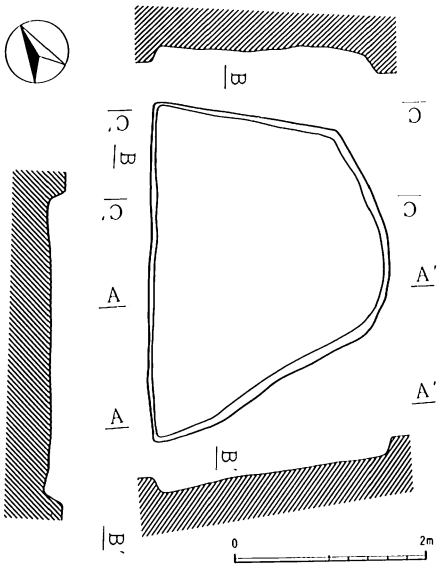
1．暗褐色土　　浅間Ｃ軽石をかなり多量に含み、部分的に浅間Ｃ軽石の純層を含む。

1′．褐色土　　１層よりやや明るさを増す。浅間Ｃ軽石を全く含まない。

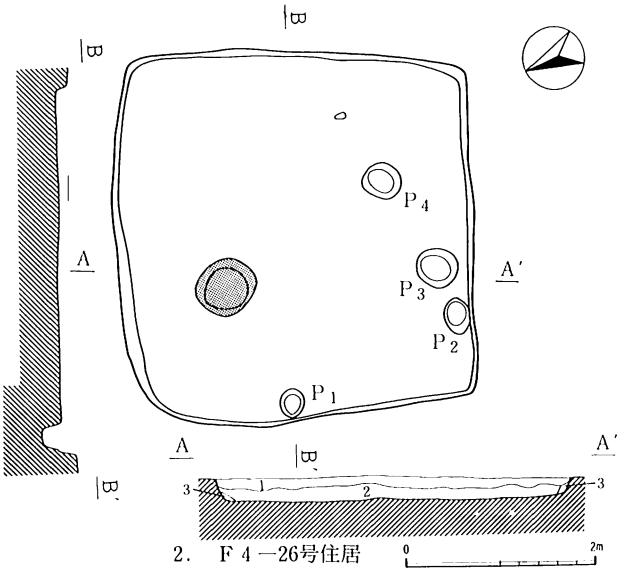
2．黒褐色土　　灰白色砂質土のブロックを含み、粘性を有する

3．茶褐色土　　２層に似るが、やや明るい。灰白色砂質土のブロックを含む。





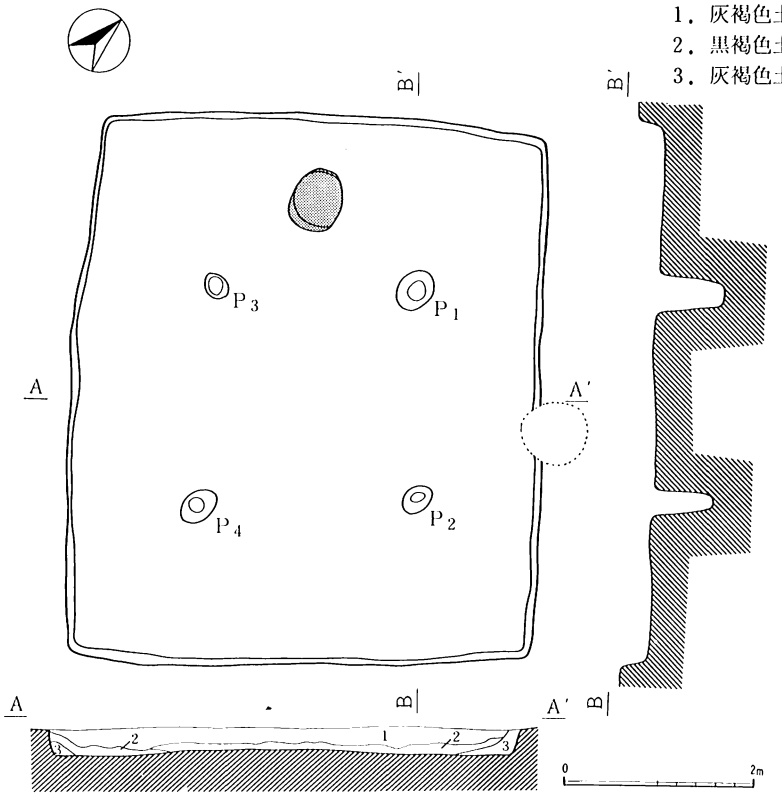
1．　F 4 －19号住居



2．　F 4 －26号住居

住居埋土

1．灰褐色土　　浅間C軽石を含む。
2．黒褐色土　　浅間C軽石をほとんど含まない。
3．灰褐色土　　地山の砂質土のほう崩落土。

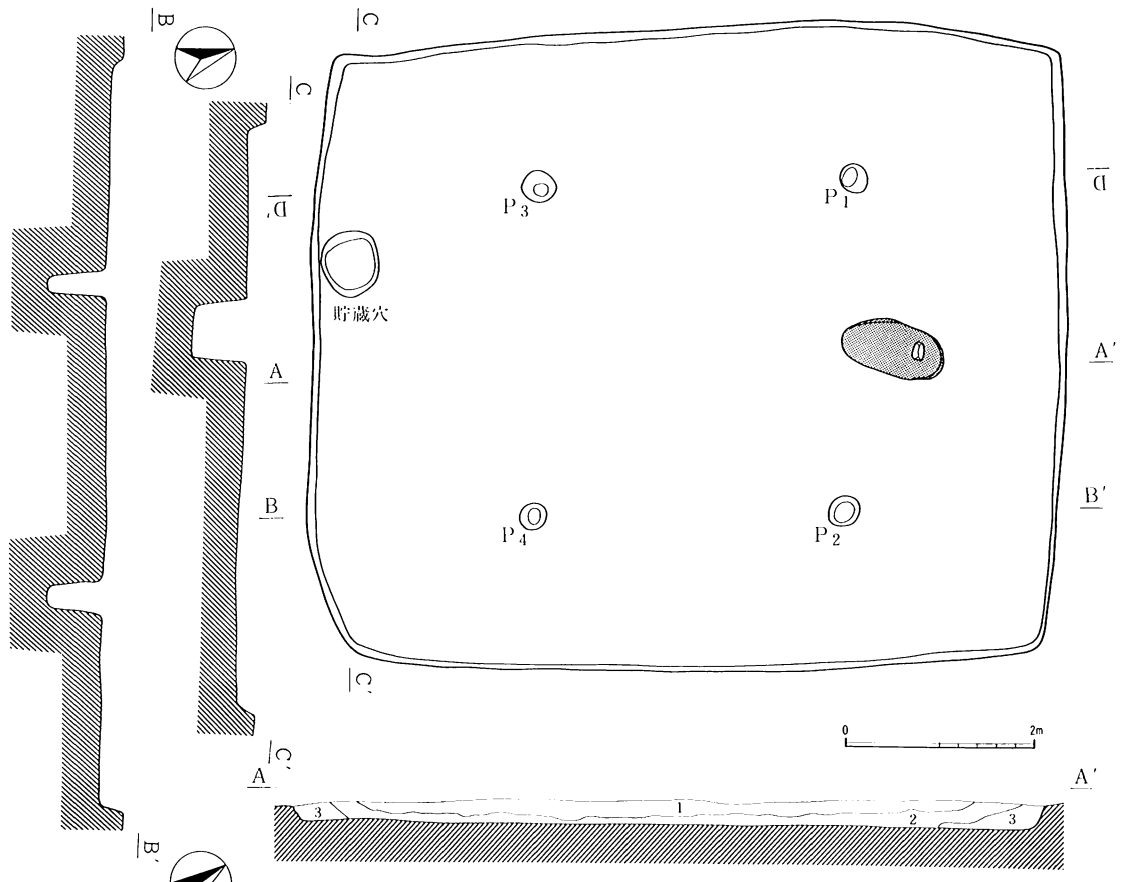


3．　F 4 －14号住居

住居埋土

1．暗茶褐色土　浅間C軽石をわずかに含む。灰白色砂質土粒を含む。
2．黒褐色土　　灰白色砂質土粒を含む。
2'．黒褐色土　　2層に似るが、焼土粒を含む。
3．暗褐色土　　含有物をほとんど含まない。

図9．検出された遺構 (5)



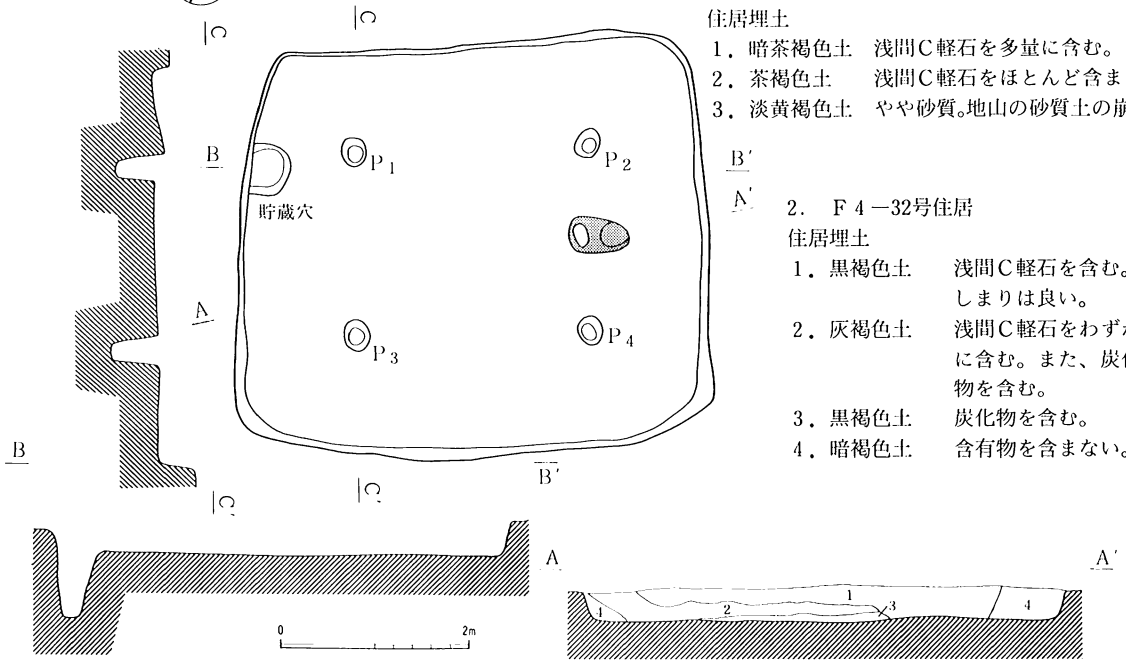
1．Ｆ４－16号住居

住居埋土

1．暗茶褐色土　浅間Ｃ軽石を多量に含む。

2．茶褐色土　浅間Ｃ軽石をほとんど含まない。

3．淡黄褐色土　やや砂質。地山の砂質土の崩落土。



2．Ｆ４－32号住居

住居埋土

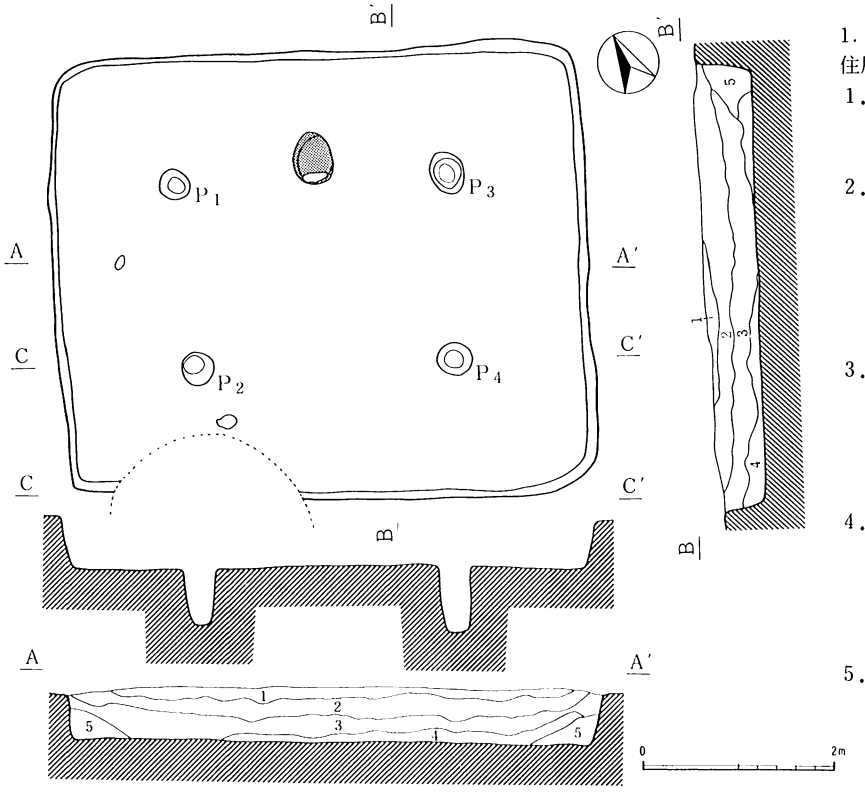
1．黒褐色土　浅間Ｃ軽石を含む。しまりは良い。

2．灰褐色土　浅間Ｃ軽石をわずかに含む。また、炭化物を含む。

3．黒褐色土　炭化物を含む。

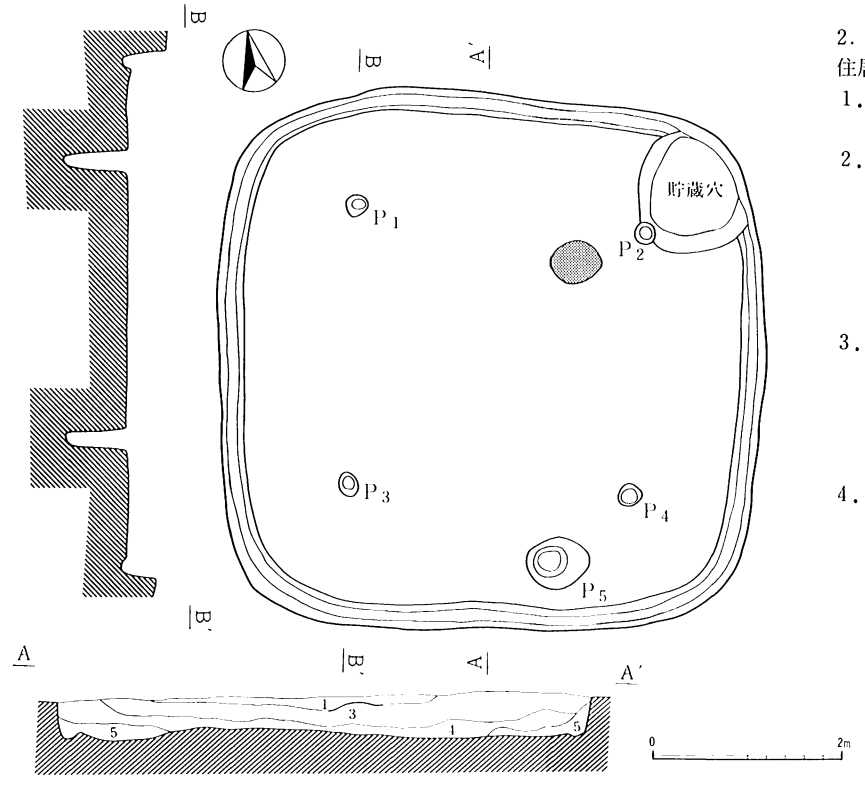
4．暗褐色土　含有物を含まない。

図10．検出された遺構 (6)



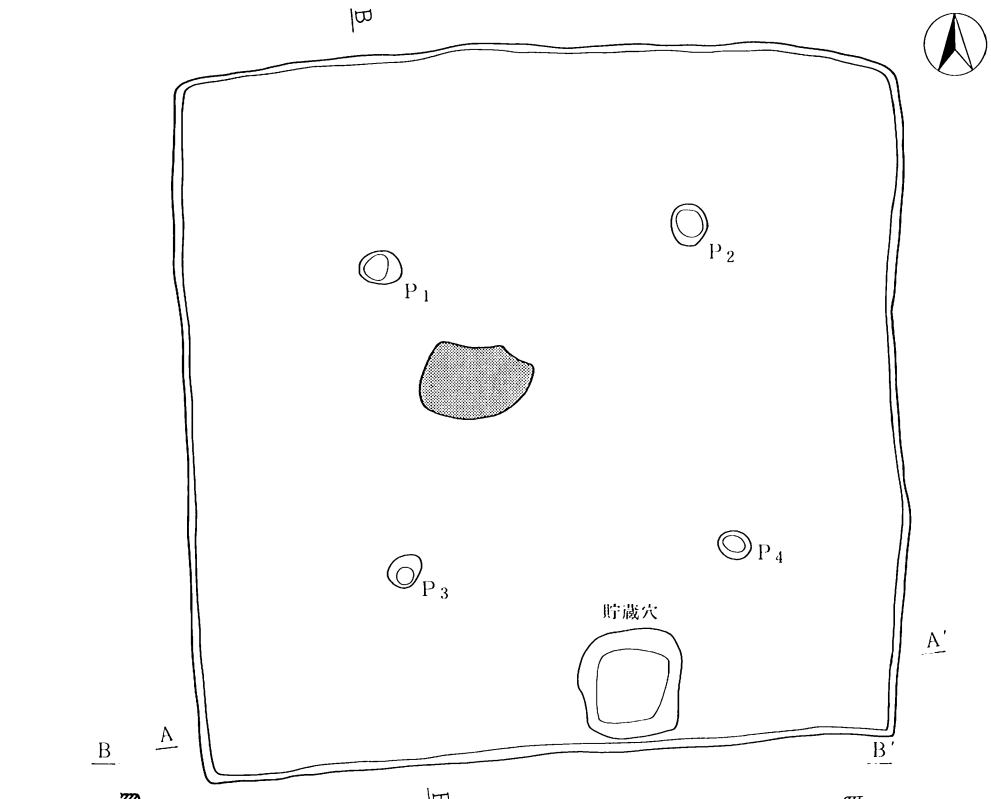
1．　F４－28号住居
住居埋土

1．黒褐色土	浅間C軽石を含む。しまりは良い。
2．暗褐色土	1層より更に浅間C軽石を多く含む。ブロック状に浅間C軽石の純層を含む。
3．褐色土	浅間C軽石をわずかに含む。1、2層に比べやや粘性を増す。
4．茶褐色土	灰白色土砂質土のブロックを含む。また、大きな炭化物を含む。
5．黒褐色土	含有物をほとんど含まない。

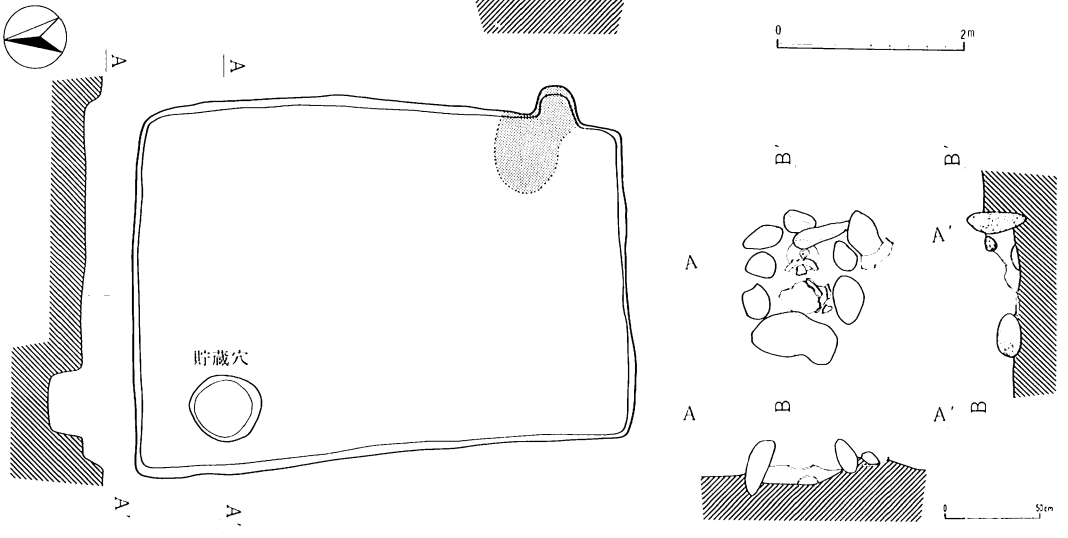


2．　F５－１号住居
住居埋土

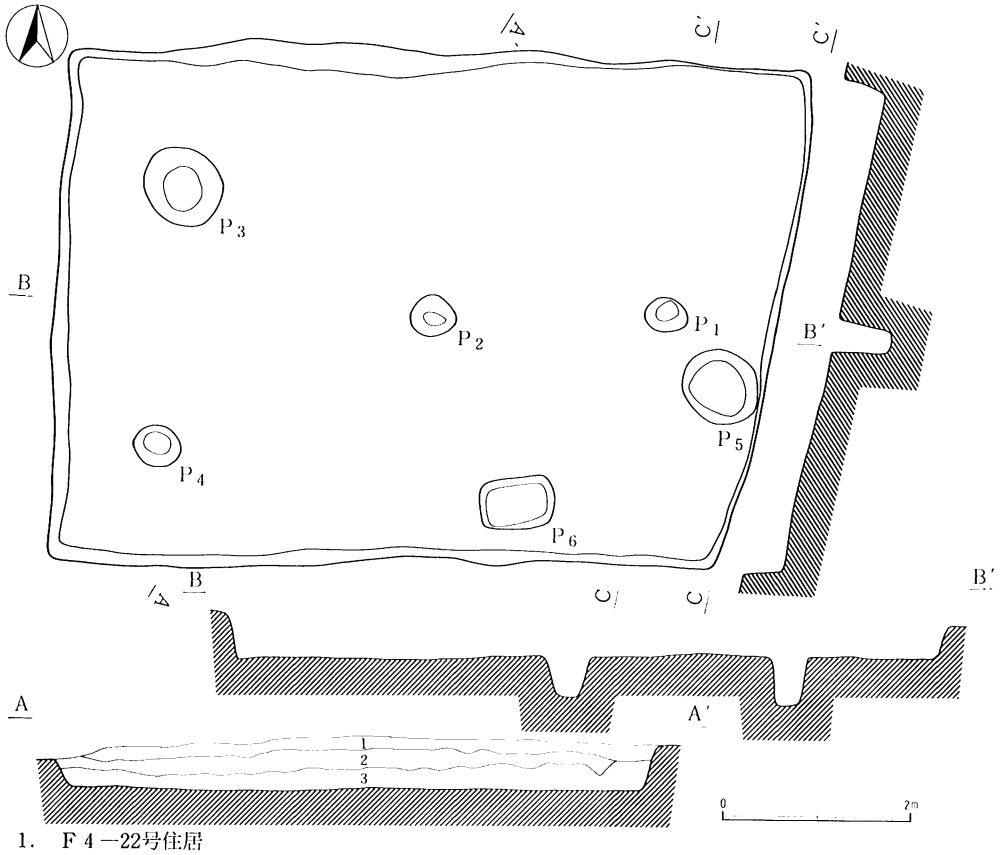
1．灰褐色土	浅間B軽石を含む。
2．黒色土	いわゆる浅間C軽石混じり黒色土。上部にわずかに榛名二ッ岳軽石粒を含む。
3．暗褐色土	浅間C軽石を含む。また、焼土粒、炭化物粒を多量に含む。
4．黄褐色土	浅間C軽石を含む。



1．　F 4 —12住居



2．　F 4 —17号住居



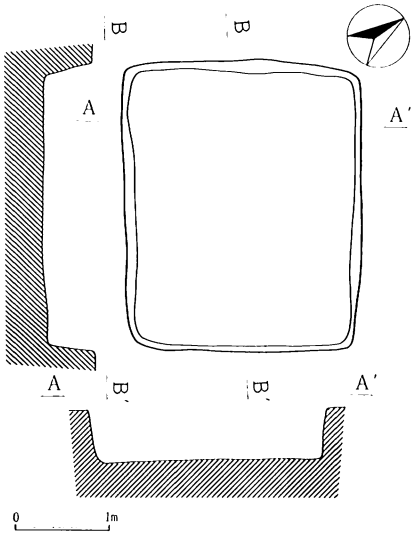
1．　F４－22号住居

住居埋土

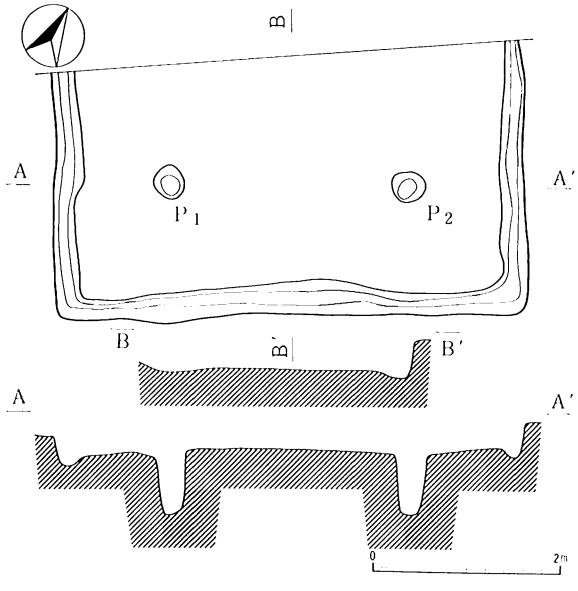
1．灰褐色土　　粘性、しまりなく、サラサラしている。

2．暗褐色土　　榛名二ッ岳軽石、浅間Ｃ軽石を含む。

3．茶褐色土　　浅間Ｃ軽石を含む。粘性が強い。

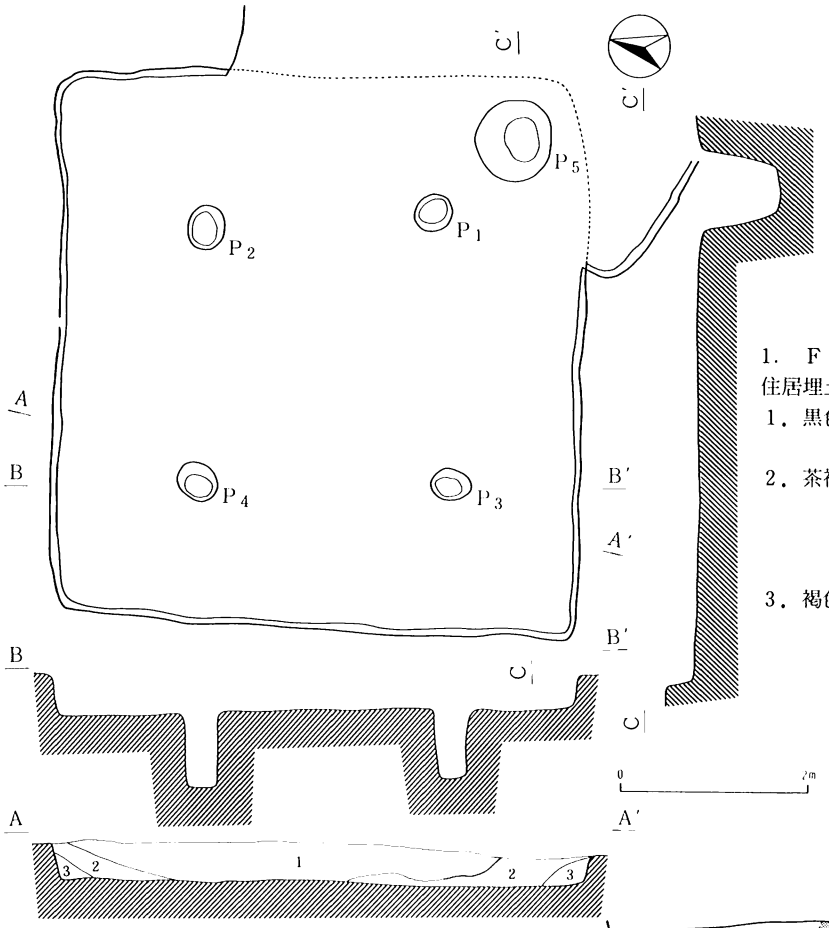


2．　F４－７号住居



3．　F４－２号住居

図13．検出された遺構（9）



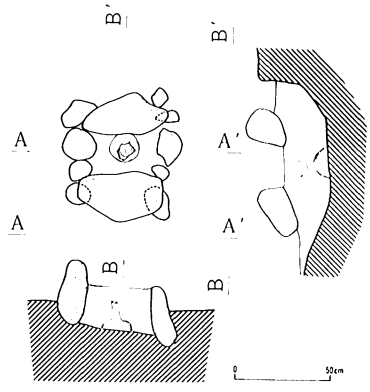
1．　F５－18号住居

住居埋土

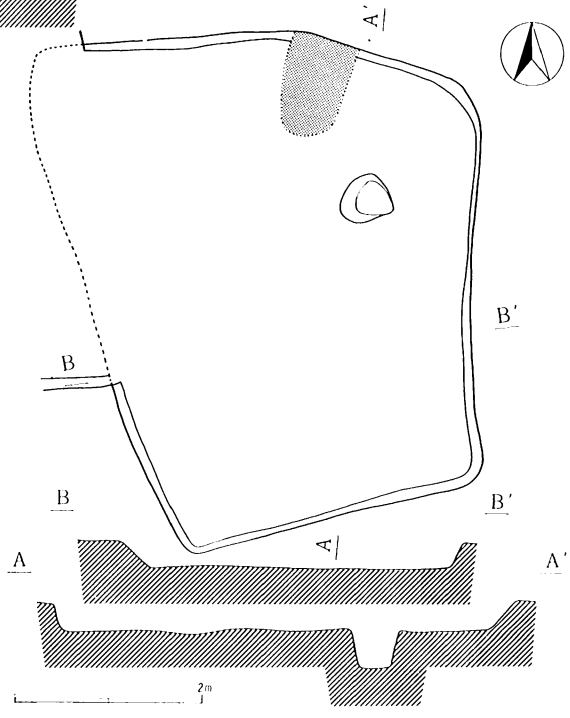
1．黒色土　　榛名二ッ岳軽石粒を含む。

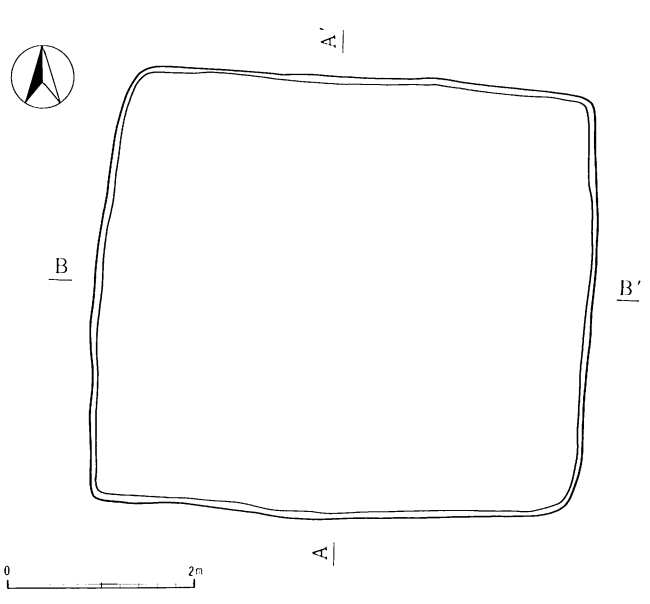
2．茶褐色土　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒、ローム粒を含む。

3．褐色土　　含有物を含まない。

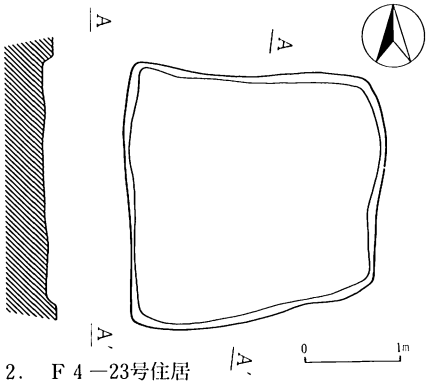


2．　F４－11号住居

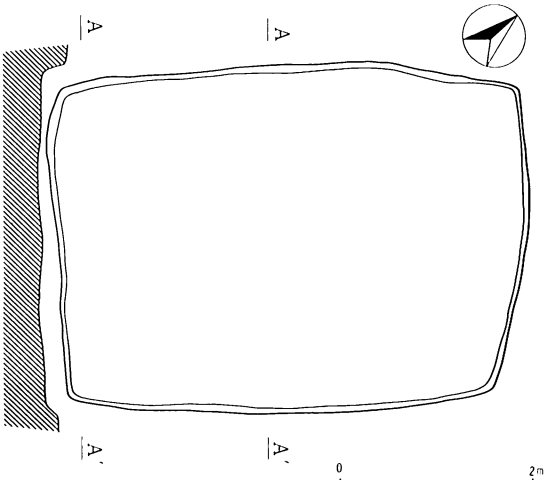




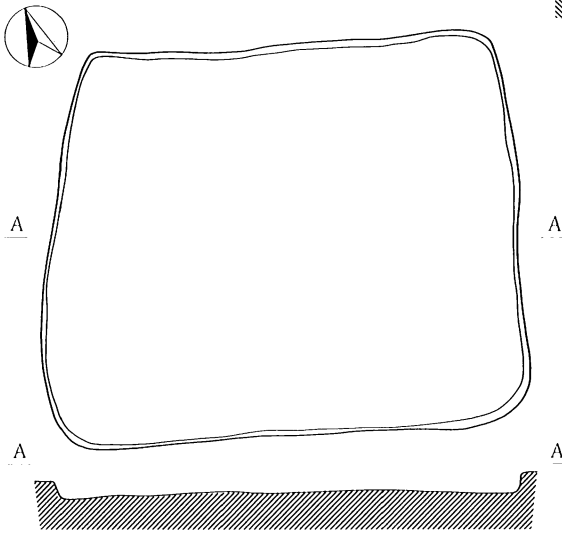
1. F 5 —14号住居



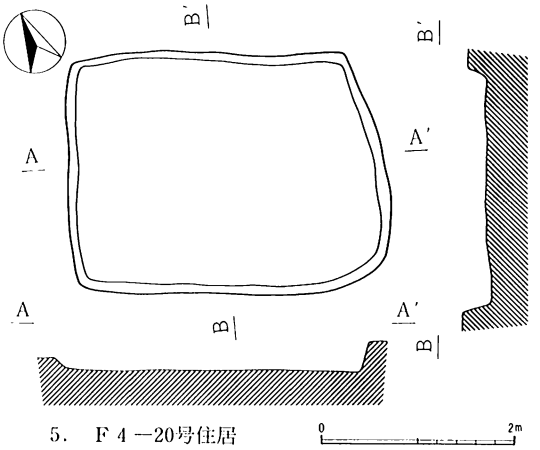
2. F 4 —23号住居



4. F 5 — 43号住居

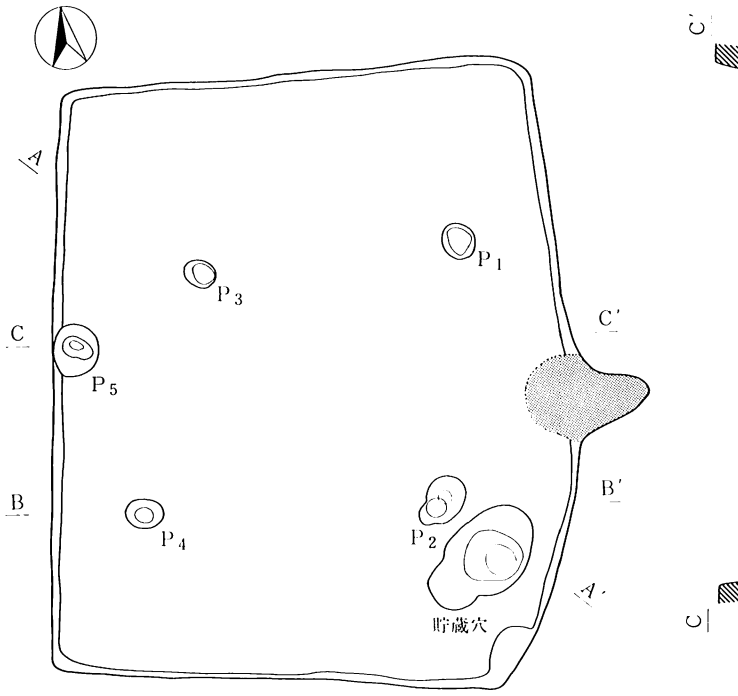


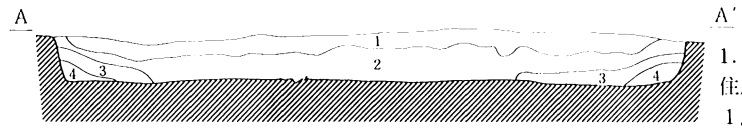
3. F 4 —30号住居



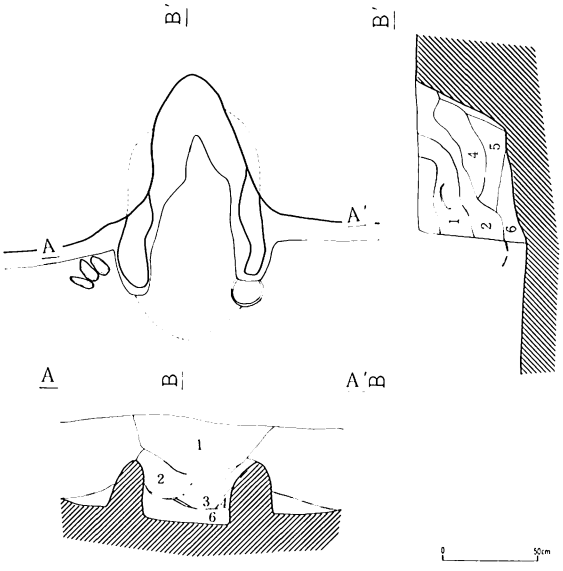
5. F 4 —20号住居

図15. 検出された遺構 (11)

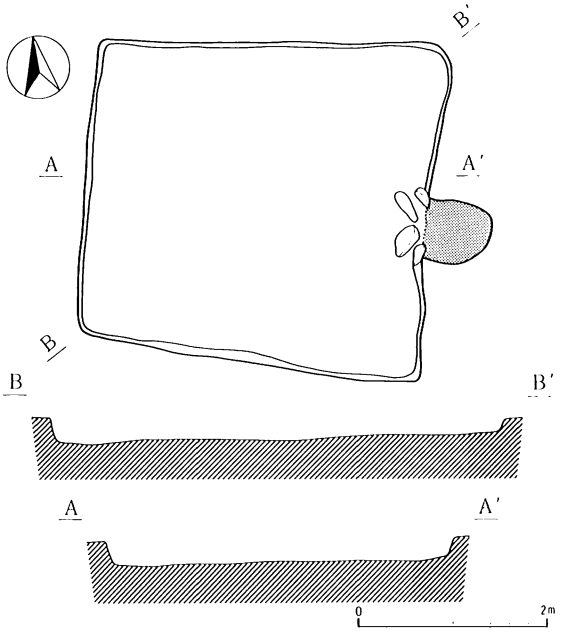


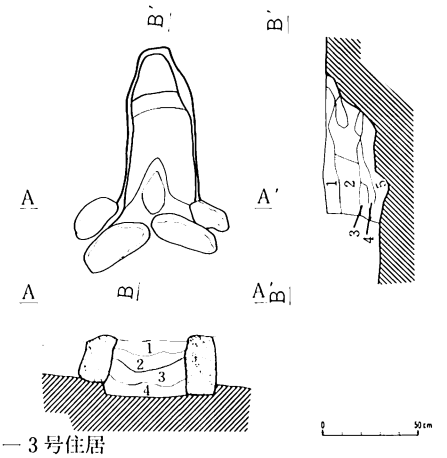


1. F4－18号住居
住居埋土
1．暗灰褐色土　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒を含む。
2．茶褐色土　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒を含む。1層に比べ粘性を有し、しまりが良い。
3．黒色土　浅間C軽石粒、焼土粒を含む。特に、炭化物を多く含む。
4．灰褐色土　含有物をほとんど含まない。



2. 同
カマド埋土
1．灰褐色土　灰白色粘土ブロックを含む。
2．黒褐色土　灰白色粘土ブロック、炭化物を多く含む。
3．黄褐色土　焼土粒を含む。
4．灰色土　焼土粒、炭化物粒を含む。灰層。
5．暗灰褐色土　焼土粒、炭化物粒を4層より多く含む。
6．暗灰褐色土　4層に似るが、やや暗い。

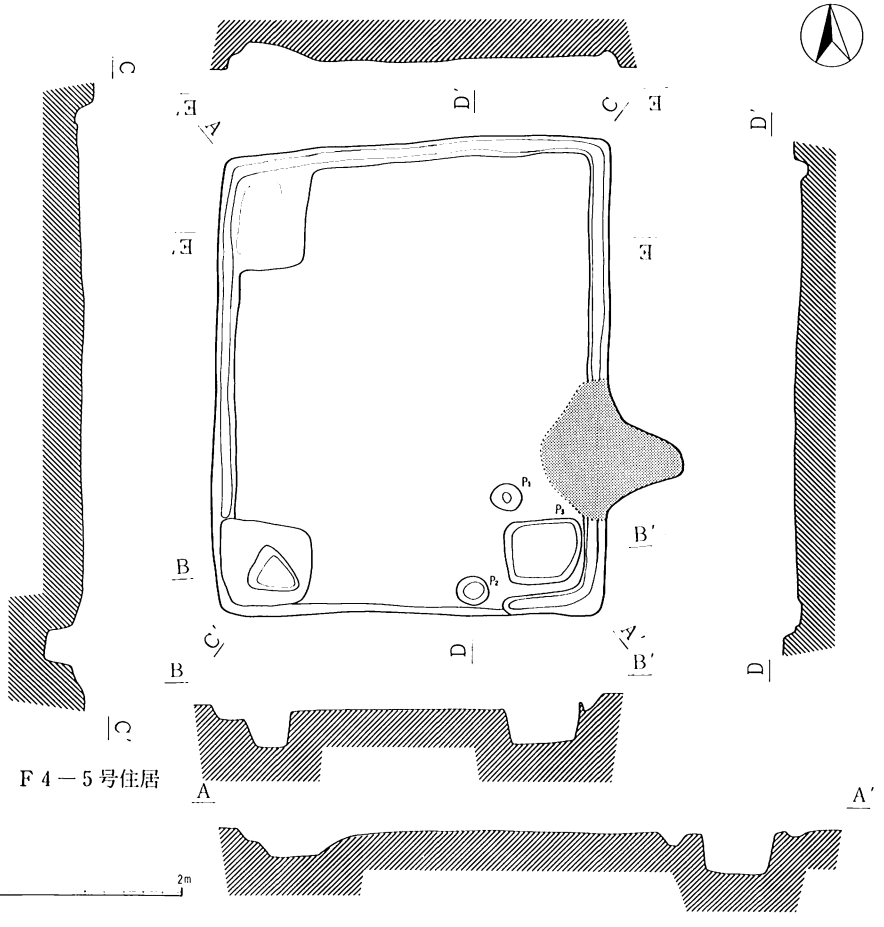




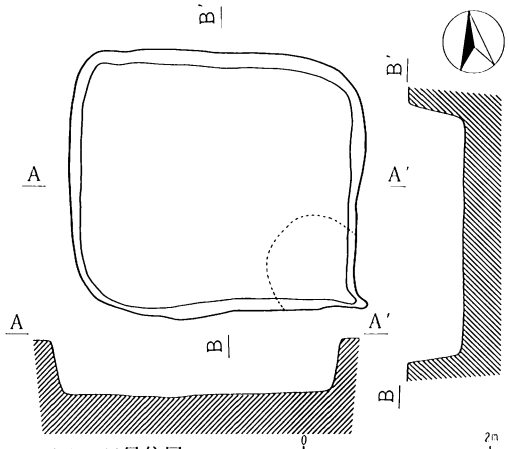
1．　F４－３号住居

カマド埋土

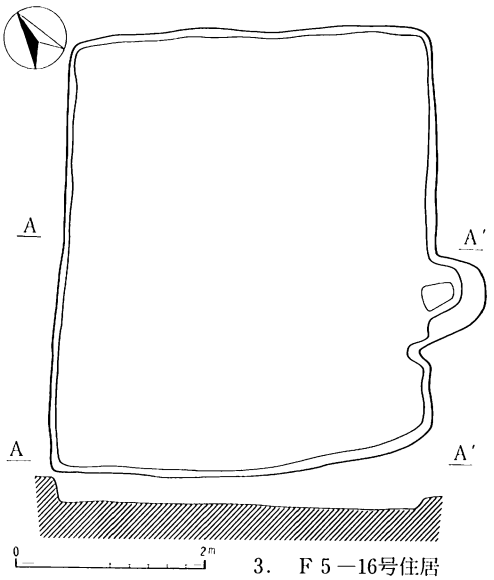
1．灰褐色土　　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒を含む。
2．灰白褐色土　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒を含む。
　　さらに、焼土粒を多く含む。粘土質である。
3．赤褐色土　　焼土層
4．灰色土　　灰層である。
5．黒褐色土　　焼土粒、炭化物を多く含む。



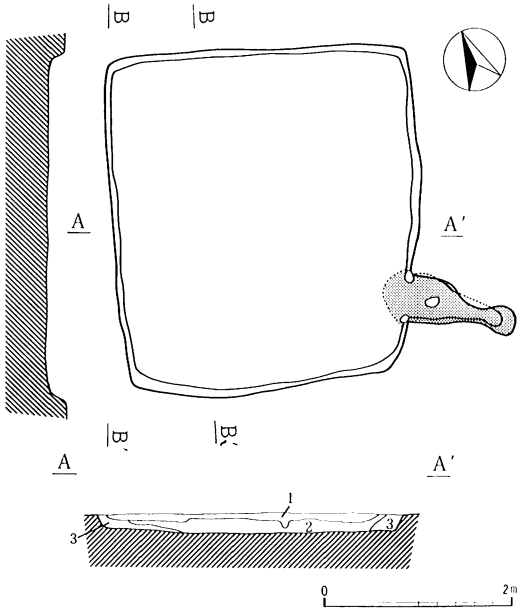
2．　F４－５号住居



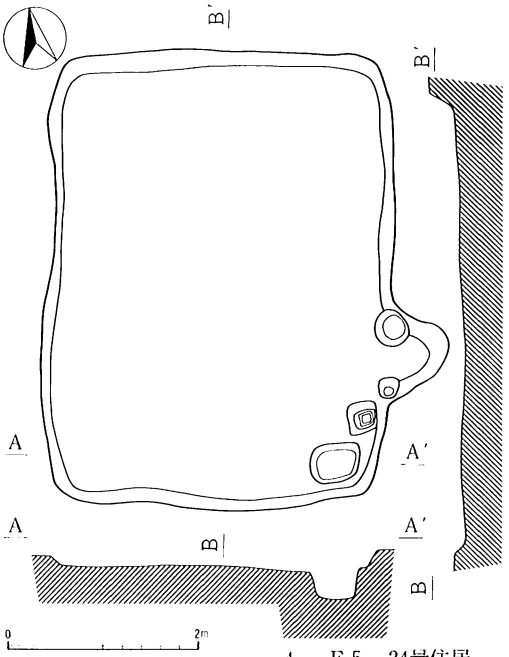
1．F５－11号住居



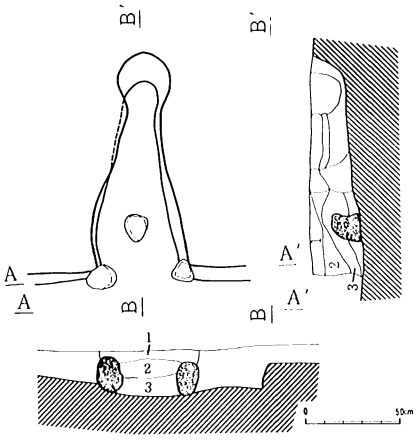
3．　F５－16号住居



2．　F４－24号住居



4．　F５－24号住居

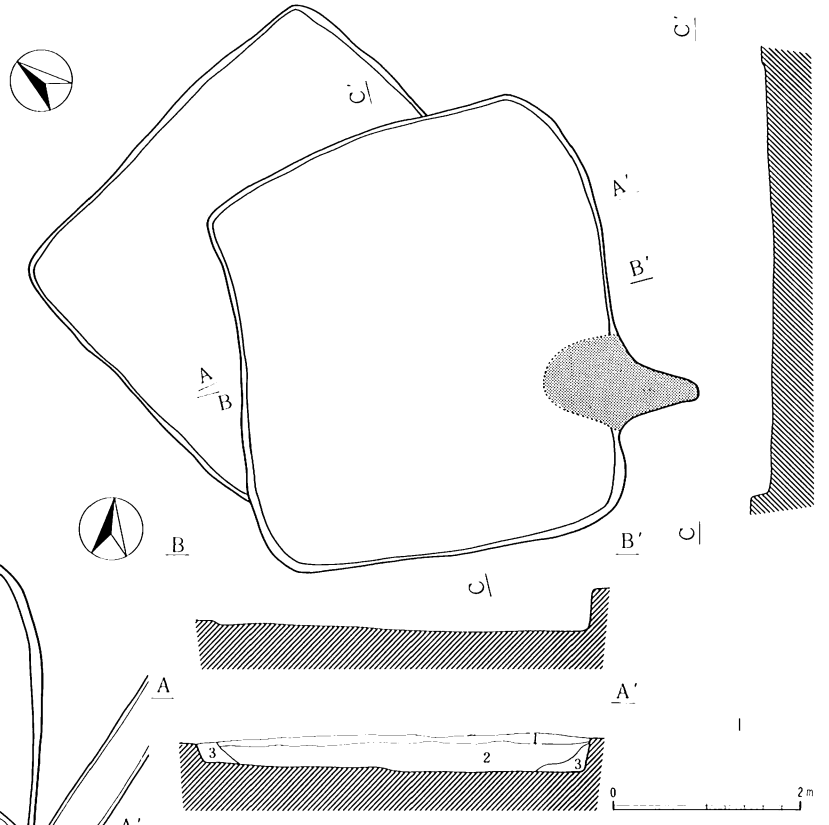


住居埋土

1．灰色砂質土　浅間B軽石と考えられる。
2．暗褐色土　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒、炭化物を含む。
3．黄褐色　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒、炭化物を含む。

同．カマド埋土

1．黒褐色土
2．灰褐色土　粘土質。焼土粒、炭化物粒を若干含む。
3．暗灰褐色土　焼土粒を含む。



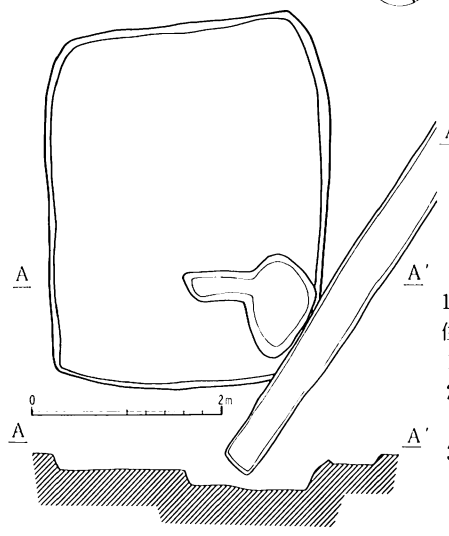
1．　F 4 —25号住居

住居埋土

1．灰褐色土　　浅間B軽石の純層を含む。

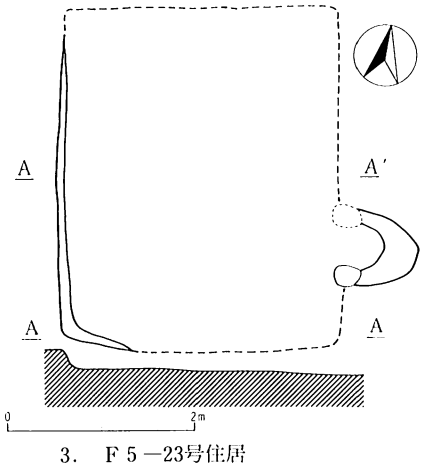
2．褐色土　　灰白色砂質土ブロック、榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒を含む。

3．茶褐色土　　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒を含む。



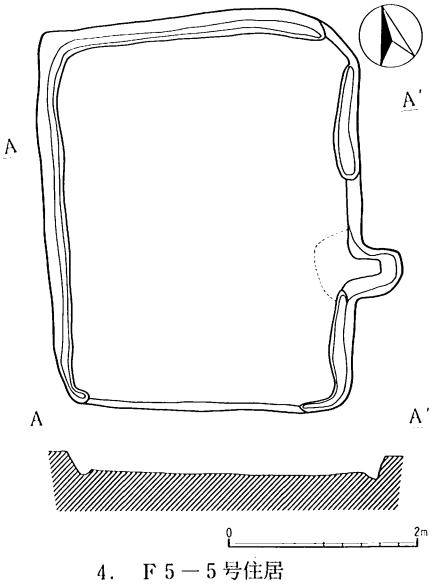
2

2．　F 4 —15号住居



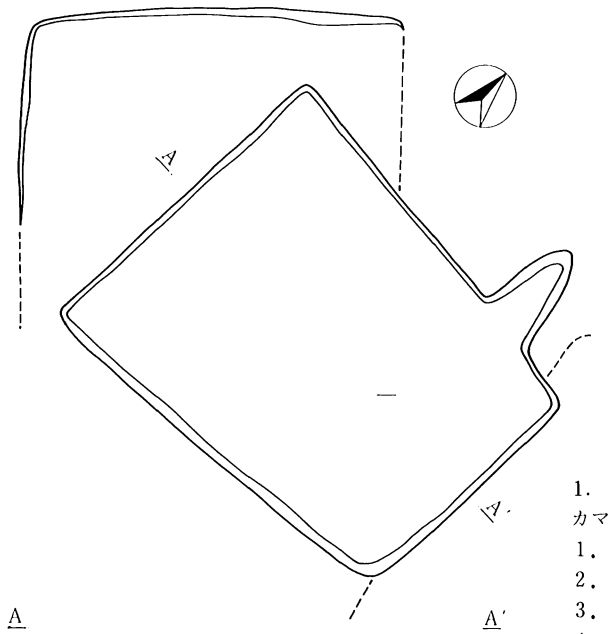
3

3．　F 5 —23号住居



4

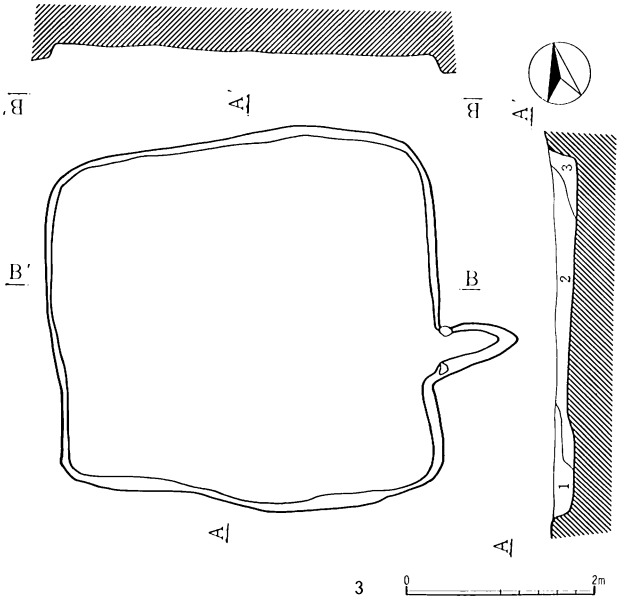
4．　F 5 — 5 号住居



1．　F４－10号住居

カマド埋土

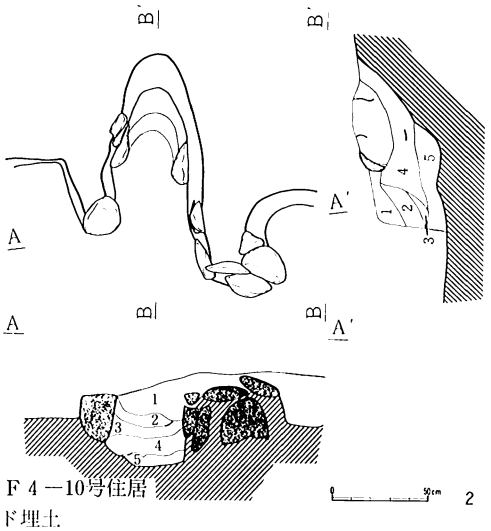
1．灰褐色土　　焼土粒、炭化物粒を含む。
2．灰白色土　　粘土層である。
3．暗灰褐色土　炭化物粒を多く含む。
4．茶褐色土　　焼土粒を多く含む。
5．茶褐色土　　４層に比べ、焼土粒の量が少ない。

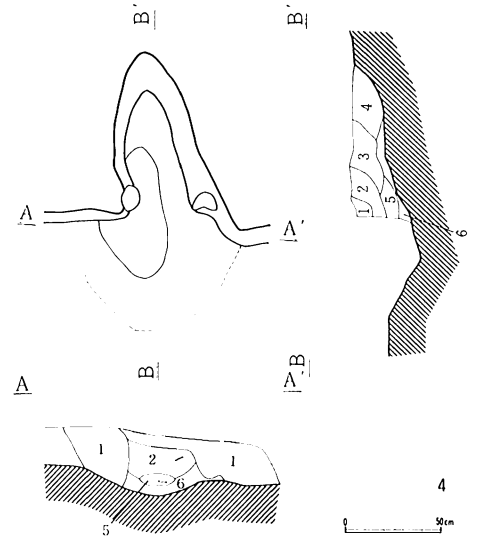


2．　F５－２号住居

住居埋土

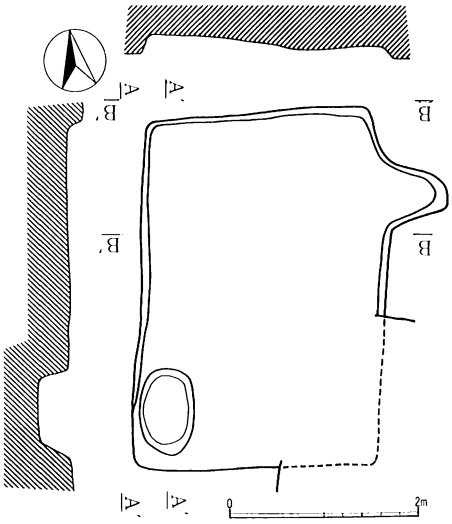
1．灰褐色土　　浅間Ｂ軽石粒を多く含む。
2．黒褐色土　　榛名二ッ岳軽石粒、浅間Ｃ軽石粒、炭化物粒、焼土粒を含む。
3．茶褐色土



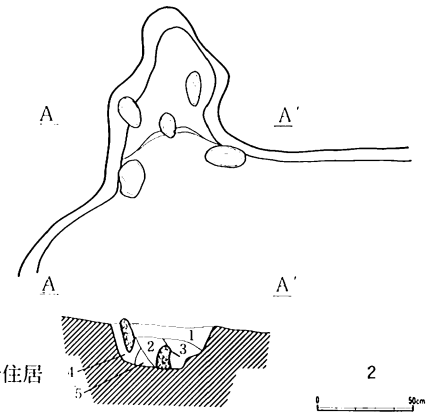


カマド埋土

1．暗褐色土
2．灰褐色土　　炭化物粒、焼土粒を含む。
3．明褐色土　　炭化物粒、焼土粒を含む。
4．明褐色土　　炭化物粒、焼土粒を含まない。
5．赤褐色土　　焼土層
6．灰褐色土　　２層に似るが、炭化物粒、焼土粒を含まない。



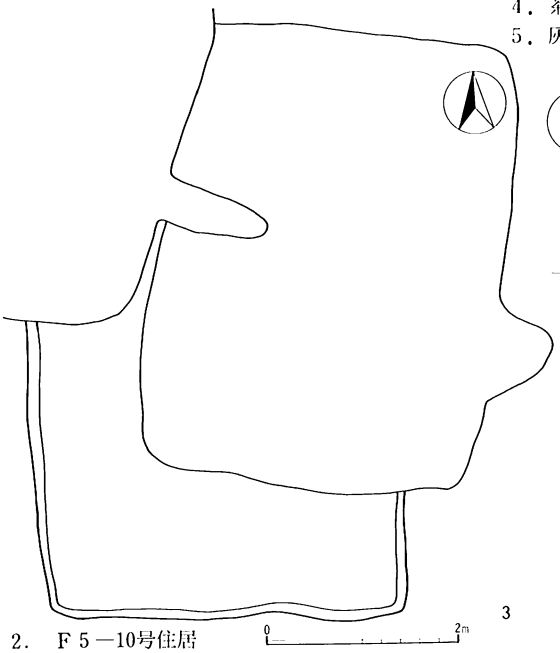
1．　F５－６号住居



2

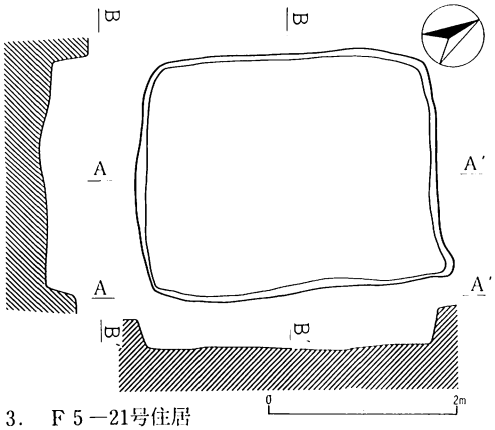
カマド埋土

1．暗褐色土　　焼土粒を含む。
2．褐色土　　1層より明るさを増す。
3．赤褐色土　　焼土粒を多く含む。
4．茶褐色土
5．灰白色土　　砂質土



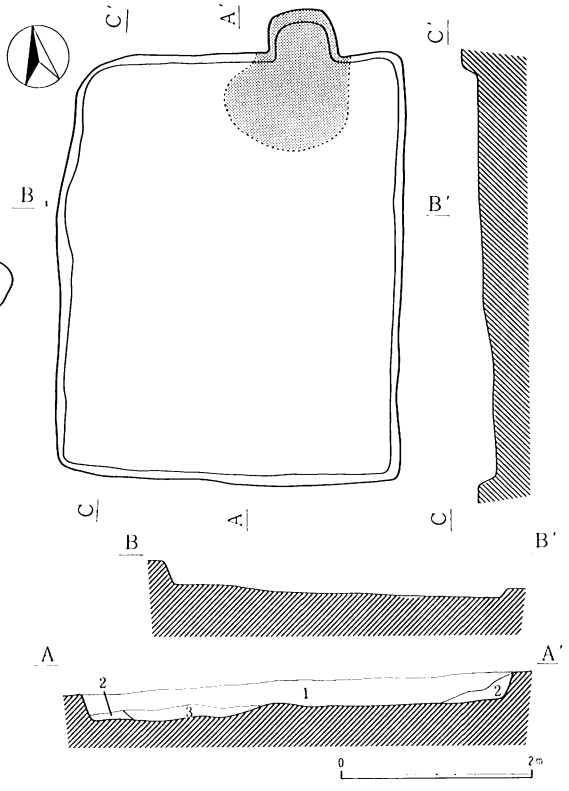
3

2．　F５－10号住居



4

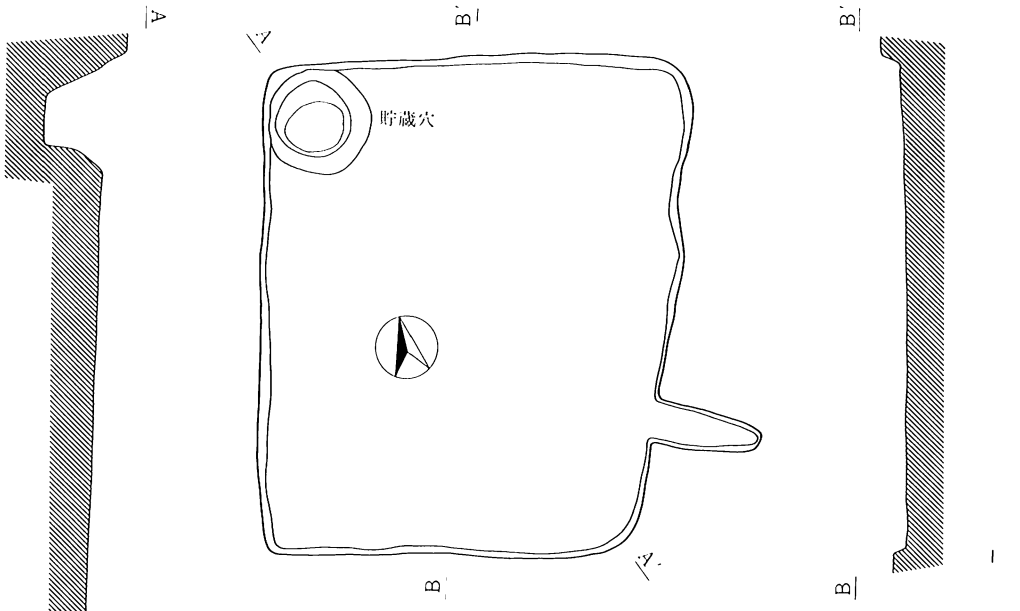
3．　F５－21号住居



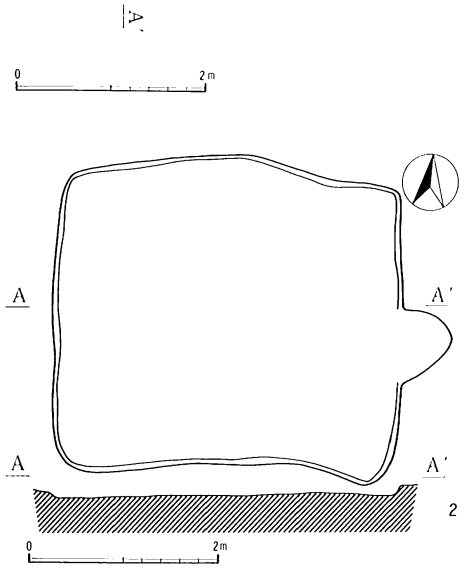
4．　F５－７号住居　　5

住居埋土

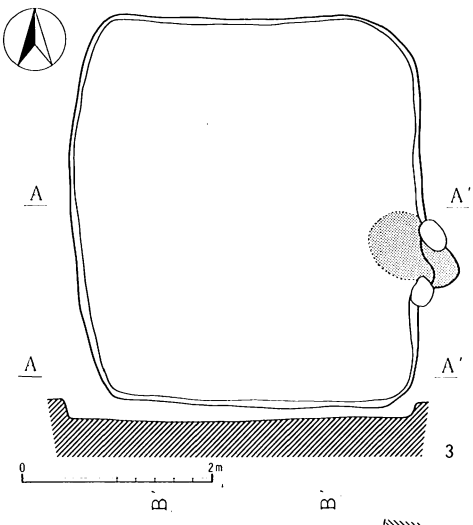
1．灰褐色土　　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒を含む。
2．黒褐色土　　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒を含まない。
3．茶褐色土　　榛名二ッ岳軽石粒、浅間C軽石粒、炭化物粒を含む。

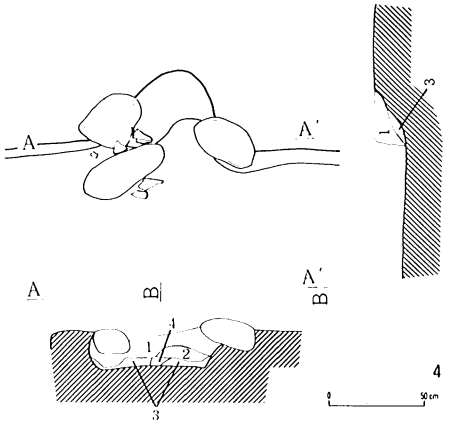


1．　F５－９号住居



2．　F５－３号住居

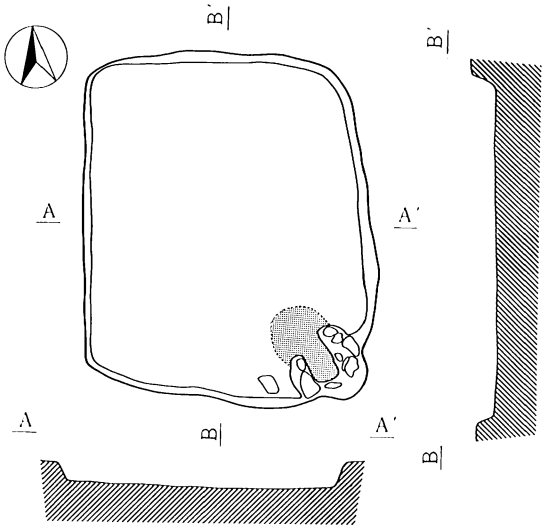


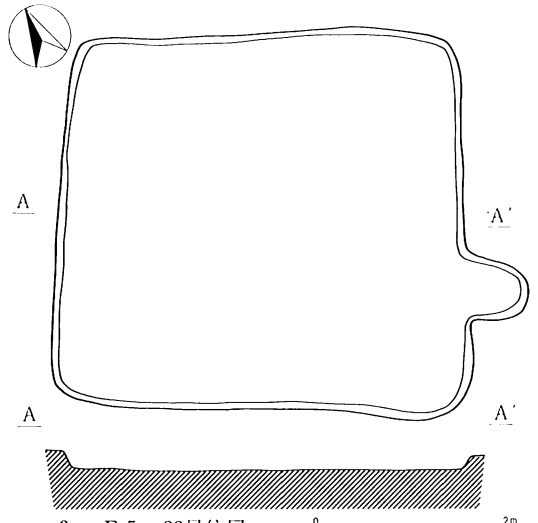


3．　F５－19号住居

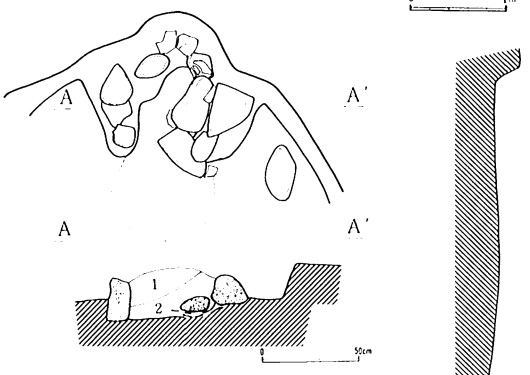
カマド埋土

1．灰褐色土　　ローム粒を含む。
2．暗褐色土
3．明褐色土　　焼土粒、焼土ブロックを多く含む。
4．黄褐色土　　ロームブロック

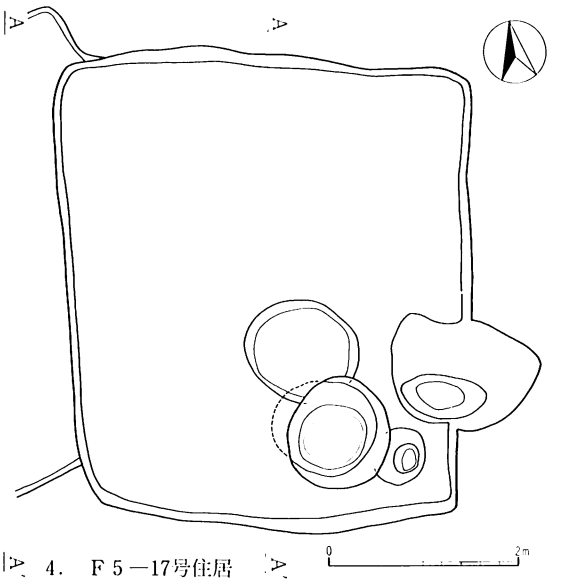




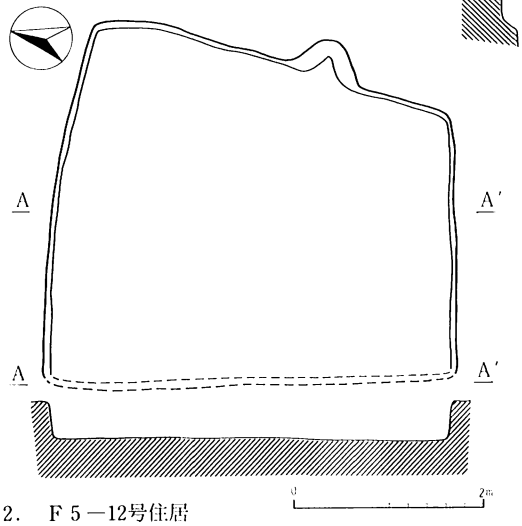
3．　F 5 —22号住居



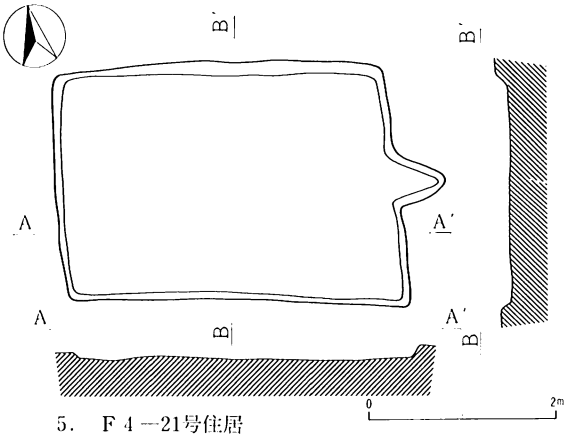
1．　F 5 —20号住居
カマド埋土
1．茶褐色土
2．茶褐色土　　ローム粒、焼土粒を含む。



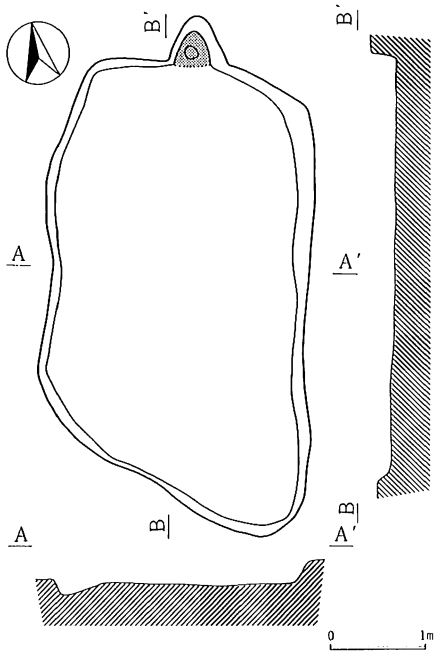
4．　F 5 —17号住居



2．　F 5 —12号住居



5．　F 4 —21号住居



F 4 — 31号住居

遺物観察表

Ｆ５－15号住居址出土遺物観察表（図24、ＰＬ．２）

土　器

（単位：cm）

番号	器　形	法　量	器　形　・　文　様　の　特　徴	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
1	深　鉢	口 22.5	口縁部は４単位の波状口縁で大きく外反する。胴部は僅かに張る。底部は欠損。文様は口縁部から胴部にかけてＲＬ縄文が全面にほどこされている。口縁波状部の口唇部下1.7cmには、直径１cmの円孔が焼成前に穿孔されている。	①赤褐色②良好堅緻③1/3④精選、砂礫を含む。
2	深　鉢		胴部破片。口縁部に向かって外反し、胴部はやや張る。ＬＲ縄文を上半部では横位に下半部では斜位に施文している。内面の調整は、器形が外反する付近から上部では横方向の、下部では縦方向のミガキが丁寧になされている。	①淡褐色②良好③胴部1/3④砂礫を含む。⑤一部に炭化物の付着が見られる。
3	深　鉢		胴部破片。胴上半部に向かってやや外反する。文様はＲＲ縄文を全面に施文する。胴中位以下にはヘラ状工具による刺突文が２段施されている。刺突文の間には縄文は認められない。	①淡褐色②良好③胴部1/3④砂粒を含む。
4	深　鉢		口縁部破片。４単位の波状口縁で、外反する。胴部は膨らみを持つ。文様は器面全面にＲＬ縄文を施文する。口唇部にはヘラ状工具による刻みが施される。	①褐色②良好③口縁部2/5④砂粒を含む。
5	深　鉢		胴部破片。直線的に開く器形。文様は全面にＬＲ縄文を施文する。	①淡褐色②良好やや軟らかい。③胴部1/2④砂粒を多く含む。⑤埋甕
6	深　鉢		口縁部、底部を欠損。底部から胴上半部まで緩やかに開き、上半部で内湾する。文様は器面全体にＲＬ縄文を斜位に施文し、口縁部から円形竹管文を垂下させている。円形竹管文は７単位施されている。	①赤褐色②良好③胴部のみ3/5④精選砂粒を含む。⑤埋甕
7	深　鉢	底 14.5	底部破片。胴部はやや内湾しながら立ち上がる。文様は半裁竹管による平行条線とヘラ状工具による連続爪形文が施文されている。	①赤褐色②良好③底部1/2④精選。赤褐色のスコリア粒を含む。

石　器

番号	器　種	大　き　さ	石　質	形　状　・　調　整　加　工　の　特　徴
8	打製石斧	長11.65　幅 3.6 厚 1.65	安　山　岩	先端部が尖る。両側縁には刃潰しが見られる。表面には原礫面を大きく残す。基部の一部を欠損する。
9	凹　石	長10.65　幅 8.3 厚 4.5	輝石安山岩	偏平な円礫を使用している。表裏両面中央にくぼみ穴がみとめられる。側縁には細かな敲打痕がみられる。
10	凹　石	長 9.65　幅 8.8 厚 4.45	輝石安山岩	偏平な円礫を使用している。くぼみ穴は、表裏両面に認められる。一部を欠損している。
11	削　器	長 5.45　幅 4.5 厚 5.8	頁　　岩	横長の削器の一部と考えられる。両端を欠損している。表面には原礫面を残す。
12	すり石	長 8.35　幅 5.1 厚 1.35	輝石安山岩	偏平な礫を使用している。礫の中央に、礫の長軸方向に２本の溝が掘られている。溝の有る面は研磨されている。

F 4 — 2 号住居址遺物観察表（図25— 8 ～10）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
8	小型土器 椀	3.25 6.6 5.5	底部からつまみ上げで全体を成型している。口縁部はやや内湾する。	横方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き	①淡褐色②良好③完形 ④精選、砂粒を含む。
9	甕	— 7.2 —	上半部を欠損。底部からやや内湾ぎみに立ち上がり、肩部で大きく内湾する。最大径は上半部に持つ。	肩部にＲＬ縄文の横位施文。横方向のハケ目。底部付近で横方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ撫で。	①茶褐色②普通③1/2 ④砂礫を多く含む。
10	高坏	10.5 16.9 10.5	ラッパ状に開く脚部と内湾ぎみに立ち上がる浅い坏部から成る。脚部には３孔を有する。	器面全面に荒いハケ目を残す。ヘラ磨き。脚部裾にはヨコ撫で。	坏部は撫で。脚部はヨコ撫で。	①淡褐色②普通③3/4 ④砂粒を含む。⑤二次焼成を受けた可能性有り。

F 4 — 4 号住居址（図25— 1 ～ 7 、ＰＬ.13）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
1	壺	— 18.4 6.7	頸部から上を欠損。丸底状の底部を持ち、胴はやや張る。底部は後からの付け足しか。	胴上半部に２段のＬＲ縄文による帯縄文を持つ。帯縄文は磨消しによる。胴中位以下は横方向のヘラ磨き。	肩部から底部にかけて横方向のヘラ磨き	①橙褐色②良好③胴部のみ完形④精選砂礫を含む。⑤外面には黒斑有り。内面は灰褐色。
2	壺	— 10.0 —	口縁部は頸部からくの字に屈曲し、ハの字状に開く。胴部は緩やかに張る。	口縁部は縦方向のヘラ磨き、胴部はヘラ撫での後にヘラ磨きか。	口縁部は横方向のヘラ磨き。胴部は撫でか。頸部には輪積痕を残す。	①茶褐色②普通③胴上半部のみ3/4④白色のスコリア粒を含む。⑤赤色塗彩。
3	椀	7.0 16.4 4.2	小さな底部から緩やかに開き、口唇部で僅かに内湾する。底部は僅かに突出する。	横方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③1/4 ④精選砂粒を含む。
4	椀	7.3 14.8 4.2	小さな底部から僅かに内湾ぎみに開き口縁部にいたる。	全面にヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①褐色②良好③完形④精選砂粒を含む。
5	小型土器 壺	— 9.1 5.0	頸部より上部を欠損。底部より僅かに上に最大径を持つ。	肩部にＬＲ縄文を巡らす。胴部下半は縦方向のヘラ磨き。	胴上半部はヘラ撫で。底部付近はハケ目。	①橙褐色②良好③胴部のみ4/5④精選砂粒を含む。⑤黒斑有り。
6	高坏	— 11.9 —	坏部を欠損している。直線的に開くが裾部で僅かに段を持つ。	ハケ調整の後縦方向のヘラ磨き。裾部はヨコ撫で。	ヘラ撫で。裾部にはヘラ削りか。	①淡褐色②普通③脚部のみほぼ完形④砂粒を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
7	土製紡錘車	— 1.3 2.1	平面形は円形で断面形は台形状を呈する。軸孔は焼成前穿孔の後調整	ユビ押さえ。ヘラ磨き。		①淡褐色②良好③完形 ④砂粒を含む。

F 4 — 6 号住居址（図26— 1 ～ 9 、 P L . 13）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
1	甕	— 21.2 14.7	底部を欠損。口縁部は二重口縁で折り返し状を呈し、口唇端部をつまみ上げる。頸部は胴部から緩やかに外反ぎみに立ち上がる。胴部はやや下膨れで緩やかに張る。	口縁部及び胴上半部は細かなハケ目調整の後にＲＬ縄文の横位施文。4段にわたって施文。頸部は施文されない。胴部は横方向のヘラ磨き。	口唇部は横方向のヨコ撫で。以下は横方向のヘラ磨き。	①鈍い橙褐色②良好③胴上半部のみ完形④精選、砂粒を含む。
2	甕	26.1 13.9 7.1	胴部は緩やかに膨らみ中央部に最大径を持つ。口縁部は胴部からやや外反ぎみに立ち上がる。底部は中央部がやや上底状になる。	口縁部から胴上半部にかけてＬＬＲ縄文が横位に施文されている。口唇端部にも同じ縄で施文される。口縁部には4段にわたって輪積み痕を残す。胴下半部から底部にかけ横方向のヘラ磨き。	口縁部は横方向のヘラ磨き。胴部から底部にかけて横方向のハケ目整形の後、横方向のヘラ磨き。	①明赤褐色②良好③完形④精選、砂粒、雲母粒を含む。⑤外面胴上半部のみ炭化物付着。内面は胴中央部のみに炭化物の付着無し。
3	甕	23.4 15.9 6.1	底部はやや突出する。胴部は緩やかに膨らみ中央部に最大径を持つ。口縁部は外傾して直線開く。頸部は緩やかに屈曲する。	口唇端部及び口唇下0.7cmの無文部を除いて胴上半にかけてＲＬ縄文を横位に施文する。口縁部には4段にわたって輪積み痕を残す。胴下半部はヘラ磨きか。	口縁部から底部にかけ横方向のヘラ磨き。	①鈍い橙褐色②普通③ほぼ完形。口縁部の1/2を欠損。④砂粒をやや多く含む。⑤内面は炭化物の付着あり
4	小型土器	4.6 2.8 —	手捏ね土器。丸底で、口縁部は内湾状につまみ上げる。	指頭の圧痕。	指頭の圧痕。	①淡褐色②良好③3/5 ④精選
5	小型土器	3.8 7.4 2.6	底部から緩やかにやや内湾ぎみに立ち上がる。	底周辺はヘラによる押さえ、口縁部は横方向のヘラ磨き。	全面に横方向のヘラ磨き。	①淡橙褐色②良好③完形④精選。小礫を含む。
6	大型壺	— 12.8 —	底部から胴下半部のみ。底部はやや突出する。胴部は緩やかに、やや内湾ぎみに開く。	全面にヘラ磨き。	ハケ目調整の後、ヘラによる撫で。	①淡褐色②良好③胴下半部のみ3/5④精選

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
7	土製紡錘車	1.0 2.6 —	平面形は円形、断面形は紡錘形を呈する。			①淡褐色②普通③完形 ④精選
8	土製紡錘車	1.5 5.9 —	平面形は円形、断面形は長方形を呈する。軸孔は穿孔後に調整。	全面にヘラ磨き。		①淡褐色②良好③完形 ④精選
9	土製紡錘車	2.0 4.3 —	平面形は円形、断面形台形状を呈する。軸孔は穿孔後に調整。	全面にヘラ磨き。		①淡褐色②良好③1/2 ④精選

F 4 —13号住居址（図25—22～30）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
22	高坏		口縁部破片。やや内湾ぎみに緩やかに開く。口縁部には3段にわたって輪積痕を装飾としてそのまま残す。口唇端部断面は尖る。	全面にヘラ磨き。赤色塗彩。ただし口縁部の粘土帯の2段目、3段目には塗彩されない。	ヘラ磨き。	①淡褐色②良好③口縁部のみ1/6④精選⑤赤色塗彩
23	高坏		口縁部破片。直線的にひらく口縁部で、端部はつまみ上げてやや内湾する。	横方向のヘラ磨き。赤色塗彩。	横方向のヘラ磨き。赤色塗彩。	①淡褐色②普通③口縁部のみ1/6④精選。⑤外面の荒れが顕著。
24	高坏	16.2 —	脚部破片。直線的にハの字にひらく。	横方向の規則的なヘラ磨き。赤色塗彩。	裾部はヨコナデ。他はヘラ撫で。	①灰褐色②普通③脚部のみ1/3④精選。砂粒を含む。⑤外面のみ赤色塗彩。
25 28	壺		胴上半部破片。	附加条第1種ＬＲ＋Ｌ縄文を、帯縄文として2段にわたって施す。帯縄文間はヘラ磨きによる磨り消し。	横方向のヘラ磨き。	①橙褐色、28は暗灰褐色②良好③胴部破片のみ④精選。砂粒を含む。
26	甕		口縁部破片。	ＬＲ縄文を全面に施文する。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③口縁部破片④精選。輝石を多く含む。
27	壺		肩部破片。	ＲＬ縄文を横位に施文し磨り消しにより2段の帯縄文としている。帯縄文間は赤色塗彩される。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③肩部破片④砂粒を多く含む。
29	土製品	径 3.5 厚 0.9	平面形は不整形な円形断面形は長方形。	ユビによる撫で。		①暗褐色②良好③完形 ④精選

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
30	石鏃	全長 3.4	有茎石鏃。茎の部分を欠損。左右が非対称。	横長剝片を使用。周辺のみ調整加工。		⑤黒色頁岩を素材とする。

F 4 —14号住居址（図27— 1 ～13、ＰＬ.14）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
1	壺	24.5 15.0 7.5	胴部は上下に潰れた球形で中央部に最大径を持つ。頸部はくの字に屈曲し、口縁部はやや外反ぎみに大きく開く口唇端部をつまみ上げる。底部はやや突出する。	口縁部には粘土帯を4段にわたって装飾的に残す。胴上半部から肩部にかけＲＬ縄文を横位に施文し、その間をヘラ磨きにより磨り消し、２段の帯縄文としている。胴下半部及び底部はヘラ磨き。	口縁部はヨコ撫で。頸部から底部にかけて横方向のヘラ磨き。	①明褐色②普通③完形④精選。砂粒を含む。⑤文様に結束がみられるが不明。
2	壺		胴部は上下に潰れた球形で、中央よりやや上部に最大径を持つ。頸部は肩部から鋭く屈曲し、ほぼまっすぐ立ち上がる。底部は突出しない。	肩部から胴上半部にかけてＲＬ縄文の横位施文。その後ヘラ磨きによる磨り消しにより２段の帯縄文としている。頸部は縦方向のヘラ磨き。胴中央部は横方向のヘラ磨き。下半部は縦方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③胴部のみ完形④精選。砂粒を含む。
3	甕	— 11.2 —	口縁部は比較的短く、直線的に開く。胴部は下半部を欠損している。	全面にわたって、ＬＲ縄文を横位に施文する。	口縁部から胴部にかけて横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③1/2④精選。⑤外面に黒斑有り。
4	甕	— 11.5 —	口縁部は比較的短く直線的に開く。胴部は緩く張る。	全面にＬＲ縄文を横位に施文する。胴下半部は横方向のヘラ磨き。	口縁部は横方向のヘラ磨き。胴部は斜め方向のヘラ磨き。	①橙褐色②良好③完形④精選⑤外面に黒斑有り。
5	甕	— 10.9 —	口縁部は緩やかに開く。頸部は胴部から緩やかに立ち上がる。	全面にＲＬ縄文を施文する。頸部から口縁部にかけては粘土の輪積み痕を残す。	口縁部はヨコ撫で。胴部はヘラ撫で。	①橙褐色②普通③胴上半部のみ1/2④砂粒を含む。
6	小型器台	7.2 6.2 7.0	脚部、坏部ともに直線的に開く。脚部には５孔を有する。	全面に縦方向のヘラ撫で。脚部裾はヨコナデ。	坏部は縦方向のヘラ磨き。脚部はヘラ撫で。裾部には一部にヘラ磨き。	①茶褐色②良好③完形④精選。茶褐色のスコリアを含む。
7	小型高坏	7.7 10.8 —	脚部はラッパ状に開く。坏部は直線的にハの字状に開き、口唇端部をつまみ上げる。	坏部は横方向のヘラ磨き。脚部は縦方向のヘラ磨き。	坏、脚部ともにヘラ磨き。	①褐色②良好③裾部のみ欠損。④砂粒を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
8	小型高坏	8.6 11.2 6.8	脚部は比較的短く、直線的に開く。坏部はやや内湾ぎみに立ち上がり口唇端部をつまみあげる。	全面にヘラ磨き。	坏部は斜め方向の規則的なヘラ磨き。脚部は裾部をヘラ削り。	①褐色②良好③完形④精選。砂粒をやや含む。
9	小型土器坏	2.0 3.8 3.7	手捏ね土器。底部から僅かに口縁部をつまみあげる。。	胴部は指頭圧痕。底部はヘラ磨き	指頭圧痕。	①黄褐色②良好③完形④精選
10	小型土器	4.7 3.3 2.5	手捏ね土器。底部からつまみ上げ、その上から粘土を貼り胴部を成型している。	指頭圧痕。	指頭圧痕。	①黄褐色②良好③完形④精選
11	小型台付甕		口縁部は二重口縁で粘土の貼付けによる。口唇端部は鋭く尖る。頸ぶは短く屈曲する。	4本歯の櫛状工具による波状文が口縁部及び頸部から胴上半部にかけて描かれる。	口縁部は撫で。胴部はヘラ磨き。	①褐色②普通③口縁部のみ1/5④砂粒を多く含む。
12	高坏		口縁部破片。緩やかに立ち上がってきた口縁部が口縁端部でさらに大きく外反する。	ヘラ磨きの後赤色塗彩。	ヘラ磨きの後に赤色塗彩。	①赤褐色②普通③口縁部のみ1/6④精選。
13	椀		緩やかに広がる口縁部が端部でやや内湾する。	口縁端部はヨコナデ。体部はヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラ磨き。	①淡褐色②良好③口縁部のみ1/6④精選。

第16号住居址遺物観察表（図27—14～21・図28—1～8、PL.15）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
14	甕	18.8 10.7 6.5	胴部の張る器形で、胴中央部よりやや上に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反ぎみに立ち上がる。	口縁部から肩部にかけて5本歯工具による櫛描波状文が5段にわたって施文されている。頸部には同一工具による簾状文が施される。胴上部は横方向のヘラ撫で。下半部はヘラ削り。	口縁部はヨコナデ、頸部から胴上半部にかけて撫で。	①褐色②普通③完形④小砂礫を多く含む。⑤胴下半部は器壁の荒れが顕著。二次焼成か。
15	甕	20.2 11.8 6.4	胴の張る器形で、胴中央部よりやや下位に最大径を持つ。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は短くやや外反ぎみに立ち上がる。	口縁部から胴最大径部分までRL縄文を施文する。胴下半部及び底部は横方向のヘラ磨き。口唇端部にもRL縄文が施文されている。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③完形④精選。砂粒を含む⑤胴下半部は器壁の荒れが顕著。二次焼成か。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
16	甕	21.4 11.0 5.8	胴は緩やかに張る。最大径は下半部に持つ。頸部は短く直立する。口縁部は二重口縁で折り返し状の段を持つ。	口唇部ヨコナデ。口縁の折り返し部より胴上半部にかけてＲＬ縄文を施文する。胴下半部から底部にかけては横方向および斜め方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①橙褐色②普通③完形④精選。砂粒を含む。⑤外面には赤化した部分がある。二次焼成か。
17	小型広口壺	13.5 12.5 5.8	胴部は上下に潰れた球形を呈する。頸部は短かく、緩やかにくびれ肩部に段を持つ。口縁部は短く、大きく外反する。	外面全面に横方向のヘラ磨き。その後、底部を除く全面に赤色塗彩を施す。	全面に横方向のヘラ磨き。胴上半部から口縁にかけて赤色塗彩。	①淡褐色②良好③2/3④精選。砂粒を僅かに含む。
18	高坏	14.1 17.3 10.3	坏部はやや内湾しながら、緩やかに立ち上がる。口唇端部は僅かにつまみ上げられている。脚部は裾部に向かって膨らみながら内湾する。裾端部は平に調整されている。	口縁部、脚部裾はヨコナデ。坏部は横方向のヘラ磨き。脚部は縦方向のヘラ磨き。	坏部はヘラ磨き。脚部裾はヨコナデ、他はヘラ削りの後ヘラ磨き。	①淡褐色②良好③完形④精選。砂礫粒を含む。
19	土製紡錘車	1.5 3.9 —	平面形は円形、断面形は長方形。	全面にヘラ磨き。		①淡褐色②良好③完形④精選⑤軸孔部分の調整無し。
20	土製紡錘車	1.6 7.1 —	平面形は円形、断面形は台形。	全面にヘラ磨き。		①淡褐色②良好③完形④精選⑤軸孔部分の調整無し。
21	土製垂飾	長 5.2 幅 2.6	屈曲の弱いくの字状を呈する。頭部は厚く、尾部は薄く仕上げられている。頭部には1孔を持つ。	指頭圧痕の後ヘラ磨き。		①淡褐色②良好③完形④精選
図28 1	高坏	— 16.5 —	口縁部破片。粘土帯を3段にわたって残す。口唇端部は僅かに外反する。裏面及び口縁部、第3段目の粘土帯下に赤色塗彩。	粘土帯の下を棒状工具によるナゾリ。	ヘラ磨き。	①淡褐色②良好③口縁部のみ1/6④精選。白色の鉱物を含む。
2	高坏	— 18.6 —	口縁部破片。胴部は内湾し、口縁部でほぼ直に立つ。口縁部に４段にわたって粘土帯を残す。全面に赤色塗彩。	口縁部は横方向のヘラ磨き。胴部は斜め方向のヘラ磨き。粘土帯の上をヘラ状工具によるナゾリ。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③口縁部のみ1/6④精選

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
3	高坏	— 18.2 —	口縁部破片。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部で僅かに外反する。口縁部には2段粘土帯を残す。	口縁部は横方向のヘラ磨き。胴部分は斜め方向の規則的なヘラ磨き。口縁の粘土帯の上はナゾリ。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③口縁部のみ1/4④精選⑤器面全体に赤色塗彩。
4	椀	5.0 12.7 4.0	口縁部は直線的に開く。底部は中央部がやや上底風になる。	胴部から口縁部はヘラ撫での後、斜め方向のヘラ磨き。底部はヘラ撫で。	全面に横方向のヘラ磨き。	①淡橙褐色②良好③完形④精選。砂粒を含む。
5	椀	6.1 13.5 4.1	口縁部は内湾しながら立ち上がる。口縁部の開きは比較的小さい。	横方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③完形④精選。小礫を含む。
6	椀	5.9 15.0 3.6	口縁部は僅かに内湾しながら開く。口唇端部は鋭角に仕上げられる。	横方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③完形④精選。砂粒を含む。
7	壺	— 7.0 —	胴下半部のみ。球形を呈する。	胴上半部にはＲＬ縄文横位施文の帯状文を施す。帯状文は磨り消しによる。下半部はヘラ磨き。	胴中央はヘラ撫で。底部はヘラ磨き。	①淡褐色②普通③1/2④精選。砂粒を含む。
8	壺		胴上半部破片。胴部は上下に潰れた球形を呈する。頸部は緩やかに立ち上がり、口縁部近くで僅かに外反する。	胴上半部から肩部にかけて2段の帯状文を施す。上はＬＲ、下はＲＬ縄文の横位施文で、異なる原体を使用して羽状としている。頸部は縄文施文の後縦方向のヘラ撫でからヘラ磨き。胴部分は横方向のヘラ磨き。	頸部から肩部にかけてヘラ撫で。胴下半部はヘラ磨き。	①淡褐色②普通③胴上半部のみ1/2④砂礫を多く含む。

Ｆ４—19号住居址（図26—14・15）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
14	壺	— 15.0 —	口縁部破片。緩やかに外反した口縁部が端部で僅かに立ち上がる。	口縁部に2段の粘土帯を残す。その上にＬＲ縄文を施す。頸部は縦方向のヘラ磨き。	全面にヘラ撫で。	①淡褐色②普通③口縁のみ1/3④砂粒を含む
15	椀	— 16.1 —	緩やかに開く胴部が口縁部近くで僅かに立ち上がり、口唇端部をつまみ上げる。	横方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③1/3④精選。輝石を多く含む。

F 4 —26号住居址（図26—16・17）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
16	坏	— 10.0 —	底部から滑らかに、僅かに内湾しながら立ち上がる。	底部から口縁部に向かってヘラ撫で。		①淡褐色②普通③1/2 ④精選。
17	甕	— — 6.0	底部破片。底部から大きく膨らむ。胴下半部に最大径がある。底部は突出する。	縦方向のヘラ磨き。	ヘラによる押さえの後ヘラ磨き。	①暗褐色②普通③底部のみ④砂礫を含む。⑤内面は黒色。二次焼成か。

F 5 — 8 号住居址（図25—11～21、ＰＬ.16）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
11	壺	— 14.5 —	口縁部破片。頸部はくの字に屈曲する。肩部はあまり張らず緩やかに胴部に至る。口縁部は直線的に開き口唇端部に平坦面を作る。	口縁部、肩部ともにヘラ撫で。頸部には一条の粘土帯が貼付され、その上を指頭圧痕を施す。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。頸部には指頭圧痕。	①淡褐色②普通③口縁のみ④砂粒を含む。
12	坏	3.9 11.9 4.6	口縁部は僅かに内湾しながら立ち上がる。底部は突出する。	ヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③2/5 ④砂粒を含む。
13	甕	23.7 12.3 6.8	口縁部は僅かに外反する。頸部は緩やかに屈曲する。胴部はやや張り、中央やや下部に最大径を持つ。	口縁部から胴上半部にかけてＲＬ縄文を横位に施文する。下半部はヘラ磨き。口唇部には縄文は施文されない。	横方向のヘラ磨き。	①橙褐色②普通③3/4 ④砂粒を含む。⑤外面に黒斑有り。内面は灰褐色。
14	甕	— 11.2 —	口縁部は短く開く。頸部は緩やかに屈曲する。胴部はあまり張らない。	口縁部から胴上半部にＲＬ縄文を横位に施文する。口唇部には縄文施文無し。	横方向のヘラ磨き。	①橙褐色②普通③1/2 ④砂粒を含む。⑤胎土は13に似る。
15	壺	— 8.3 —	口縁部破片。頸部から直立する。全面に赤色塗彩。	縦横方向の規則的なヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③口縁部のみ完形④精選
16	甕	15.2 14.0 5.2	底部から僅かに膨らみを持ちながらほぼ直線的に立ち上がり口縁部に至る。底部は僅かに突出する。	口縁部から胴上半部にかけてＲＬ縄文を不規則に施文する。口唇部にも同様の原体で施文される。胴下半部はヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③1/2 ④砂粒を含む。
17	甕	13.5 7.8 5.1	口縁部は端部でわずかに外反する。胴部は張り、中央よりやや上に最大径を持つ。	口縁部から胴上半部にかけてＲＬ縄文を横位に施文。胴下半部はヘラ磨き。	ヘラ磨き。	①淡褐色②良好③3/5 ④精選。⑤外面に黒斑。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
18	甕	— 5.4 —	底部から胴下半部破片。胴部は底部から内湾ぎみに立ち上がる。底部はやや突出する。	横方向のヘラ磨き。	細かいハケ状工具の撫で	①淡褐色②普通③1/2④砂粒、輝石を含む。
19	高坏	— 17.0 —	脚部のみ。僅かに内湾するがほぼ直線的に開く。	横方向のヘラ磨き。	ヘラ撫で。	①淡褐色②良好③1/2④精選⑤外面全面及び内面接合部付近に赤色塗彩。
20	高坏	— 7.6 —	脚部のみ。脚柱部から裾部に向かってラッパ状に開く。	ヘラ磨き。	ヨコナデ	①淡褐色②良好③1/2④精選。
21	高坏	— 8.3 —	脚部のみ。直線的にハの字状に開く。	ヘラ磨き。	ヘラ磨き。	①淡褐色②良好③1/2④精選。小礫を含む。⑤20に比べ成型が粗い。

F 4 —32号住居址（図28— 9 ～18、ＰＬ.16）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
9	甕	12.6 10.8 6.0	口縁部は短く、開く。頸部は緩やかな、くの字を描く。胴部は球形に張る。胴部最大径は中央部に持つ。	口縁部には２段の粘土帯を残す。胴上半部は横方向のヘラ撫で。下半部は縦方向のヘラ撫で。底部は中央部ヘラ磨き。周辺ヘラ撫で。	口縁部はハケメの上にヘラ撫で。胴部は横方向のヘラ撫で。	①橙褐色②普通③完形④砂粒を多く含む。⑤外面の底部付近に赤化した部分がある。
10	コップ形土器	9.6 8.0 4.9	底部から僅かな膨らみを持って直立する。口縁部は僅かに屈曲し開く。底部は突出する。	口縁部は横方向の撫で。胴部は縦方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③3/5④精選。輝石を含む。
11	甕	— 17.2 —	口縁部破片。頸部から緩やかに開き、端部で僅かに外反する。	粘土の接合痕を残す。全面にＬＲ縄文を施文する。	横方向のヘラ磨き。	①暗橙褐色②不良③口縁部のみ3/4④砂粒を非常に多く含む。
12	甕	— 15.3 —	口縁部破片。口縁部は頸部から直立し、端部で僅かに外反する。	口縁部には３段の粘土帯を残す。指頭圧痕が顕著。肩部はヘラ撫で。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③口縁部のみ1/3④砂礫を含む。
13	壺	— 17.6 —	口縁部破片。やや外反ぎみに開き、端部で僅かに屈曲する。二重口縁で幅の狭い折り返し状を呈する。	口縁部の折り返し部に４本歯の櫛状工具による波状文を施す。縦方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ磨き。	①橙褐色②普通③口縁部のみ完形。④精選。僅かに砂粒を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
14	壺	— 14.5 —	口縁部破片。口縁部は頸部からくの字に屈曲し直線的に開く。	口縁部は横方向の撫で。頸部から肩部にかけて縦方向のヘラ磨き。	口縁部は横方向のヘラ磨き。頸部に指頭圧痕あり。	①淡褐色②普通③口縁のみ1/2④精選。輝石を含む。
15	高坏	— 7.9 —	脚部破片。短くハの字に開く。	縦方向の撫で。	横方向の撫で。	①橙褐色②良好③脚部のみ完形④精選⑤内外面に赤色塗彩。
16	蓋	6.7 7.5 5.0	ラッパ状に開く。縁の部分は断面四角形に調整されている。つまみ部は粘土の張り付けにより短く開く。端部は断面三角形に調整されている。	縦方向のヘラ撫で。	細かいハケ状工具によるハケ目。	①淡褐色②普通③つまみ部の一部のみ欠損。④砂粒を含む。⑤内面はススの付着により黒褐色を呈する。
17	甕	— 10.9 —	胴部破片。底部から緩やかに膨らむ。最大径を中央よりやや上に持つ。	縦方向のヘラ磨き。	縦方向のヘラ磨き。	①淡褐色②不良③胴部のみ1/2④砂粒を多く含む。⑤底部を欠損。
18	甕		肩部破片。肩部は張らず滑らかな曲線を描く。頸部はほぼ垂直に立ち上がる。	横方向のハケメ。その上に縦方向のヘラ磨き。	横方向のヘラ撫で。	①淡褐色②普通③肩部のみ④砂粒を含む。

F 4 —28号住居址遺物観察表（図28—19・20）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
19	高坏	— 19.0 —	坏部破片。浅く、滑らかに立ち上がる。口唇部は断面三角形を呈する。	撫での後ヘラ磨き。	ヘラ磨き。	①褐色②普通③坏部のみ3/5④砂粒を含む。
20	甕	9.1 8.7 4.3	胴部は短く、やや肩が張る。頸部は僅かにくびれる。口縁部は短く僅かに外に開く。	横方向の撫での後縦方向の撫で。	横方向の撫で。	①淡褐色②普通③ほぼ完形④砂粒を含む。

F 5 —25号住居址遺物観察表（図26—10～13、ＰＬ.14）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
10	甕	— 13.6 —	口縁部から胴部上半部破片。肩部はあまり張らず、頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに開きながら立ち上がり、口唇端部で外傾する。	口縁部はヘラ磨きが丁寧になされているが、粘土の輪積痕を残す。肩部は縦方向のヘラ磨き。	ヘラ磨き。	①黒褐色②普通③口縁部のみ完形。④砂粒を含む。
11	高坏		脚部破片。裾が僅かに開く。坏部はやや深い。	細かいヘラ磨き。	坏部はヘラ磨き。脚部はヘラ撫で。	①茶褐色②普通③脚部のみ完形④精選⑤脚部外面、坏部内面に赤色塗彩。
12	高坏	10.0 12.0 11.4	坏部は直線的にハの字に開く。脚部は裾部が僅かに外反する。	細かいヘラ磨き。	横方向の細かいヘラ磨き。	①淡褐色②良好③完形④精選。
13	甕	底径 7.1	胴下半部破片。底部から緩やかに立ち上がる。	ヘラ撫で。	ヘラ撫で。	①黒褐色②普通③胴下半部のみ④砂礫を含む。

F 5 — 1 号住居址遺物観察表（図29・図30・図31— 1 ～ 4 、ＰＬ.17～20）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
1	台付き甕	33.2 17.6 11.8	口縁部は短く、頸部からくの字に外反する。胴部は最大径を中央よりやや上部に持ついちじく形を呈する。脚部は短くやや内湾ぎみに開く。成型が粗く全体の形状は歪んでいる。	口縁部はヨコナデ。胴部はハケ目、脚部は縦方向のハケ目、裾部はハケ目の後ヨコナデ。	口縁部はヨコナデ。胴部、脚部はハケ目。	①褐色②普通③完形④細かい砂粒を多く含む。⑤外面胴部中央部及び口縁部にはススの付着が見られる。
2	小型広口甕	10.2 12.0 3.9	口縁部は短く外反する。頸部はくの字に屈曲する。胴部は上下に潰れた球形で、そろばん玉状を呈する。底部は中央がくぼむ。	口縁部はヨコナデ。胴部はハケ目の後ヘラ磨き。底部はヘラ削り。	口縁部はヨコナデ。胴部ヘラ磨き。	①黒褐色②良好③完形④精選。
3	坩	9.8 8.0 4.0	口縁部は直線的に開く。頸部は緩いくの字に屈曲する。胴部の張りは弱く、中央部に最大径を持つ。	ハケ目の後暗文状のヘラ磨き。底部はヘラ撫で。	口縁部はハケ目の後暗文状の縦方向のヘラ磨き。胴部はヘラ撫での後縦方向のヘラ磨き。	①茶褐色②良好③完形④精選。砂礫を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
4	小型広口甕	11.6 14.7 4.5	口縁部は大きく開く。頸部はくの字に鋭く屈曲する。胴部は上下に潰れた球形を呈する。	口縁部はヨコナデ。頸部から胴上半部にかけてハケ目。肩部には指による一条のナゾリ。胴下半部はヘラ削りの後磨き。	口縁部はヨコナデ。胴部は磨き。	①暗褐色②良好③完形④精選。⑤底部を除く全面にススの付着。
5	台付甕	31.2 18.2 10.5	口縁部は頸部から直立し口唇端部で僅かに外反する。胴部はイチジク状を呈する。脚部はハの字に開く。	口縁部はヨコナデ。胴上半部はハケ目。下半部はハケ目の後削り。脚部はハケ目。	口縁部はヨコナデ。胴部はヘラ磨き。	①茶褐色②普通③完形④砂粒を含む。⑤脚部内面に赤色塗彩。
6	甑	10.8 12.7 5.1	口縁部は外面ぎみに開く。頸部は緩やかに屈曲する。胴部は下半部に最大径を持つ。底部には1孔を持つ。	口縁部はハケ目の後ヨコナデ。胴部はハケ目。	口縁部はヨコナデ。胴部はヘラ磨き。	①赤褐色②普通③3/4④砂粒を含む。⑤胴下半部の器壁の剝落が顕著。
7	甕	27.6 15.5 8.3	口縁部は僅かに外反。胴部はやや丸みを帯びる。最大径は中央部より上に持つ。底部は僅かに突出する。	口縁部はハケ目の後ヨコナデ。胴上半部はヘラ撫で。中央部は横方向のヘラ削り。底部付近は縦方向のヘラ削り。	口縁部はヨコナデ。胴部から底部は縦方向のヘラ磨き。	①茶褐色②普通③完形④砂粒を含む。
8	広口甕	16.6 14.7 5.7	口縁部は外傾し、端部でさらに外反する。頸部はくの字に屈曲する。胴部は球形で、底部はやや突出する。	口縁部はヨコナデ。胴上半部はハケメ。肩部に指によるナゾリ。底部は斜め方向のヘラ削り。	口縁部はヨコナデ。胴部は不明。	①褐色②普通③完形④小砂礫を含む。⑤胴上半部にススの付着。
9	台付甕	24.0 15.0 8.3	S字状口縁台付甕。口唇端部で開く。胴部は上下に潰れた球形を呈する。脚部は直線的にハの字に開き、裾部を内側に折り返す。	口縁部はヨコナデ。頸部から胴上部にかけては左下がりのハケ目。下半部は右下がりのハケ目。脚部はハケ目の後規則的な縦の指ナデ。	口縁部はヨコナデ。胴部は不明。脚部は指押さえ。	①淡橙褐色②不良③完形④砂粒を多く含む。⑤脚部内面の胴部との接合部には砂粒が添付されている。
10	壺	— 17.2 —	口縁部破片。頸部から直に立ち上がった口縁部が端部で大きく外反する。口唇端部を調整し断面形を四角にしている。	口縁部はヨコナデ。頸部にはハケ目。肩部にはヘラ撫で。	口縁部はヨコナデ。胴部はハケ目。	①淡褐色②普通③口縁部のみ④砂粒を含む。
11	甕		口縁部破片。口縁部は僅かに段を持つ。短く、僅かに内湾しながら開く。	口縁部はヨコナデ。肩部は横方向のハケ目の後縦方向のハケ目。		①淡褐色②普通③口縁部のみ1/6④砂粒を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
12	坩	— — 4.1	胴部のみ。やや下膨れの上下に潰れた球形を呈する。底部は僅かにくぼめられる。	細かな縦方向のヘラ磨き。底部ヘラ削り。	ヘラ磨き。	①茶褐色②良好③胴部のみ完形④精選。
13	壺		胴部及び口縁部破片。口縁部は直線的に開く。胴部は球形を呈するがやや下膨れ。	ハケ目の後縦方向のヘラ磨き。	全面にハケ目。胴部下半に一部ヘラ撫で。	①淡褐色②普通③胴部口縁部1/3④砂粒を含む。⑤外面に赤色塗彩
図30 1	広口甕	20.2 23.4 7.1	口径が最も大きい。口縁部は折り返し状で大きく外反する。胴部はやや丸みを帯びるが下膨れである。底部は僅かに突出する。	口縁部はヨコナデ。胴部はヘラ磨き。	全面にヘラ磨き。	①淡褐色②良好③完形④精選。⑤外面に黒斑。
2	甕	— 19.0 —	口縁部は幅広でやや外傾ぎみに立ち上がり、端部で外反する。胴部は緩やかな曲線を描き、胴上半部に最大径を持つ。	口縁部はハケ目の後横方向のヘラ磨き。胴部は縦方向のヘラ磨き。	口縁部は横方向のヘラヘラ磨き。	①淡褐色②普通③1/3④小礫を含む。⑤胴下半部の器壁の荒れが顕著。
3	甕	31.3 17.6 8.9	口縁部は頸部からくの字に屈曲し僅かに外反しながら短く開く。胴部は緩やかな曲線を描いて底部に至る。最大径は中央やや上部に持つ。	口縁部はヘラ撫で。胴部はヘラ削りの後縦方向のヘラ磨き。	口縁部はヨコナデの上にヘラ磨き。胴部は横方向のヘラ磨きの上に縦方向の暗文状のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③2/3④小礫を含む。⑤外面にススの付着有り。
4	小型椀	4.5 7.3 4.4	底部から僅かに開きぎみに立ち上がり、口縁部に至る。口縁部に比べ底部が大きい。	細かなヘラ磨き。	ヘラ撫で。	①淡褐色②良好③完形④精選。⑤外面に黒斑。
5	小型椀	6.5 7.5 3.3	底部からやや内湾ぎみに立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は内湾する。	ハケ目の後縦方向のヘラ磨き。	縦方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③完形④精選。
6	壺	25.6 14.9 6.6	口縁部は二重口縁で幅びろの折り返し状を呈し、頸部から直線的に開く。頸部はくの字に屈曲する。胴部は上下に潰れた球形を呈する。	ハケ目の後ヘラ磨き。	口縁部はヘラ磨き。	①淡褐色②良好③完形④精選。輝石を含む。⑤焼成の段階で器形に歪みが生じている。内面の器壁の剝落が顕著。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
7	壺	29.5 16.3 7.7	口縁部は二重口縁で折り返し状を呈し、頸部からやや外反ぎみに開く。頸部はくの字に屈曲する。胴部は球形を呈する。最大径は中央部に持つ。	口縁部はヘラ撫で。頸部は縦方向のヘラ磨き。胴上半部は横方向のヘラ磨き。下半部から底部周辺はヘラ撫で。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③口縁部の一部を欠損。④小礫を含む。⑤外面に黒斑。
8	壺	— 13.5 —	口縁部は頸部から緩やかな曲線を描き外反する。頸部は良く締まり細い。胴部は球形を呈するが最大径を胴下半部に持ちやや下膨れを呈する。	口縁部はヨコナデ。頸部はハケ目の後横方向のヘラ磨き。肩部にも横方向のヘラ磨き。胴部はハケ目の後縦方向のヘラ磨き。	口縁部はハケ目の後ヘラ磨き。胴部は横方向のハケ目の後ヘラ磨き。	①淡褐色②普通③底部を欠損。④砂粒を含む⑤外面に黒斑。
図31 1	壺	— 16.1 —	口縁部破片。口縁端部で外反。口唇部を調整し、断面形は四角に調整。	口縁部はヨコナデ。頸部は縦方向のヘラ磨き。	細かな横方向のヘラ磨き。	①茶褐色②良好③口縁部のみ完形④精選。
2	壺	— 20.1 —	口縁部破片。二段口縁。頸部は直立する。口縁端部で大きく外反する。口縁の段部及び口唇端部は明瞭な稜を持つ。	口唇部ヨコナデ。口縁部は横方向のヘラ磨き。頸部は縦方向のヘラ撫での後にヘラ磨き。	ハケ目の後に横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③口縁部のみ完形④砂粒を多く含む。
3	高坏	15.3 19.9 12.9	坏部は深く、やや内湾ぎみに開く。脚部との接合部に稜を持つ。脚部は裾部でやや外反する。3孔を有する。	口縁部は横方向のヘラ磨き。胴部から脚部にかけて縦方向のヘラ磨き。	坏部はヘラ磨き。脚部はハケ目、裾部はヨコナデ。	①暗茶褐色②良好③完形④精選⑤全面に赤色塗彩。坏部の一部に二次焼成か。
4	小型器台	10.1 8.6 11.8	器受部は脚部に比べ小さく、内湾する。脚部は裾部で僅かに内湾する。器受部と脚部との接合部に1孔を脚部には2段一対3組の計6孔を有する。	全面にヘラ磨き。脚部裾はヨコナデ。	器受部ヘラ磨き。脚部ヘラ撫で。	①茶褐色②良好③完形④精選。小礫を含む。⑤外面に黒斑。

F 4 —11号住居址遺物観察表（図31— 5 〜10）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
5	坏	— 3.5 16.0	口縁部破片。胴は浅く、口縁端部で立ち上がる。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ削りの後ヘラ磨き。	暗文状のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③1/4④小礫、赤色スコリア粒を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
6	坏	— 4.4 12.7	底部は平底風の丸底。口縁端部で立ち上がり僅かに曲線を描く。口唇部の内側が僅かに肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部は横方向の撫で。	底部から口縁部に向かって暗文状のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③口縁1/2欠損④砂粒を含む⑤外面に黒斑。
7	坏	— 15.1 —	口縁部破片。口縁部は内湾ぎみに立ち上がり、端部で僅かに肥厚し、外傾する。	口縁部はヨコナデ。胴下半部はヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。	①淡褐色②普通③1/3④小礫を含む。
8	高坏	— 15.1 17.2	坏部は稜を持ち、直線的に開く。脚柱部はやや下膨れで裾部で大きく開く。	口縁部ヨコナデ。脚部はヘラ撫での後ヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。脚部裾部はヨコナデ脚柱部には絞り痕。	①橙褐色②普通③脚部裾の一部を欠損④砂粒白色パミス粒を含む。
9	椀	8.5 10.4 4.1	胴部は内湾、口縁部は短く外傾する。底部は平底。	口縁部から肩部にかけてヨコナデ胴部は撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ磨き。	①茶褐色②普通③完形④輝石を含む⑤底部は赤化。
10	甕	15.6 14.5 7.2	頸部はくの字に屈曲。口縁部は外反ぎみに開く。	口縁部はヨコナデ。胴部はハケ目。	口縁部ヨコナデ胴上半部ハケ目、下半部は撫で。	①茶褐色②普通③1/2④小礫を含む。

F 4 —12号住居址遺物観察表（図31—11～25、ＰＬ.22）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
11	椀	7.7 12.8 3.4	胴部は内湾。口縁部は短く外傾し、内面に稜を持つ。底部は小さな平底。	口縁部ヨコナデ。胴部はハケ目の後ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①淡褐色②普通③完形④砂粒、小礫を多く含む⑤内面は赤化。
12	椀	8.1 6.0 4.2	胴部は僅かに内湾。口縁部は短く僅かに外傾し、内面に稜を持つ。	口縁部はヨコナデ。胴部はハケ目の後撫で。	口縁部ヨコナデ。底部にヘラ押さえ有り。	①淡褐色②不良③完形④小礫を含む⑤内面赤化。
13	椀	6.4 12.4 4.1	胴部は内湾。口縁部は短く僅かに屈曲する。内面には稜を持ち、端部は尖る。底部は小さな平底。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫での後磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ磨き。	①赤茶褐色②普通③3/4④砂粒を含む。
14	椀	5.7 13.5 —	胴部はやや内湾する。口縁部は肥厚し、短く僅かに外反する。内面の稜は不明瞭。底部は平底風の丸底。	口縁部横方向のヘラ磨き。	横方向ののヘラ磨き。	①赤茶褐色②普通③完形④赤色スコリア粒を含む。⑤内外面ともに器壁の荒れが顕著。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
15	坏	4.9 13.5 —	口縁部は胴部から内傾ぎみに立ち上がる。胴部と口縁部の境には僅かに稜を持つ。胴部は浅く、底部は丸底。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫での後磨き。	ヨコナデ。	①淡褐色②普通③完形④砂粒を含む。⑤外面に黒斑、内面は赤化。
16	坩	8.4 7.1 3.4	胴部はそろばん玉状を呈する。底部は平底風の丸底。口縁部は直線的に開き端部をつまみ上げる。	口縁部ヨコナデ。胴部中位以下は横方向のヘラ磨き底部はヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。	①褐色②普通③完形④砂粒を含む。⑤底部に黒斑。
17	坩	16.0 12.3 —	胴部は上下に潰れた球形で肩部に最大径を持つ。頸部はくの字に屈曲する。内面には稜を持つ。口縁部は内湾ぎみに開き、端部で内傾する。	口縁部ヨコナデ。頸部はヨコナデの後暗文状のヘラ磨き。胴部はヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①茶褐色②普通③完形④砂粒を含む。⑤底部の一部が赤化。
18	坩	— — 4.4	胴部のみ。上下に潰れた球形を呈する。やや下膨れ。底部は小さな平底。	胴上部は縦方向のヘラ磨き。胴下部は横方向のヘラ磨き。	ヘラの撫で。	①茶褐色②普通③胴部のみ完形④輝石を含む。
19	土製品	長 2 幅 1	断面は紡錘形を呈する。中央に1孔を持つ。			①淡褐色②普通③完形④精選。
20	小型土器	— 4.0 —	口径に比べ底径が大きい。口縁部は内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目の後撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①淡褐色②普通③1/2④砂粒を含む。
21	高坏	— 21.3 —	坏部破片。稜を持ち直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部暗文状の磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ磨き。	①淡褐色②普通③坏部のみ1/2④砂粒を含む。
22	台付椀	— 18.8 —	椀部のみ。胴部は内湾し、口縁端部で僅かに外傾する。内面に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部は横方向のヘラ磨き。	口縁部はヨコナデ。胴部は暗文状のヘラ磨き。	①淡褐色②普通③坏部のみ完形④砂粒を含む⑤器壁の荒れが顕著。
23	土製紡錘車	1.5 3.7	断面形は長方形。軸孔の調整無し。	ヘラ磨き。		①淡褐色②良好③完形④精選。
24	甕	— 16.3 —	胴下部が僅かに張る。口縁部は短く外傾する内面には僅かに稜を持つ。	口縁部はヨコナデ。胴部はヘラ削りの後ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①暗茶褐色②普通③底部を欠損④砂粒、輝石を含む。⑤甑の可能性有り。
25	甕	— 14.4 —	胴部は球形を呈する。口縁部は短く外反する。内面に稜を持つ。	口縁部はヨコナデ。胴部はヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ撫で。	①淡褐色②普通③底部を欠損④砂粒を含む。

F 4 —17号住居址遺物観察表（図32—1～8、ＰＬ.21）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
1	甕	15.7 12.9 11.1	胴部は球形を呈する。頸部はくの字に緩く屈曲する。口縁部は直線的に開き、内面に稜を持つ。口唇部は肥厚する。	ヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ磨き。	①茶褐色②普通③4/5④砂粒を含む⑤外面は器壁の荒れが顕著。
2	坩		胴部はそろばん玉状を呈する。底部は丸底。	肩部は縦方向のヘラ磨き。胴部は横方向のヘラ磨き。	底部にはヘラ撫で。	①茶褐色②普通③胴部のみ完形④精選⑤外面に黒斑。
3	椀	7.0 10.5 3.2	胴部は内湾ぎみに立ち上がる。口縁部は短く外傾し、内面に稜を持つ。底部は小さな平底。	口縁部ヨコナデ。胴下半部はヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。	①淡褐色②普通③口縁部の一部欠損④砂礫を多く含む⑤内面の器壁の荒れが顕著。
4	高坏	— 19.1 —	坏部のみ。下部に稜を持つ。口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデの後ヘラ磨きによる規則的な暗文を施す。	ヨコナデの後放射状の暗文。	①淡褐色②普通③坏部のみ完形④砂粒、輝石を含む。
5	高坏	14.5 18.2 14.5	坏部は下部に稜を持ち、口縁部は直線的に開く。脚部は接合部で良く締まり、裾部に向かってラッパ状に大きく開く。	坏部ヨコナデ。脚部は縦方向のヘラ撫での後ヘラ磨き。裾部ヨコナデ。	坏部ヨコナデ。脚部ヨコナデ一部にヘラ削り。接合部に絞り痕。	①淡褐色②普通③坏部1/2欠損④砂粒、小礫を多く含む。
6	高坏	14.8 17.0 13.4	坏部は下部に稜を持ち、口縁部は直線的に大きく開く。脚部はやや短く太い。裾部は大きく開く。	口縁部はヨコナデ。脚部はヘラ磨き。裾部はハケ目の後ヨコナデ。	坏部は撫で。脚部は撫で。裾部はヨコナデ。絞り痕有り。	①淡橙褐色②普通③裾部の一部を欠損④砂粒輝石を含む。
7	甕	32.2 18.8 8.1	胴部はやや下膨れの球形を呈する。口縁部は端部で外反する。底部は突出する。	口縁部はヨコナデ。胴部は撫での後ヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①淡褐色②普通③口縁部の一部欠損④砂粒輝石を含む⑤外面に黒斑内面の器面の荒れ顕著。
8	甕	26.3 17.0 5.5	胴部は球形を呈する。口縁部はくの字に屈曲し直線的に開く。	口縁部はヨコナデ。胴部はハケ目の後ヘラ撫で下部はヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴中部ヘラ撫で下部はハケ目	①橙褐色②普通③完形④砂粒、輝石を含む⑤外面に黒斑。

F 4 —22号住居址遺物観察表（図32— 9 ～13）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
9	坏	4.7 14.2 —	やや浅い胴部から口縁部は、短く内傾ぎみに立ち上がる。底部は丸底。	口縁部はヨコナデ。胴部はハケ目の後撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部にはヘラ磨きによる放射状暗文。	①淡褐色②良好③完形④砂粒を含む。⑤外面に黒斑。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
10	椀	6.7 13.8 3.0	胴部は内湾し口縁端部で僅かに外傾する。内面には僅かに稜を持つ。底部は小さな平底。	口縁部ヨコナデ。胴部は撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③口縁部の一部を欠損④砂粒を含む。
11	坩	— — 3.6	胴部は上下に潰れた球形を呈する。頸部はくの字に屈曲する。底部は小さな平底。	胴部はヘラ撫で。		①橙褐色②普通③胴部のみ完形④小礫を含む。
12	甕	— 10.5 11.4	胴部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は短く外傾し、内面に稜を持つ。底部は平底風の丸底。	口縁部ヨコナデ。胴部は縦方向のヘラ撫での後磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①橙褐色②普通③1/2④小礫を含む。
13	高坏	— 20.1 —	下部に稜を持ち、口縁部は直線的に大きく開く。	口縁部ヨコナデ。縦方向のヘラ磨きによる暗文。	口縁部ヨコナデ。ヘラ磨きによる放射状暗文。	①褐色②普通③坏部のみ完形④砂粒を含む。

F 4 —29号住居址遺物観察表（図32—14～19）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
14	坏	5.9 15.3 5.0	やや内湾しながら開く胴部が口縁部で内傾する。明瞭な稜は持たない。底部は丸底風の平底。	口縁部ヨコナデ。胴部横方向のヘラ磨き。底部周辺はヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。底部ヘラ磨き。	①褐色②普通③完形④小礫を含む。⑤内面赤化。
15	坏	5.5 13.0 —	口縁部、胴部ともに内湾する。底部は小さな平底。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ撫で。	口縁部ヘラ撫で。底部はヘラ磨き暗文か。	①褐色②普通③口縁部の一部欠損④砂粒を含む。
16	椀	7.1 13.6 3.9	胴部は内湾し、口縁部は短く、外傾し、内面に稜を持つ。底部は小さな平底。	口縁部ヨコナデ。胴部は横方向のヘラ磨き。底部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ磨き。	①淡褐色②普通③完形④砂粒を含む。⑤内面の器面の荒れ顕著。
17	高坏		口縁部破片。下部に稜を持ち大きく開く。口唇端部を薄くする。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①赤褐色②普通③口縁部のみ1/3④砂粒を含む。
18	坩	— 14.2 —	口縁部破片。頸部から直線的に開く。口唇端部は尖る。	口縁部ヨコナデ。縦方向のヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。暗文状の縦方向のヘラ磨き。	①褐色②普通③口縁部のみ1/2④輝石を含む。
19	坩		胴部破片。そろばん玉状を呈する。	横方向のヘラ磨き。	ヘラ撫で。	①褐色②良好③胴部のみ1/2。

F５－14号住居址（図33－１～９）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
1	坏	4.8 15.0 —	底部は丸底。口縁部は端部内面が僅かに肥厚し、外傾しながら立ち上がる。胴部との境には明瞭な稜を持つ。	口縁部はヨコナデ。底部はヘラ磨き。	口縁部はヨコナデ。底部は暗文状のヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
2	坏	4.6 15.8 —	底部は丸底。口縁部は外傾しながら立ち上がる。胴部との境の稜はあまり明瞭ではない。	口縁部から底部周辺までヨコナデ。底部はヘラ撫で。	口縁部から胴部下位までヨコナデ。底部はヘラ撫で。	①淡赤褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
3	坏	6.3 14.8 —	底部は小さな平底。胴部は内湾ぎみに立ち上がり、口縁部は直立する。胴部との境の稜は明瞭ではない。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ磨き。底部はヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部は底部から暗文状のヘラ磨き。	①暗褐色②酸化③口縁部の一部を欠損④小礫を含む。⑤赤色塗彩か。
4	坏	5.0 14.0 —	底部は浅い丸底。口縁部は僅かに内傾する。胴部との境には明瞭な稜を持ち、張り出す。	口縁部ヨコナデの後暗文状の横方向のヘラ磨き。底部はハケ目。	全面にヨコナデの後暗文状のヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
5	坏	5.3 13.1 —	底部は丸底。口縁部は直立する。胴部との境には明瞭な稜を持ち、張り出す。	口縁部ヨコナデの後暗文状のヘラ磨き。底部ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデの後暗文状のヘラ磨き。胴部は横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③完形④砂粒を含む。⑤内面赤色塗彩か。器面の荒れが顕著。
6	椀	5.6 13.9 —	胴部は内湾する。口縁部は短く、外傾する。口縁部内面には不明瞭ながら稜を持つ。底部は丸底。	口縁部ヨコナデ。胴部は横方向のヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部は暗文状のヘラ磨き。	①赤褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
7	椀	7.2 12.4 —	胴部は内椀する。口縁部は短く、外傾し、内面に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。底部荒い撫で。	①淡褐色②酸化③2/3④砂粒を含む。
8	坩	— — 4.2	底部は小さな平底で中央がややくぼむ。胴部は球形を呈する。			①淡褐色②酸化③胴部のみ1/2④砂粒を含む⑤外面の荒れ顕著。
9	甕	24.7 16.1 8.3	胴部は球形を呈する。口縁部は頸部からくの字に屈曲し外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①赤茶褐色②酸化③4/5④砂粒を含む⑤外面に黒斑。

F 5 —18号住居址（図33—10～15）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
10	椀	5.6 12.5 4.2	胴部は内湾して立ち上がる。口縁部は明瞭な稜を持ち、やや内傾する。	口縁部はヨコナデ。胴部は横方向のヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部は放射状のヘラ磨きによる暗文。	①茶褐色②酸化③完形 ④精選⑤外面に黒斑。
11	坏	5.9 14.8 4.6	底部は小さい平底を呈する。胴部はハの字状に開き、口縁部で僅かに段を持つ。	口縁部はヨコナデ。胴部はヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。放射状のヘラ磨きによる暗文。	①淡褐色②酸化③完形 ④砂粒を含む⑤内面に黒斑。
12	台付の椀	— 12.6 —	椀部のみ。胴部は下部に僅かに稜を持ち、内湾しながら立ち上がる。口縁部は短く僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部は撫での後にヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目の後ヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③椀部のみ完形④砂粒を含む⑤内面は赤色塗彩か。外面は二次焼成か。
13	甕	21.2 15.4 6.1	胴部は球形を呈する。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は端部で外反する。底部は丸底風の平底。	口縁部はヨコナデ。胴部はヘラ撫で。底部周辺にヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部から底部はヘラ磨き。	①褐色②酸化③完形④砂粒を含む⑤外面は二次焼成により器面の一部剝落。
14	甕	— 17.6 —	胴部は球形を呈する。頸部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的にひらき、端部で僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①淡褐色②普通③1/2 ④砂粒を含む⑤外面には吹きこぼれ痕。
15	甕	32.3 16.7 7.6	胴部は球形を呈する。最大径は胴上部ある。底部は小さく中央部がくぼむ。頸部はくの字に屈曲する。口縁部は肥厚し、下部に僅かに段を持ち、直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部は撫で、一部にヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ磨き。	①淡褐色②普通③口縁部の一部を欠損④砂粒を多く含む⑤外面に黒斑。底部は二次焼成か。

F 4 —18号住居址（図34・図35—1・2、ＰＬ.25）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
1	坏	4.3 13.5 —	胴部は浅く、口縁部は肥厚し、外反する。外面には明瞭な稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部は手持ちヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ磨きによる放射状暗文。	①淡褐色②酸化③完形 ④砂粒を含む⑤内外面に黒斑。
2	坏	3.5 13.8 —	胴部は浅く、口縁部は外面に稜を持ち、直立する。端部で僅かに外反。	口縁部ヨコナデ胴部は手持ちヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ磨きによる放射状暗文。	①橙褐色②酸化③完形 ④砂粒を含む⑤口唇部、胴部外面の荒れ顕著。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
3	坏	4.0 13.0 —	胴部は浅く、口縁部は外面に稜を持ち、内傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部手持ちヘラ削り。	手持ヨコナデ、ヘラ磨きによる放射状暗文。	①褐色②酸化③口縁部1/2欠損④精選。
4	坏	4.6 13.5 —	胴部は浅く、口縁部は外面に稜を持ち、外反ぎみに立ち上がる。	口縁部ヨコナデ。胴部手持ちヘラ削り。	ヨコナデ、ヘラ磨きによる放射状暗文。	①褐色②酸化③口縁部一部欠損④砂粒を含む。
5	坏	3.7 11.4 —	胴部は浅く、口縁部は外面に稜を持ち、僅かに外傾する。口唇部は丸く僅かに外反。	口唇部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①明褐色②酸化③口縁部の一部欠損④砂粒を含む。
6	坏	4.9 13.2 —	胴部は比較的深い。口縁部は稜を持ち、僅かに外傾。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①明褐色②酸化③1/2④砂粒を含む。
7	坏	3.1 11.8 —	胴部は浅く、口縁部は外面に稜を持ち、直立し、端部で外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部手持ちヘラ削り。	ヨコナデ、ヘラ磨きによる放射状暗文。	①褐色②酸化③1/3④砂粒を含む⑤口縁部内外面の荒れ顕著。
8	坏	7.2 17.6 —	口縁部は中央に段を持ち、胴部との境の外面に稜を持つ。僅かに外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部は横方向のヘラ磨きの後ヘラ磨きによる放射状暗文。	①淡褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
9	椀	— 8.9 9.3	胴部は球形を呈する。口縁部は僅かに段を持ち直立する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③1/3欠損④精選。
10	椀	— 8.2 12.6	胴部は内湾し、口縁部は短く僅かに外反する。内面に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部はハケ目の後撫で。	口縁部ヨコナデ。胴上部にハケ目。	①茶褐色②酸化③口縁部のみ1/3④砂礫を含む。
11	甕	30.0 19.6 —	胴部は中央部が張る。口縁部は頸部から緩やかに外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③完形④砂粒を含む⑤外面の器面の荒れ顕著。
12	甕	— 11.7 —	胴部は球形を呈する。口縁部は段を持ち、直立する。口唇部内面には一条の沈線によって段を作る。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。	①淡褐色②普通③1/2④砂粒、輝石を多く含む。
13	椀	10.0 11.9 8.25	胴部は僅かに内湾する。口縁部は稜を持ち、内傾して端部で立ち上がる。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。底部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①橙褐色②酸化③完形④砂粒を多く含む⑤外面に黒斑。
14	甕	— 11.2 —	長胴甕。口縁部は大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①褐色②普通③底部欠損④砂粒、輝石を多く含む⑤外面に黒斑。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
15	甑	10.0 16.5 —	胴は内湾する。口縁部は肥厚し、外面に僅かに段を持つ。口縁端部で僅かに外反する。底部は丸底で7孔を有する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②酸化③完形④精選⑤外面の上半部の器面の荒れが顕著。
16	甕	— 21.1 —	胴部は球形を呈する。口縁部は頸部から僅かに外傾して開く。口縁端部内面には一条の沈線によって段を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。頸部ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で	①茶褐色②普通③胴下半部欠損④砂礫を多く含む。
図35 1	甕	35.4 21.8 4.3	長胴甕。口縁部で大きく外反する。	口縁部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部は撫で。	①茶褐色②普通③完形④砂粒、小礫を含む。
2	甕	40.0 20.9 4.4	長胴甕。口縁端部で外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③完形④砂粒、小礫を含む。⑤外面に黒斑。

F 5—11号住居址（図35—3～10、PL.26）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
3	坏	3.6 11.6 —	胴部は浅く、口縁部は外面に稜を持ち僅かに外傾する。口縁端部はやや膨らむ。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ削りか。	口縁部ヨコナデ。	①淡橙褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
4	坏	4.0 12.1 —	胴部は浅く、口縁部は稜を持ち、外傾して開く。口縁端部膨らむ。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ削りの後撫でか。	ヨコナデ。	①淡橙褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
5	坏	4.6 13.2 —	胴部は浅く、口縁部は稜を持ち、直立する。稜部は外に張り出す。	口縁部ヨコナデ。胴部は手持ちヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ磨きによる放射状の暗文。	①淡褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
6	坏	3.8 11.8 —	胴部は浅く、口縁部は稜を持ち、ほぼ直立する。口縁端部は膨らむ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①淡橙褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
7	高坏	7.4 11.6 7.9	坏部は浅く、段を持ち、口縁端部は外反する。脚部は太く、短く裾部で開く。	口縁部はヨコナデ。胴部から脚部にかけてヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。脚部ヨコナデ。	①淡褐色②酸化③完形④砂粒、砂礫を含む。
8	片口	8.7 13.5 7.2	胴部は僅かに内湾しながら立ち上がり、口縁部は稜を持ち、内傾する。口縁端部で僅かに肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部は横方向のヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。片口部は指の押さえによって作り出す。	全面にヨコナデ。	①淡褐色②酸化③完形④砂粒を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
9	甕	38.0 19.4 4.9	長胴甕。口縁部で大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ撫で。	①茶褐色②普通③完形④砂粒、輝石を含む。
10	甕	34.0 20.2 3.8	長胴甕。口縁部で大きく開く。口縁部に僅かに段を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部はヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①淡褐色②普通③完形④砂粒を含む。

F 4 — 3 号住居址遺物観察表（図35—12～14）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
12	坏	3.8 13.7 —	全体に浅く、底部は偏平な丸底。胴部と口縁部境に僅かに稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部手持ちヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡橙褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
13	坏	3.8 15.3 —	全体に浅く、底部は偏平な丸底。口縁部は外反し、胴部との境に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部手持ちヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡灰褐色②酸化③2/3④砂粒を含む。
14	坏		底部は偏平な丸底。口縁部は端部で僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡橙褐色②酸化③1/4④砂粒を含む。

F 4 — 5 号住居址遺物観察表（図35—15・16）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
15	坏	3.2 12.4 —	底部は偏平。口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。底部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡橙褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
16	甕		口縁部はコの字状を呈する。器壁は薄い。	口縁部ヨコナデ。胴部横方向のヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。	①淡橙褐色②普通③1/3④砂粒を多く含む。

F 5 —16号住居址遺物観察表（図35—11）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
11	坏	3.3 12.8 —	底部は偏平で、口縁端部は内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部手持ちヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡橙褐色②酸化③完形④砂粒を多く含む。

F 4 —25号住居址遺物観察表（図36— 1 ・ 2 ）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
1	甕	— 21.7 —	口縁部は頸部から僅かに外傾しながら立ち端部で外反する。明瞭なコの字とはならない。	口縁部ヨコナデ。一部に指頭圧痕。胴部は横方向のヘラ削り。	ヨコナデ。	①茶褐色②普通③1/3 ④砂粒を多く含む。⑤器壁は薄い。
2	坏	2.8 11.2 9.2	浅く底部は偏平。口縁部は外傾。端部は僅かに内湾。	口縁部ヨコナデ。底部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②酸化③1/5 ④砂粒を含む。

F 5 —24号住居址遺物観察表（図36— 3 ～ 8 ）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
3	坏	— 12.8 —	底部は偏平な丸底。口縁部は僅かに内湾ぎみに外傾する。	口縁部ヨコナデ。	ヨコナデ。	①淡褐色②酸化③1/4 ④砂粒を含む。
4	須恵器 杯	4.0 12.2 —	底部は平底。口縁部は外傾して端部で僅かに外反する。	ロクロ成型。底部は静止糸切り。		①灰色②還元③1/4④ 石英粒、白色鉱物粒を含む。
5	甕	— 21.7 —	口縁部は頸部から直立し端部で外反する。器壁は薄い。	口縁部ヨコナデ。胴部横方向のヘラ削り。	ヨコナデ。	①茶褐色②普通③1/4 ④砂粒を含む。
6	甕	26.5 18.9 4.2	底部は小さい。胴部は上半部に最大径を持つ。口縁部には僅かに段を持ち、コの字状を呈する。端部は肥厚する。	口縁部ヨコナデ。指頭圧痕が残る。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①褐色②普通③完形④ 砂粒を含む⑤底部から胴部下半部にスス。
7	打製石斧	長さ 11.7	分銅形を呈する。薄い剝片を用いて周辺を粗く調整する。粘板岩製。			
8	土製勾玉	長さ 3.5				①褐色②普通③完形④ 砂粒を含む。

F 4 —15号住居址遺物観察表（図36— 9 ）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
9	甕	20.3 —	口縁部は内傾して端部で外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①茶褐色②普通③1/5 ④砂粒を含む。

F 5 —19号住居址遺物観察表（図36—10～15）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
10	甕	— 22.3 —	コの字状口縁を呈する。口縁端部が肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。	①茶褐色②普通③口縁部のみ1/2④砂粒含む
11	甕	— 19.1 —	口縁部は頸部から内傾し、端部で外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②普通③口縁部のみ1/5④砂粒含む。
12	甕	— 22.1 —	コの字状口縁を呈する。口縁端部が肥厚する。	口縁部ヨコナデ。	ヨコナデ。	①茶褐色②普通③口縁部のみ1/2④砂粒含む。
13	甕	— 11.1 —	口縁部は頸部から僅かに内傾し、端部で外反する。頸部と口縁部との境には段を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②普通③1/3④砂粒を含む。
14	須恵器杯	3.1 13.4 7.7	口縁部は外傾する。外面に段を持つ。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後周縁ヘラ調整。		①灰白色②還元③完形④砂粒、小礫を含む。
15	須恵器坏	3.9 5.6 —	口縁部は外傾し、端部で僅かに肥厚する。	ロクロ成型。底部は回転糸切り。		①灰色②還元③1/2④白色鉱物粒を含む。

F 4 —24号住居址遺物観察表（図36—16・17、ＰＬ.27）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
16	甕	30.8 23.2 13.8	底部径が大きく、胴部は肩部に最大径を持つ。口縁部は短く、くの字に外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴上部ヘラ撫で。下部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①茶褐色②酸化③1/2④砂粒、小礫を多く含む。
17	甕	24.8 — —	口縁部は肥厚し、大きく外傾して、面をなす。口唇端部には僅かに段を持つ。	口縁部ヨコナデ胴部は横方向のヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。	①淡褐色②還元普通③上半部のみ完形④砂粒を含む。

F 4 —23号住居址遺物観察表（図37— 1 ）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
1	須恵器坏	3.9 12.6 5.2	口縁部は外傾し口唇部で僅かに肥厚する。	ロクロ成型。底部は回転糸切り。		①灰色②還元③2/3④砂粒を含む。

Ｆ４－10号住居址遺物観察表（図37－２～21、ＰＬ.28）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
2	須恵器 椀	5.7 14.0 6.6	口縁部は外傾し端部で肥厚する。付け高台。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後付け高台で調整。		①灰色②還元③1/2④砂粒を含む。
3	須恵器 椀	7.9 16.2 8.1	付け高台。口縁部は外傾し口唇端部で肥厚する。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後付け高台で周縁調整。		①灰色②還元③完形④褐色粘土粒を含む。
4	須恵器 椀	6.1 14.0 6.2	付け高台。口縁部は外傾し口唇端部で僅かに肥厚する。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後付け高台で周縁調整。		①灰色②還元③完形④褐色粘土粒を含む。
5	須恵器 杯	3.4 12.2 5.6	口縁部は外傾し端部で肥厚する。	ロクロ成型。底部は回転糸切り。		①灰色②還元③1/2④白色鉱物粒を含む。
6	坏	3.0 11.2 6.1	口縁部は外傾する。	ロクロ成型。底部は静止糸切り。		①橙褐色②酸化③4/5④片岩を含む。
7	坏	4.8 13.1 6.4	口縁部は外傾し、端部で僅かに肥厚する。	ロクロ成型か。撫で。底部は回転糸切りか。		①灰褐色②酸化③完形④小礫を含む。
8	坏	4.3 12.5 8.4	口縁部はやや内湾ぎみに立ち上がり、口唇部で短く外傾する。	口縁部ヨコナデ。底部手持ちヘラ削り。	ヨコナデ。	①茶褐色②酸化③完形④小礫、粘土粒を含む。
9	坏	4.1 12.6 8.9	口縁部は外傾する。外面に僅かに段を持つ。	口縁部ヨコナデ。底部周縁のみヘラ削り。	ヨコナデ。	①暗褐色②酸化③完形④精選。
10	坏	4.1 12.1 12.4	口縁部は外傾する。外面に僅かに段を持つ。	口縁部ヨコナデ。底部手持ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。	①茶褐色②酸化③完形④小礫を含む。
11	坏	3.9 13.1 —	口縁部は外傾する。外面に僅かに段を持つ。	口縁部ヨコナデ。底部手持ちヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。	①茶褐色②酸化③1/4④精選。
12	椀	6.4 13.7 8.0	口縁部は僅かに内湾し、端部で外傾する。外面には段を持つ。高台部は短くハの字に開き、端部は肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。底部ヨコナデ。砂底を残す。	細かなヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
13	坏	4.1 12.1 6.1	口縁部は外傾する。外面に僅かに段を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。底部はヘラ削り。砂底を残す。	ヨコナデ。	①橙褐色②酸化③完形④砂粒を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
14	坏	4.5 13.1 7.1	口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。底部はヘラ削りの後砂底。	口縁部ヨコナデ胴部ヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③完形④砂粒を含む。⑤外面黒斑。
15	坏	4.1 12.4 6.6	口縁部は外傾し、端部は肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。底部は砂底の後周縁ヘラ削り。	内黒。細かなヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③完形④精選
16	石製紡錘車	— 1.5 —	平面形は円形。断面形は台形。中央に1孔。	全面に研磨痕有り。		①茶褐色③1/2④頁岩。
17	甕	— 11.8 —	コの字状口縁を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①茶褐色②普通③1/5④精選。
18	甕	— 13.8 —	コの字状口縁を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①茶褐色②普通③1/5④砂粒を含む。
19	甕	— 13.8 —	コの字状口縁を呈する。口縁端部は肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。頸部にヘラ押さえ痕。	①茶褐色②普通③1/3④砂粒を含む。
20	甕	— 20.6 —	コの字状口縁を呈する。口唇端部に段を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③口縁部のみ完形④砂粒含む。
21	甕	— 19.8 —	口縁部は直立し端部で外反する。口縁部外面には段を持ち稜を成す。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で	①淡褐色②普通③1/3④砂粒を含む。

F 4 — 9 号住居址遺物観察表（図37—22）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
22	甑	16.7 23.1 7.5	口縁部は僅かに内湾する。口縁部は短く僅かに外反。底部は焼成後に抜かれ甑として転用されている。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラの撫で。	①淡褐色②普通③1/3。④砂粒を多く含む⑤口縁部に補修孔を持つ。

F 5 —23号住居址遺物観察表（図38— 1 ～ 6 、 P L . 27）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
1	須恵器坏	5.4 13.6 6.5	口縁部は僅かに内湾する。口縁端部は僅かに肥厚し、内面に稜を持つ。付け高台。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後高台張り付け。		①灰色②還元③完形④砂粒、白色鉱物粒を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
2	椀	5.8 15.9 7.9	口縁部は外傾する。付け高台。	ロクロ成型。底部は静止糸切りの後高台張り付け。		①淡褐色②酸化③1/2 ④砂粒、小礫を含む。
3	甕		口縁部は内傾して端部で外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部横方向のヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②普通③1/5 ④砂粒、褐色粘土粒を含む。
4	甕		コの字状口縁を呈する。外面に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②普通③1/5 ④砂粒を含む。
5	砥石		安山岩製。一部欠損。			
6	石錘	6.2	角閃石安山岩製。頭部と頂部に孔を持つ。			

F 5 — 2 号住居址遺物観察表（図38— 7 ～ 9 ）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
9	甕		口縁部は端部で外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①褐色②普通③1/5④ 砂粒を含む。
10	甕		コの字状口縁を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②普通③1/4 ④砂粒を含む。
11	砥石		凝灰岩製。一部を欠損。			

F 5 — 5 号住居址遺物観察表（図38—10～12）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
10	須恵器杯	— 3.5 —	口縁部は外傾、端部で肥厚する。	ロクロ成型。底部は回転糸切り。		①灰色②還元③1/2④ 砂粒を含む。
11	坏	4.7 13.0 6.0	口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。底部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①褐色②酸化③完形④ 砂粒を含む。⑤内面口縁部にタールの付着。
12	甕		コの字状口縁を呈する。端部は肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①褐色②普通③1/6④ 砂粒、粘土粒を含む。

F５－６号住居址遺物観察表（図38—13～19、ＰＬ．２７）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
13	甕		口縁部は短く外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③1/5④砂礫を含む。
14	椀	6.8 13.3 6.8	口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。高台部は端部が開く。付け高台。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	横方向のヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③1/2④精選。
15	灰釉皿	2.8 11.5 6.5	付け高台。内面に段を持つ。口縁部は大きく開く。高台部は断面三角形。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後高台張り付け。釉は底部を除いて全面にかかる。	口縁部全面に釉がかかる。	①灰白色②還元堅緻③完形④精選。
16	椀		口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。	口縁部ヘラ磨き。胴部削りの後ヘラ磨き。	内黒。細かいヘラ磨き。	①淡褐色②酸化③1/5④精選。
17	甕	27.5 20.9 7.6	口縁部は短く、僅かに外傾し、僅かに稜を持つ。端部は肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。底部は未調整。	口縁部ヨコナデ。胴部縦方向のヘラ撫で。	①淡褐色②普通③1/2④砂礫を含む。
18	甕	— 21.1 —	口縁部は頸部で僅かに内傾し、端部で短く、外反する。端部は肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①淡褐色②普通③1/4④砂粒を含む。
19	羽釜	— 17.2 —	口縁部は僅かに内湾する。口唇端部は平坦に調整されている。鍔は断面三角形に成されている。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①淡褐色②酸化普通③1/4/④砂粒を含む。

F５—10号住居址遺物観察表（図38—20～21）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
20	坏	3.5 12.1 —	口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。底部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②酸化③2/3④精選。砂粒を含む。
21	須恵器杯	2.9 12.9 7.3	口縁部は外傾する。	ロクロ成型。底部は回転糸切り。		①灰白色②還元③2/3④精選。黒色鉱物含む。

F 5 — 7 号住居址遺物観察表（図39— 1 ～ 4 ）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
1	須恵器 坏	— 3.2 —	口縁部は外傾する。	ロクロ成型。底部は回転糸切り。		①灰色②還元③1/4④砂礫、白色鉱物含む。
2	坏		口縁部は直立する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②酸化③1/5 ④砂粒を含む。
3	甕		口縁部は端部で外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①橙褐色②普通③1/5 ④砂粒を含む。
4	甕		口縁部は外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①褐色②普通③1/4④砂粒を含む。

F 5 — 9 号住居址遺物観察表（図39— 5 ）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
5	甕		頸部で内湾し口縁部で僅かに開く。	口縁部ヨコナデ。胴部縦方向のヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①橙褐色②普通③1/5 ④砂礫を含む。

F 5 —17号住居址遺物観察表（図39— 6 ～13）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存 ④胎土⑤備考
6	坏		胴部は薄い平底。口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。底部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②酸化③1/3 ④砂粒を含む。
7	坏		胴部は薄い平底。口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	ヨコナデ。	①淡褐色②酸化③1/3 ④精選。
8	須恵器 坏	3.3 12.4 —	口縁部は外傾する。底部周辺に稜を持つ。	ロクロ成型。底部は回転ヘラ削り。		①灰色②還元③1/2④精選。白色鉱物粒含む。
9	須恵器 蓋	4.0 17.2 —	つまみ部はボタン状を呈す。縁には返りを持つ。	ロクロ成型。		①灰白色②還元③1/2 ④精選。砂粒を含む
10	須恵器 坏	5.3 12.9 —	口縁部は外傾する。付け高台。	ロクロ成型。底部は回転ヘラ削りの後付け高台。		①灰白色②還元③1/2 ④砂粒を含む。
11	甕	— 21.5 —	コの字状口縁を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①褐色②普通③口縁部のみ1/2④砂粒を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
12	甕	— 14.1 —	口縁部はくの字に屈曲し外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	口縁部横方向のヘラ磨き。胴部縦方向のヘラ磨き。	①褐色②普通③1/3④砂粒を含む⑤18号住居址の遺物の混入。
13	石製紡錘車	1.9 5.6 —	平面形は円形断面形は台形。角閃石安山岩製。			

F 5 —21号住居址遺物観察表（図39—14）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
14	砥石		頁岩製。一部欠損。			

F 5 —20号住居址遺物観察表（図39—15～18、ＰＬ.28）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
15	羽釜	— 20.8 —	口縁端部は断面形四角形に調整され稜を成す。鍔は断面三角形を呈す。	ヨコナデ。	ヨコナデ。	①淡橙褐色②酸化堅緻③口縁部のみ1/5④精選。小礫を含む。
16	椀	5.8 15.0 —	口縁部は外傾。端部は肥厚する。付け高台。	ロクロ成型。		①淡褐色②酸化③1/2④砂粒を含む。
17	椀	5.6 14.5 8.1	口縁部は外傾する。台部は短く、開く。付け高台。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後付け高台。		①淡褐色②酸化③2/3④砂粒を含む。
18	椀	— 14.1 —	器高が薄く、口縁部は大きく開く。付け高台	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。底部は砂底を残す。	ヨコナデ。	①淡褐色②酸化③2/3④精選。砂粒を含む。

F 5 —22号住居址遺物観察表（図39—19～25）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
19	須恵器坏	3.5 13.2 —	底部は偏平な丸底。口縁部は僅かに内湾。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。	①淡橙褐色②酸化③完形④砂粒を含む。
20	須恵器坏	4.2 13.9 8.0	口縁部は外傾する。底部は僅かに突出する。	ロクロ成型。底部は回転ヘラ削りの後周辺ヘラ削り。		①灰色②還元③完形④砂粒を含む。⑤底部には墨書有り。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
21	須恵器坏		口縁部は外傾し端部で僅かに肥厚する。	ロクロ成型。		①灰色②還元③1/5④砂粒を含む。
22	須恵器杯		口縁部は外傾する。	ロクロ成型。		①灰色②還元③1/5④精選。砂礫を含む。
23	須恵器坏	4.8 18.1 7.1	口縁部は外傾し端部で肥厚する。高台部を欠損する。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後付け高台。		①灰色②還元③2/3④砂粒を含む。
24	須恵器坏	4.0 13.7 —	口縁部は外傾し底部に僅かに段を持つ。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後周縁ヘラ調整。		①灰褐色②還元③完形④砂粒、白色鉱物含む。
25	須恵器	6.4 14.9 —	口縁部は外傾し端部で外反する。	ロクロ成型。底部は回転糸切りの後付け高台。		①灰色②還元③2/3④砂礫、白色鉱物含む。

F5—Bt・u・v—29・30グリット出土遺物観察表（図40—1～15）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
1	甕		口縁部は直線的に開く内面には稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目の後ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①茶褐色②普通③口縁部のみ1/3④砂粒含む。
2	甕		口縁部は外反する。	口縁部ヨコナデ。頸部ハケ目。	全体にハケ目。	①淡褐色②普通③口縁のみ1/6④輝石含む。
3	高坏	— 18.5 —	坏部のみ。口縁部は直線的に開く。下部に僅かに稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部縦方向のヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ磨き。	①褐色②普通③坏部のみ2/3④精選。
4	椀		口縁端部が内湾する。	口縁部横方向のヘラ磨き。胴部は縦方向のヘラ磨き。	口縁部横方向のヘラ磨き。胴部縦方向のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③口縁部のみ1/4④精選。
5	台付き甕		S字状口縁を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	口縁部ヨコナデ。	①淡褐色②普通③口縁部のみ1/8④砂粒含む。
6	台付き甕		S字状口縁を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	口縁部ヨコナデ。胴部撫。	①淡褐色②普通③口縁で部のみ1/8④砂粒含む。
7	台付き甕		S字状口縁を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③口縁部のみ1/8④砂粒含む。
8	台付き甕		S字状口縁を呈する。口唇端部は薄い。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③口縁部のみ1/2④砂粒含む。
9	台付き甕		S字状口縁を呈する。口唇端部は薄い。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③口縁部のみ1/4④砂粒含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
10	台付き甕		S字状口縁を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③口縁部のみ1/8④砂粒含む。
11	台付き甕		S字状口縁を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③口縁部のみ1/8④砂粒含む。
12	小型土器	4.3 2.1 2.3	手捏ね。頸部と底部でくびれる。			①淡褐色②普通③完形④砂粒を含む。
13	甕	— 11.3 —	口縁部は僅かに外傾する。頸部は緩やかに屈曲する。	全面にRL縄文を施文する。口唇端部にも施文。	こまかな暗文状のヘラ磨き。	①淡褐色②良好③上半部のみ完形④精選。
14	甕	— 11.9 —	口縁部は僅かに外反する。	全面に4本歯の櫛状工具による波状文が施される。	横方向のヘラ磨き。	①茶褐色②普通③1/4④精選。
15	高坏	6.4 9.8 8.4	坏部は口縁端部で内湾脚柱部は短く裾部で内湾する。	成型が粗雑。口縁部ヨコナデ。全面に撫で。	口縁部ヨコナデ。坏部は撫での後にヘラ磨き。	①淡褐色②普通③裾部を欠損④砂粒を含む。

F5—Bg—31グリット出土遺物観察表（図40—16～25、PL.22）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
16	甕	— 14.3 —	口縁部はくの字に屈曲し外傾する。胴部は球形を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目の後ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	①茶褐色②普通③1/2④砂粒を含む。
17	甕	— 14.5 —	口縁部はくの字に屈曲し外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目の後ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	①茶褐色②普通③1/3④砂粒を含む。
18	高坏	— 14.2 —	脚部のみ。脚柱部は丸みを帯び、裾部は大きく開く。	裾部はヨコナデ。縦方向のヘラ磨き。	裾部ヨコナデ。脚柱部は撫でにより絞り痕を消す。	①淡褐色②普通③脚部のみ完形④精選。
19	高坏	— 19.9 —	脚部のみ。脚柱部は膨らみを持たない。裾部は大きく開き、段を持つ。	裾部はヨコナデの後ヘラ磨き。脚柱部はヘラ磨き。	ヨコナデ。	①淡褐色②普通③脚部のみ完形④砂粒、粘土粒を含む。
20	甕	14.1 12.6 4.3	口縁部はくの字に屈曲し外傾する。胴部は下膨れの球形を呈す。底部は丸底風の平底。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。全体に成型が不良。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目の後撫で。	①淡褐色②普通③2/3④小礫を含む。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
21	坏	6.2 14.1 —	器高は深く、底部は丸底。口縁部は内湾ぎみに立ち上がり端部で内傾する。外面には段を有する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①淡橙褐色②普通③完形④砂粒、粘土粒を含む。⑤器壁の荒れが顕著。
22	坏	5.0 15.2 4.4	底部は小さな平底。胴部は大きく広がり端部で直立する。外面には稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部放射状のヘラ磨き。	①赤褐色②良好③2/3④精選。砂粒を含む。
23	坏	5.2 13.5 3.6	底部は小さな平底。胴部は大きく広がり口縁部は胴部から内傾ぎみに直立する。外面には明瞭な稜を成す。	口縁部ヨコナデ。胴部は横方向のヘラ磨き。底部ヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部放射状のヘラ磨き。	①淡茶褐色②良好③完形④精選。砂粒を含む。
24	甕	— 20.3 —	口縁部破片。口縁部はくの字に屈曲し、端部で外反する。	口縁部ヨコナデ。胴上部撫で。下部横方向のヘラ削り。	口縁部ヨコナデ。胴上部撫で。下部縦方向のヘラ削り。	①淡褐色②普通③1/3④砂粒を含む。
25	甕	— 17.7 —	口縁部はくの字に屈曲し端部で外反する。口縁部はやや肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部縦方向のハケ目。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫で。	①淡褐色②普通③口縁部のみ完形。

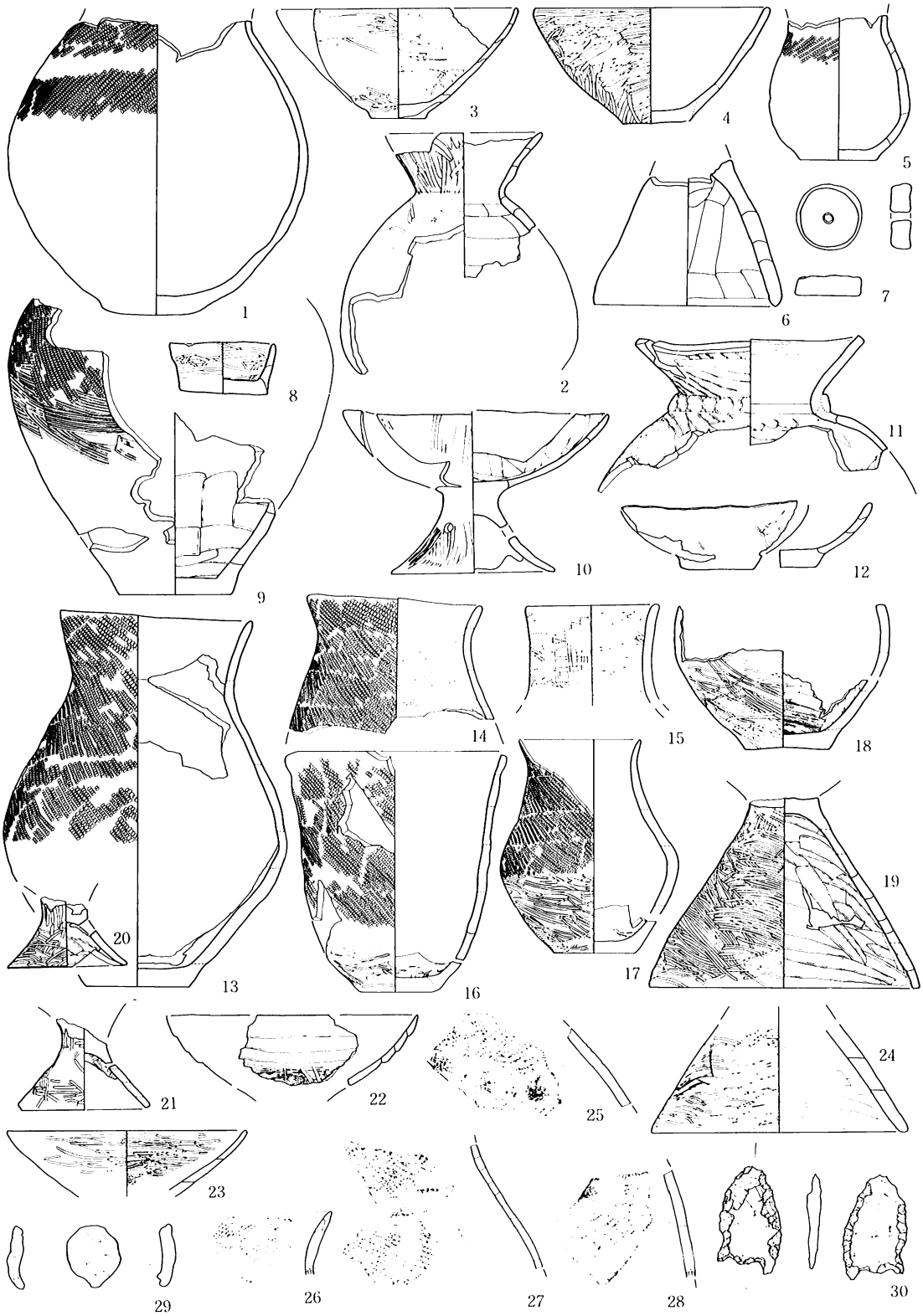
F5－BⅠ・m－30・31G出土遺物観察表（図41－1～6、PL.23、24）

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
1	甕	21.2 15.9 7.8	胴部は中央部に最大径を持ち球形を呈するが下半部は底部に向かって直線的にすぼまる。口縁部は短く外傾ぎみに立ち上がる。	口縁部ヨコナデ。頸部には指頭圧痕が見られる。胴部は横方向のヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部は撫で。	①茶褐色②良好③完形④小礫、白色パミスを含む。
2	甕	19.6 18.0 5.3	口縁部はくの字に屈曲し、端部で外反する。胴部は球形を呈する。	口縁部ヨコナデ。胴部上部ヘラ撫で。下半部ヘラ削り。	口縁部ヨコナデ胴上部撫で下部ヘラ削り。	①淡褐色②普通③完形④小礫を多く含む。
3	甕	23.5 15.6 6.2	口縁部はくの字に屈曲し外傾端部で外反する。胴部はやや張る。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③完形④砂粒を含む。⑤外面にススの付着。
4	甕	27.8 18.5 6.5	口縁部はくの字に屈曲し外反する。端部は僅かに肥厚する。胴部は球形で中央部に最大径を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部撫での後ヘラ磨き。底部ヘラ撫で。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡褐色②普通③1/2④砂粒を含む。⑤外面に黒斑。

番号	器形	法量	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考
5	甕	33.8 8.5 —	口縁部はくの字に屈曲し端部で段を持ち直立する。胴部はやや細長い球形を呈し底部は突出する。	口縁部ヨコナデ。胴部はハケ目の後ヘラ撫で。	胴部は撫で。	①淡褐色②普通③口縁部を欠損④砂粒を含む⑤外面に黒斑。口縁部の裏面の器壁の剝落が顕著。
6	甕	27.7 16.2 5.6	口縁部はくの字に屈曲し外傾。端部は肥厚する。胴部はやや細長い球形を呈す。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ撫での上にヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部撫で。	①淡橙褐色②普通③完形④砂粒を含む。⑤外面に黒斑。
7	坩	17.1 13.3 —	胴部は球形を呈するが下部は直線的にすぼまる。底部は丸底。口縁部は直線的に開き端部が僅かに内湾する。	口縁部縦方向のヘラ磨き。胴部横方向のヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。	①赤褐色②普通③完形④砂粒を含む。
8	高坏	15.9 19.3 14.2	坏部は外傾し端部で僅わに内湾する。下部に稜を持つ。脚柱部は細く僅かに膨らみを持つ。裾部は大きく開く。	坏部は撫での後縦方向の暗文状のヘラ磨き。脚部裾にも暗文状のヘラ磨き。	坏部は撫での後暗文状のヘラ磨き。脚部は撫で。脚柱部は絞り痕を撫で消し。	①淡褐色②普通③完形④砂粒を含む。
9	椀	— 11.3 —	口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部で短く外傾する。内面に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部は撫での後ヘラ磨き。	①淡褐色②普通③1/2④精選。
10	坏	4.9 13.2 —	底部は丸底で胴部は内湾し端部で内傾する。	口縁部はヘラ磨き。胴部はヘラ削りの後ヘラ磨き。	口縁部ヨコナデ。胴部撫での後暗文状の放射状ヘラ磨き。	①橙褐色②普通酸化③完形④砂粒含む⑤底部に黒斑。

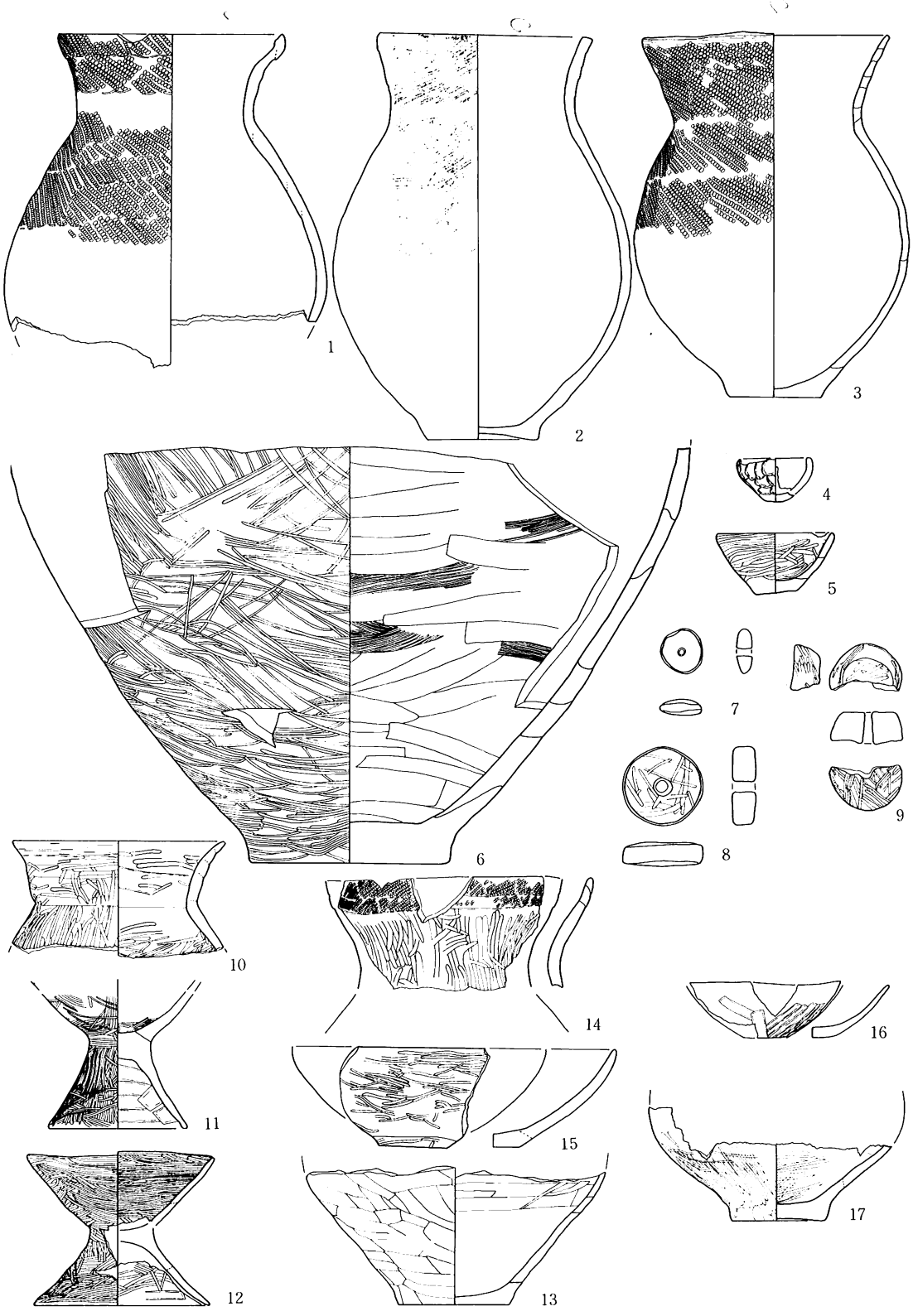
図24．縄文時代の出土遺物

図25. 弥生時代の出土遺物 (1)



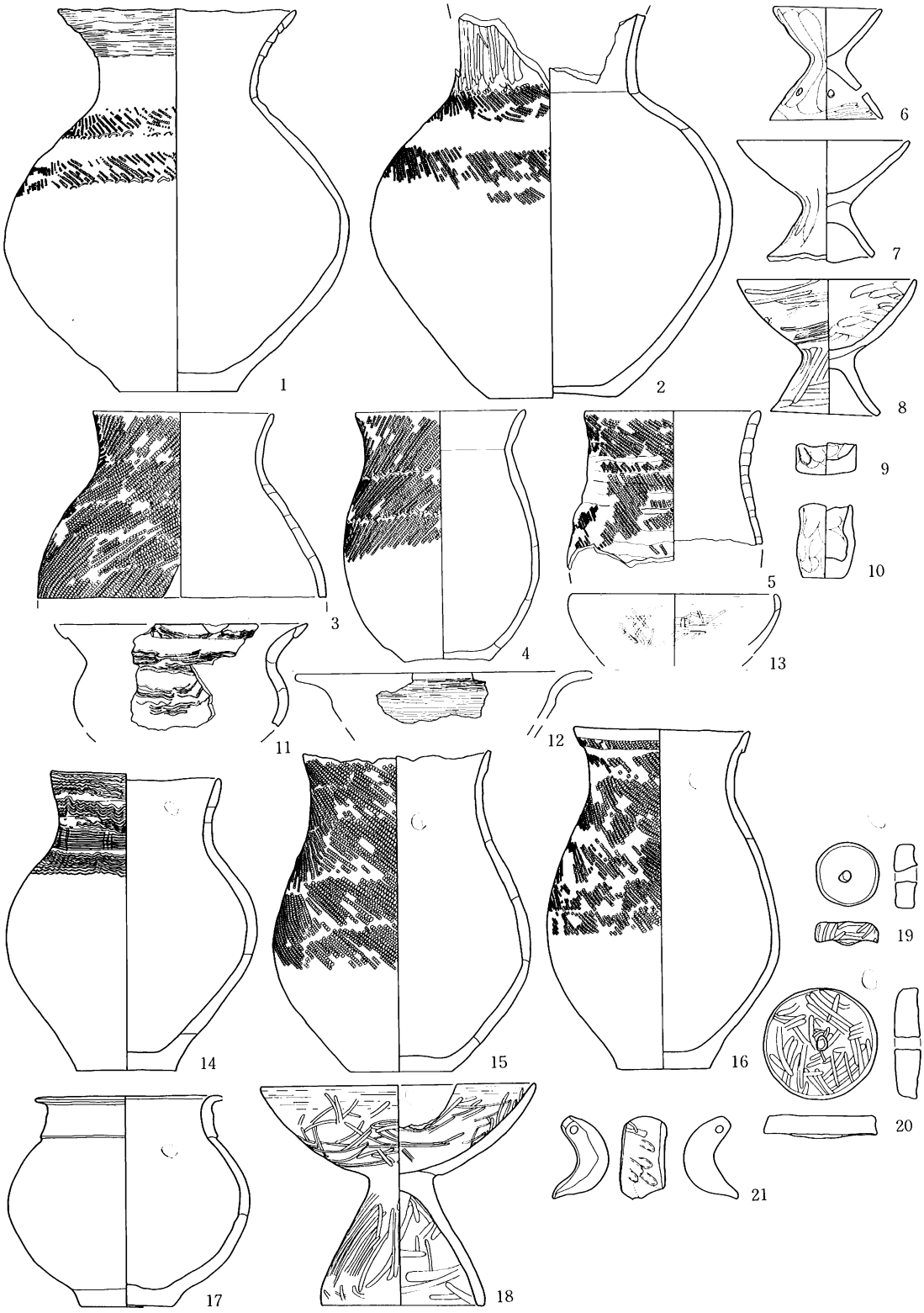
1～7. F 4－4 号住、8～10. F 4－2 号住、11～21. F 5－8 号住、22～30. F 4－13号住居

図26. 弥生時代の出土遺物 (2)



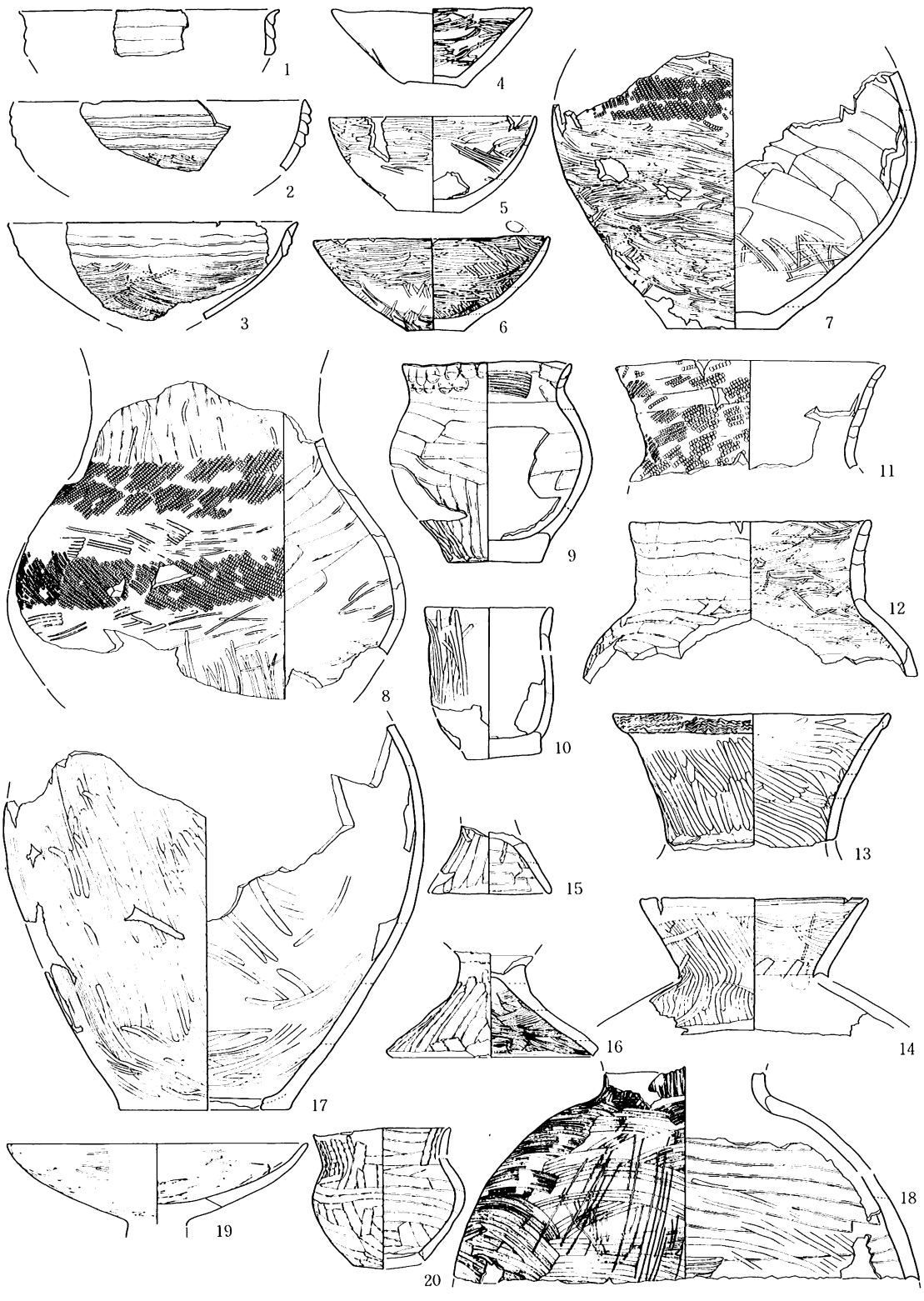
1～9. F 4－6 号住、10～13. F 5－25号住、14・15. F 4－19号住、16・17. F 4－27号住

図27．弥生時代の出土遺物 (3)



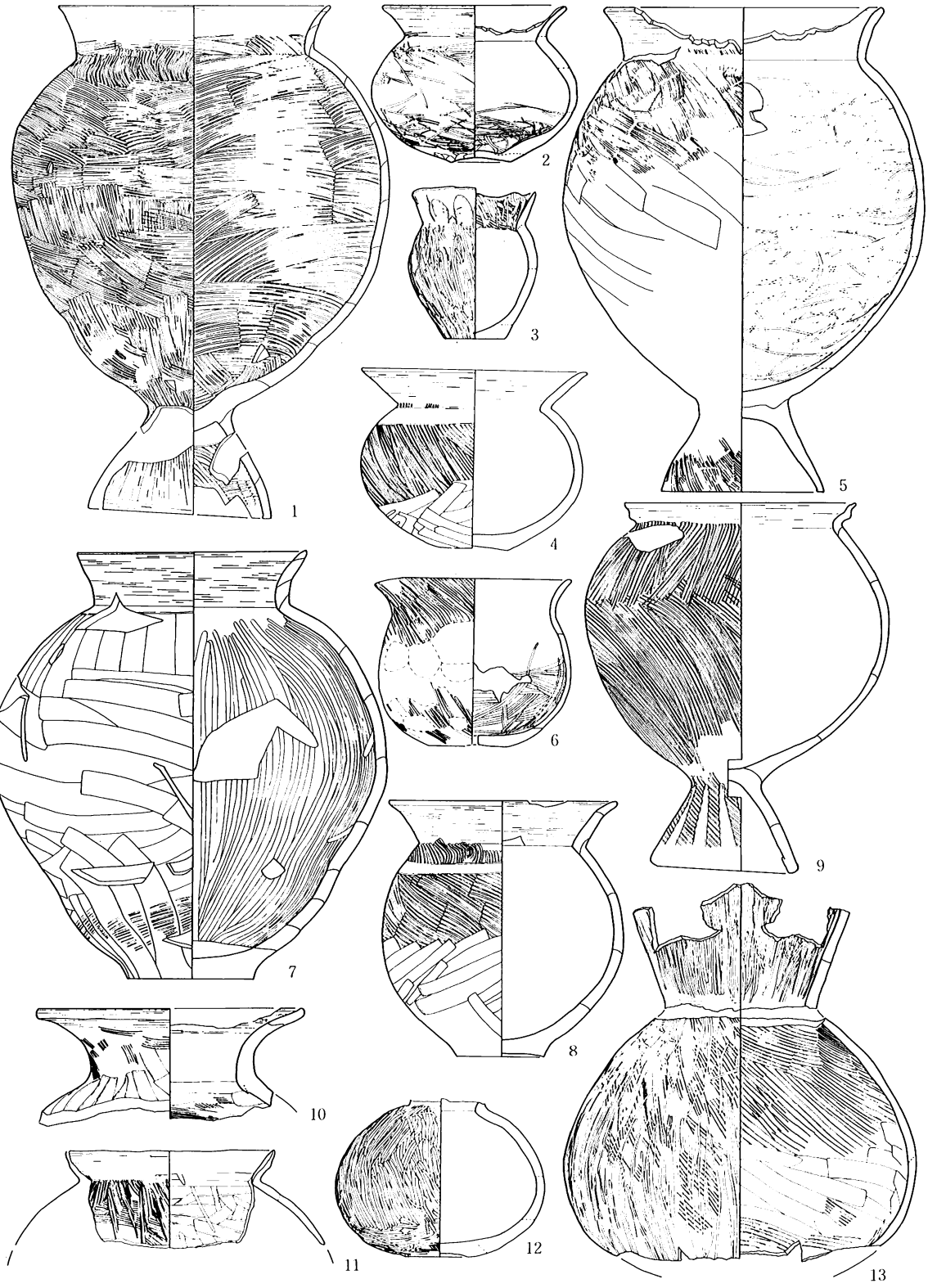
1～13．　F 4 － 1 号住、14～21．　F 4 －16号住

図28．弥生時代の出土遺物 (4)



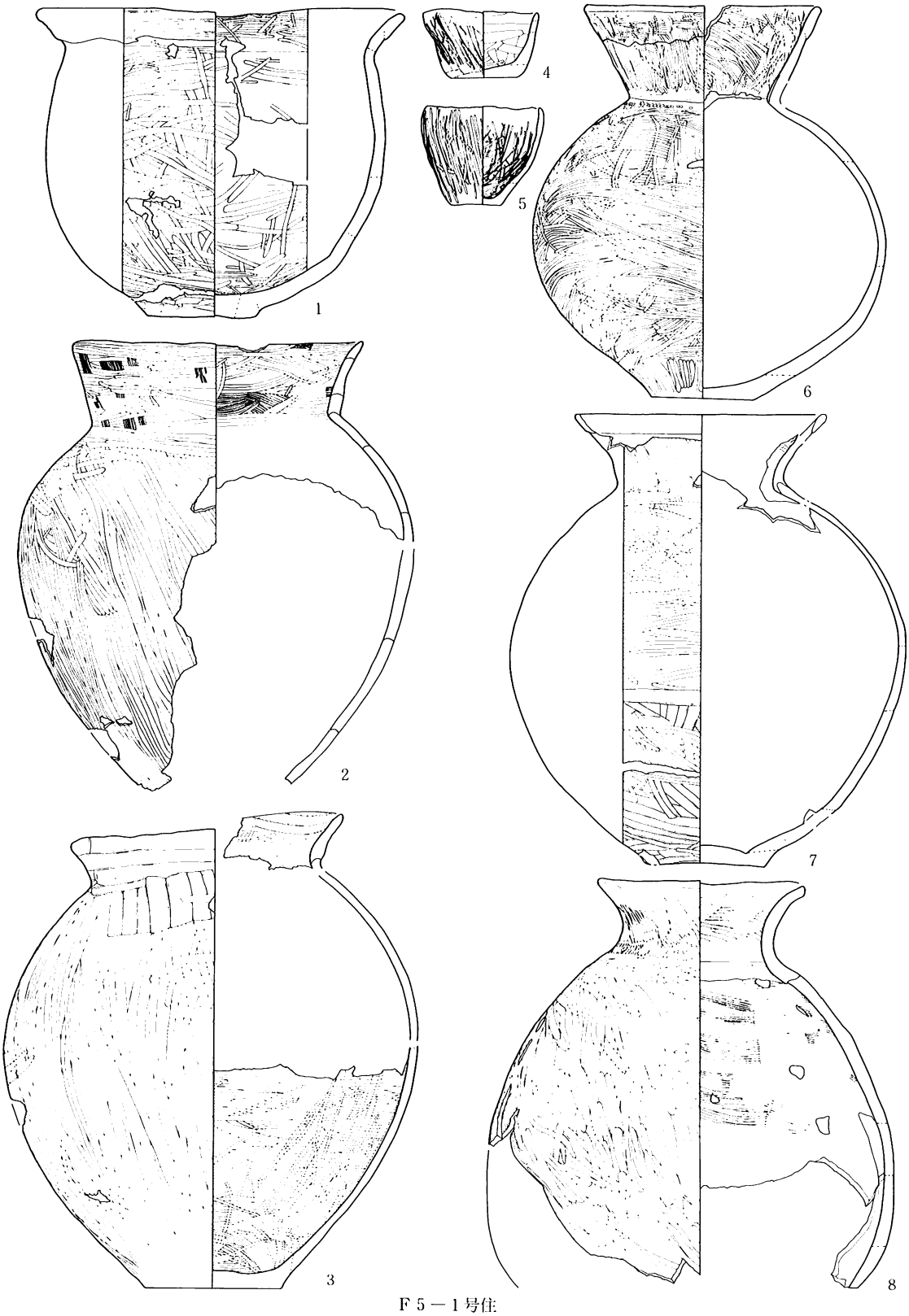
1～8．　F 4 －16号住、9～18．　F 4 －32号住、19・20．　F 4 －28号住

図29．古墳時代前期の出土遺物（1）



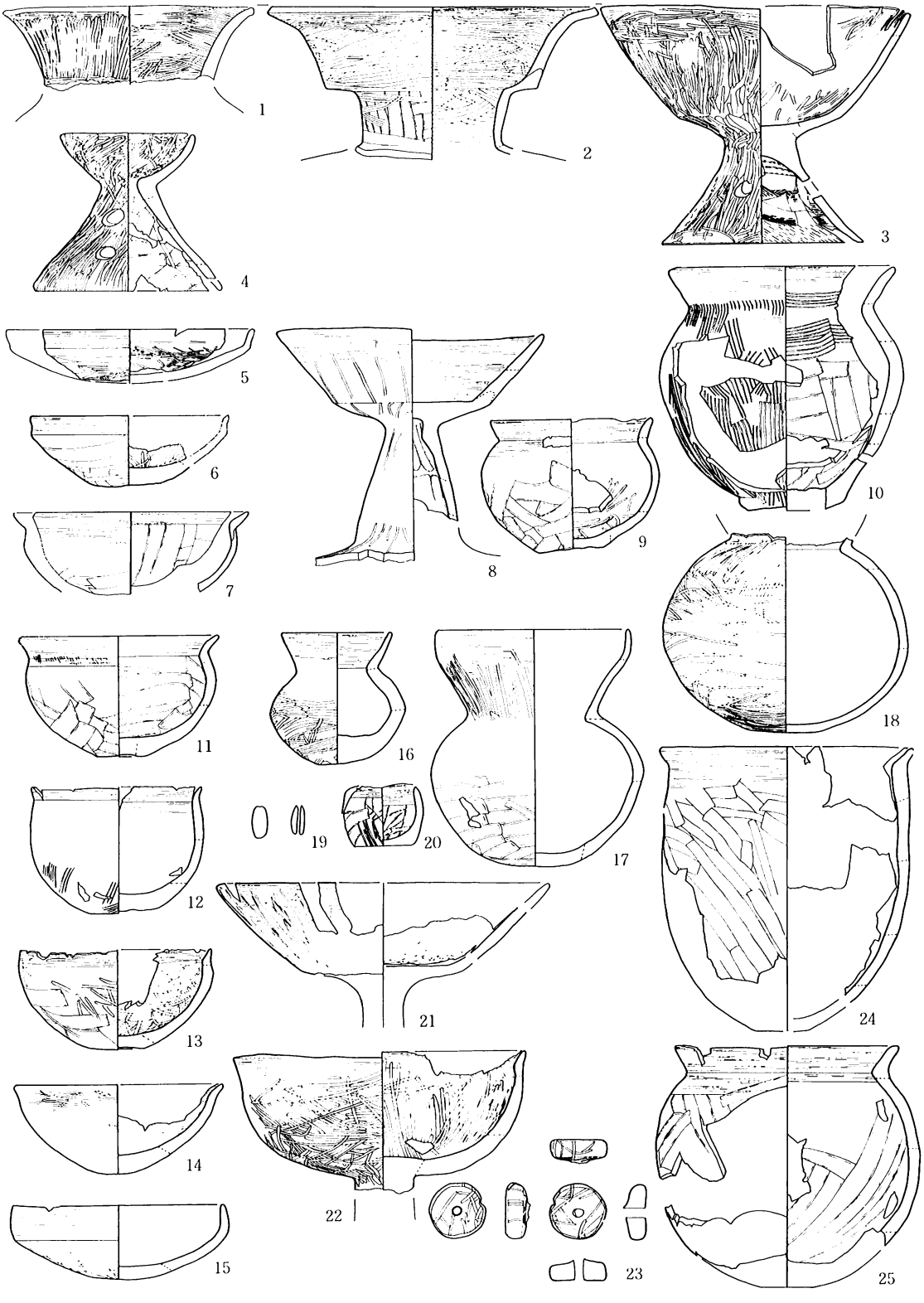
1～13．　F 5 － 1 号住

図30．古墳時代前期の出土遺物 (2)



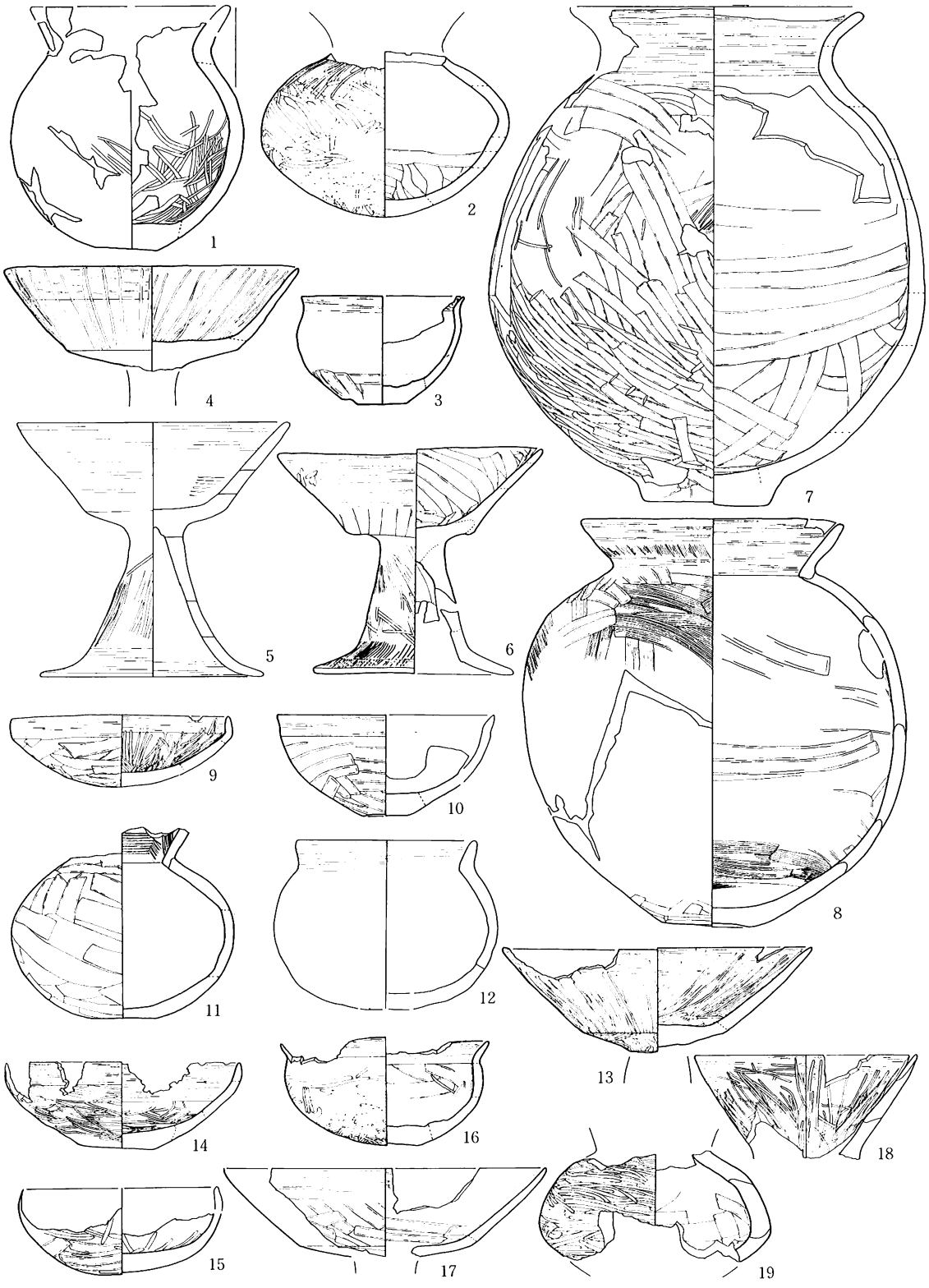
F５－１号住

図31．古墳時代前期の出土遺物 (3)、古墳時代中期の出土遺物 (1)



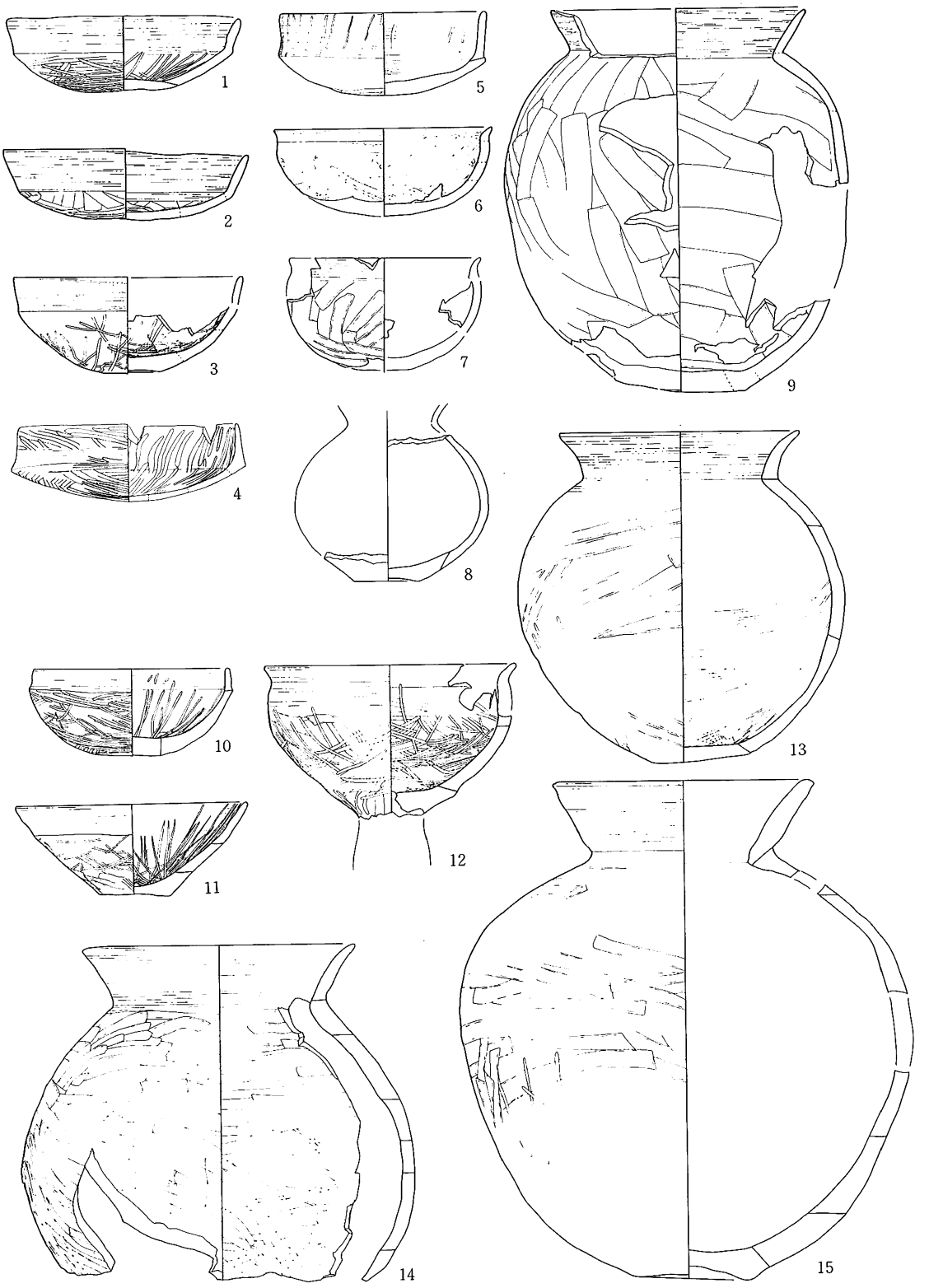
1～4．　F 5 － 1 号住、5～10．　F 4 －11号住、11～25．　F 4 －12号住

図32．古墳時代中期の出土遺物 (2)



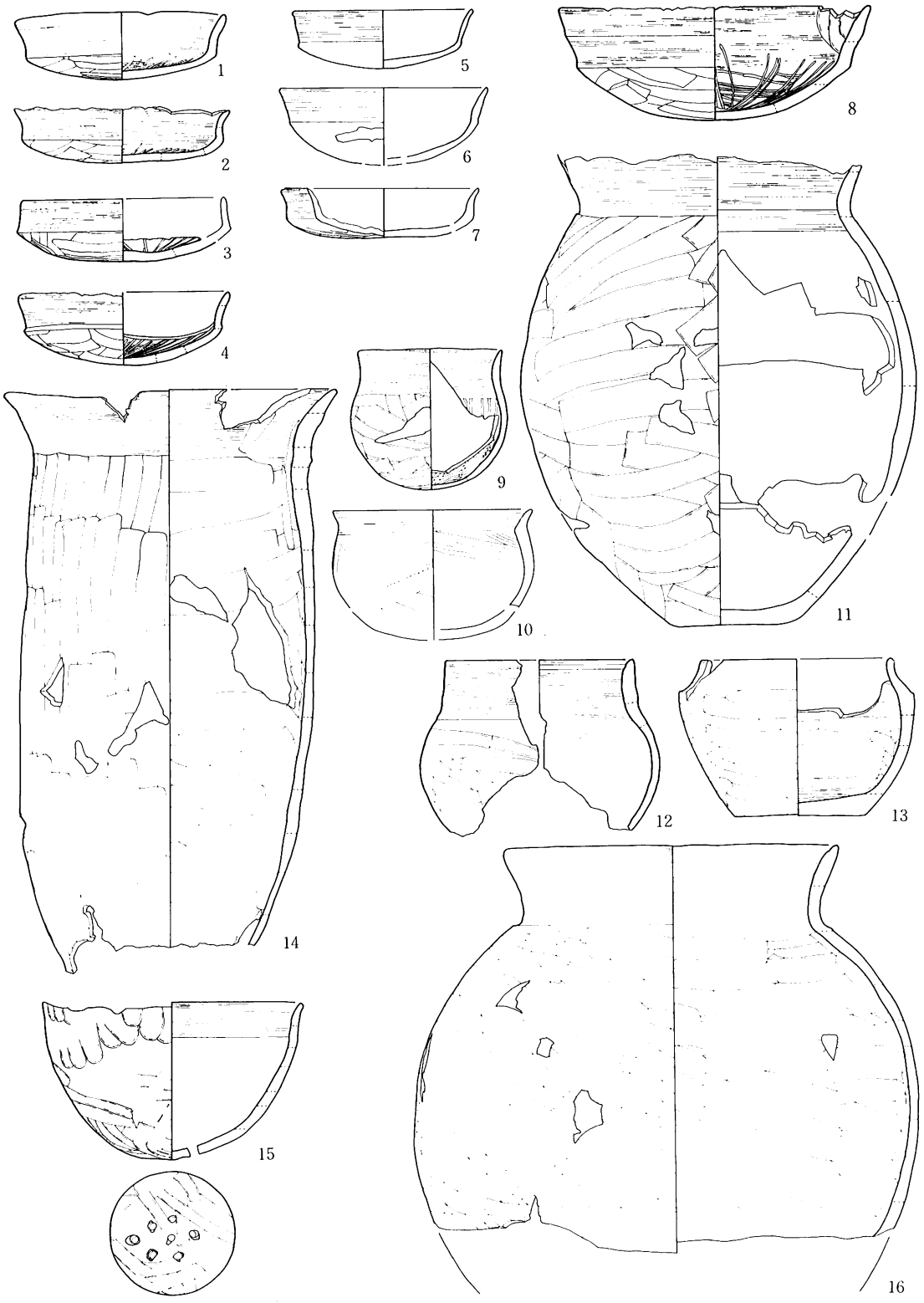
1～8．　F 4 －17号住、7～13．　F 4 －22号住、14～19．　F 4 －29号住

図33．古墳時代中期の出土遺物 (3)



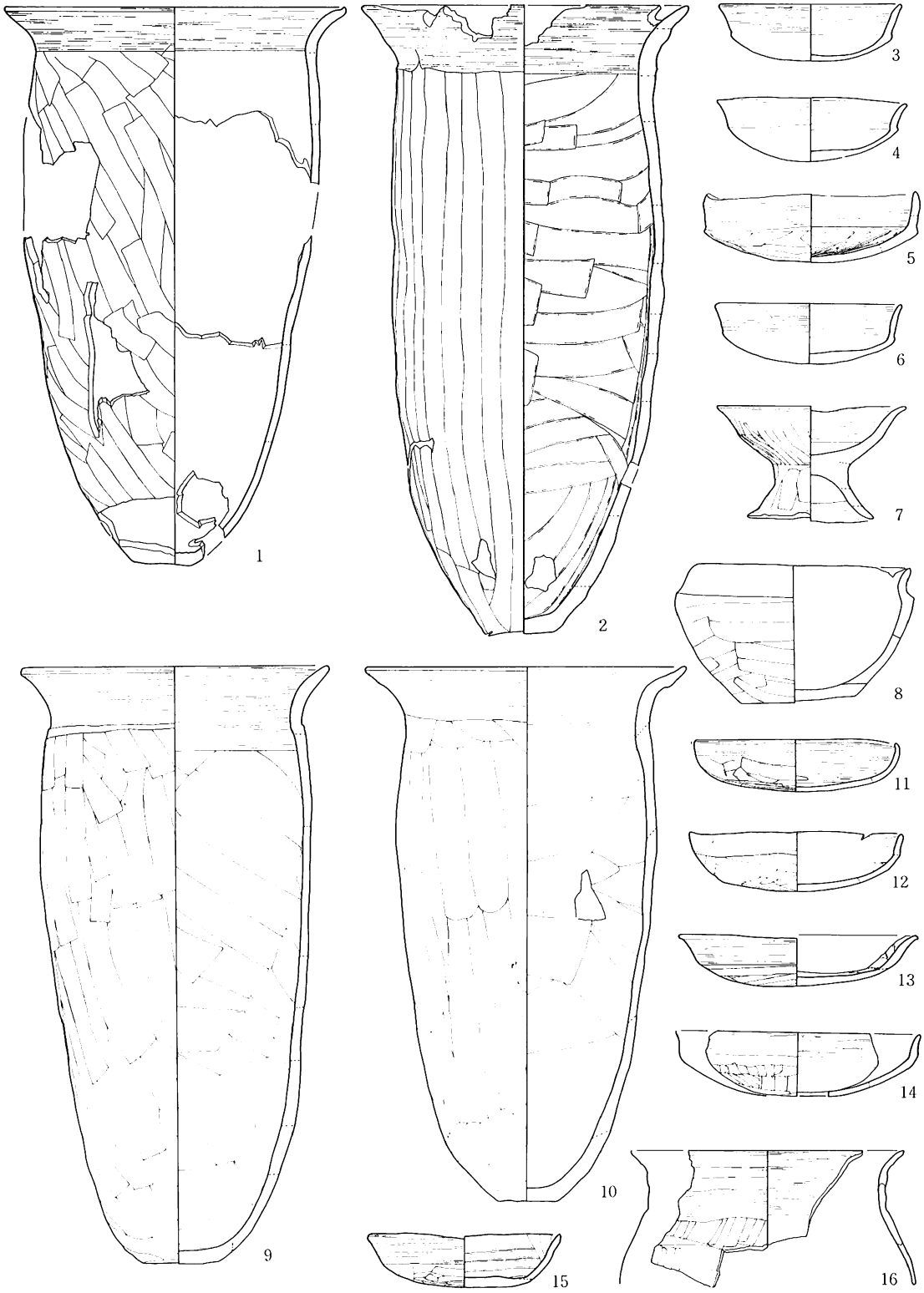
1～9．　F 5 －14号住、10～15．　F 5 －18号住

図34．古墳時代後期の出土遺物（1）



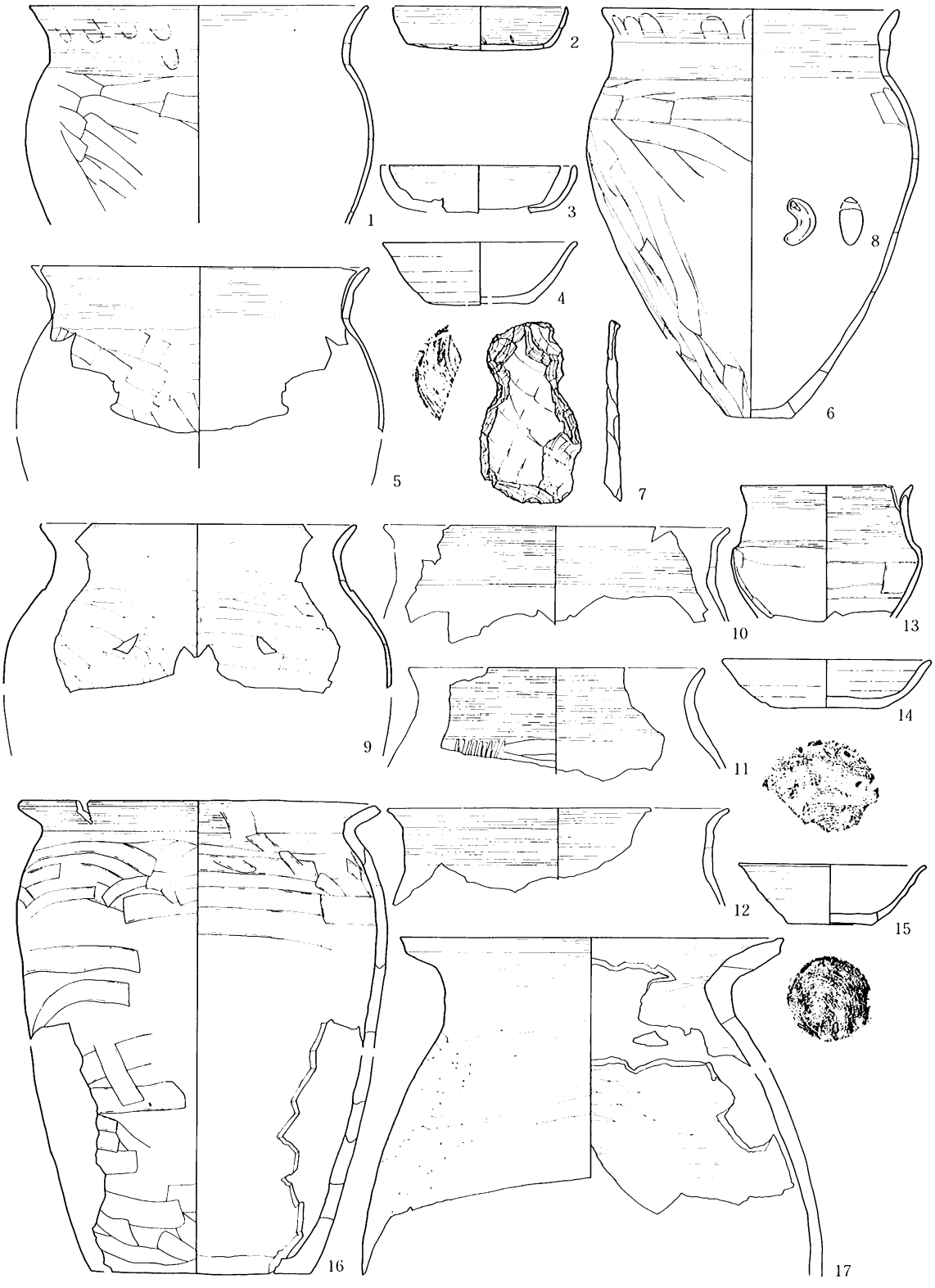
1～16．　F 4 －18号住

図35．古墳時代後期の出土遺物 (2)



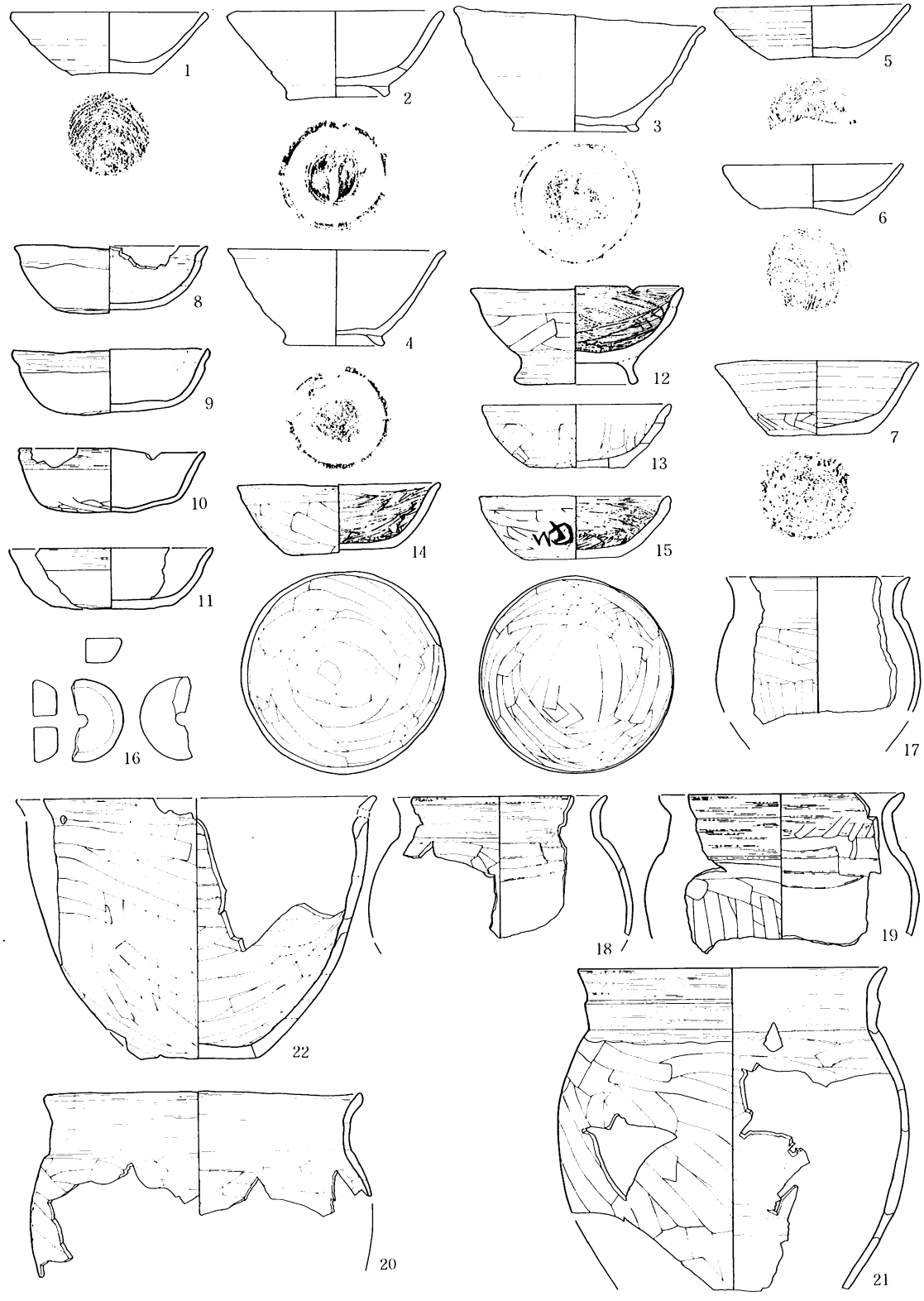
1・2．　F 4 －18号住、3～10．　F 5 －11号住、11．　F 5 －16号住、12～14．　F 4 － 3 号住、15・16．　F 4 － 5 号住

図36．奈良・平安時代の出土遺物 (1)



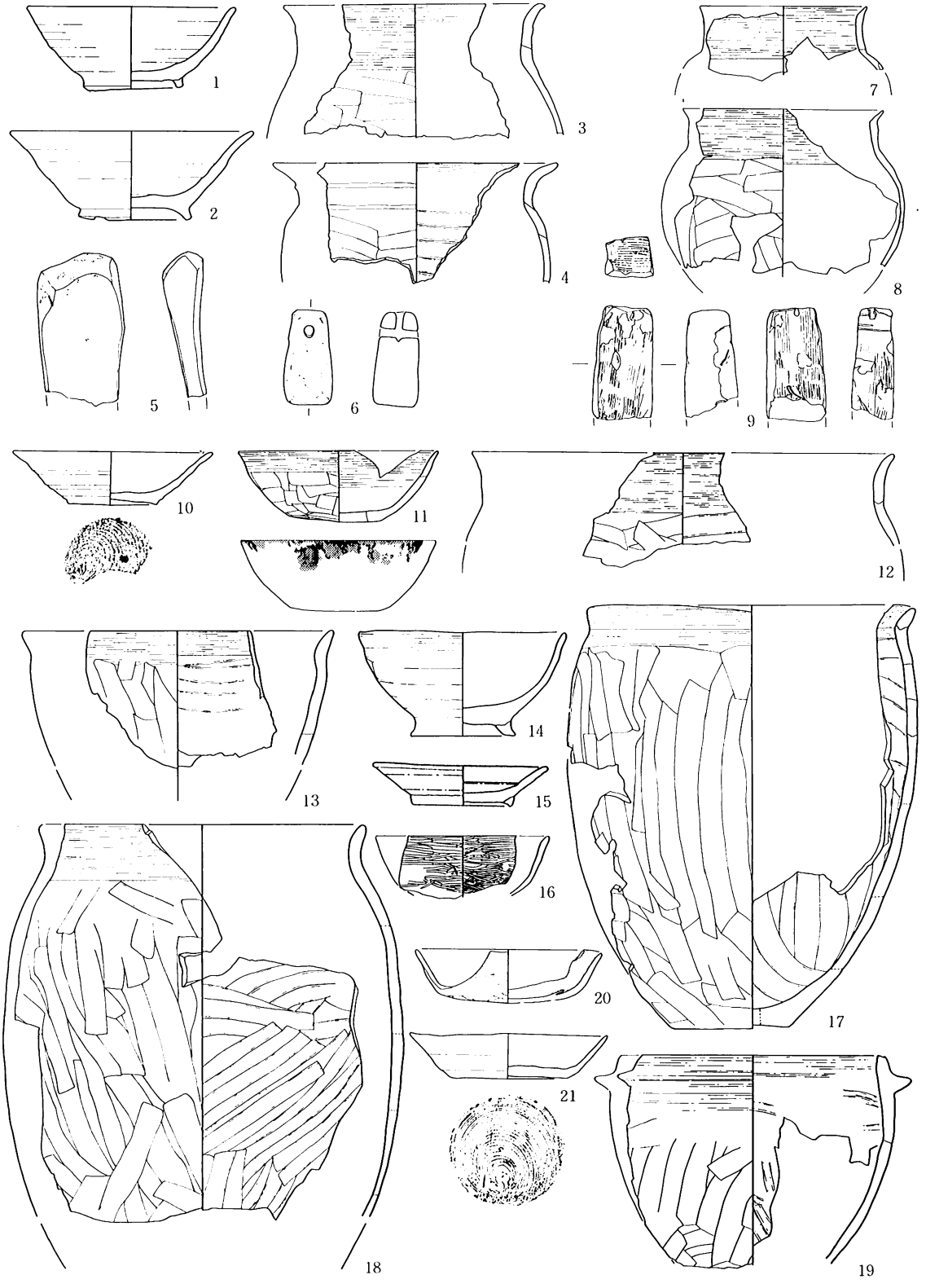
1・2．　F 4 －25号住、3～8．　F 5 －24号住、9．　F 4 －15号住、10～15．　F 5 －19号住、16～17．　F 4 －24号住

図37．奈良・平安時代の出土遺物 (2)



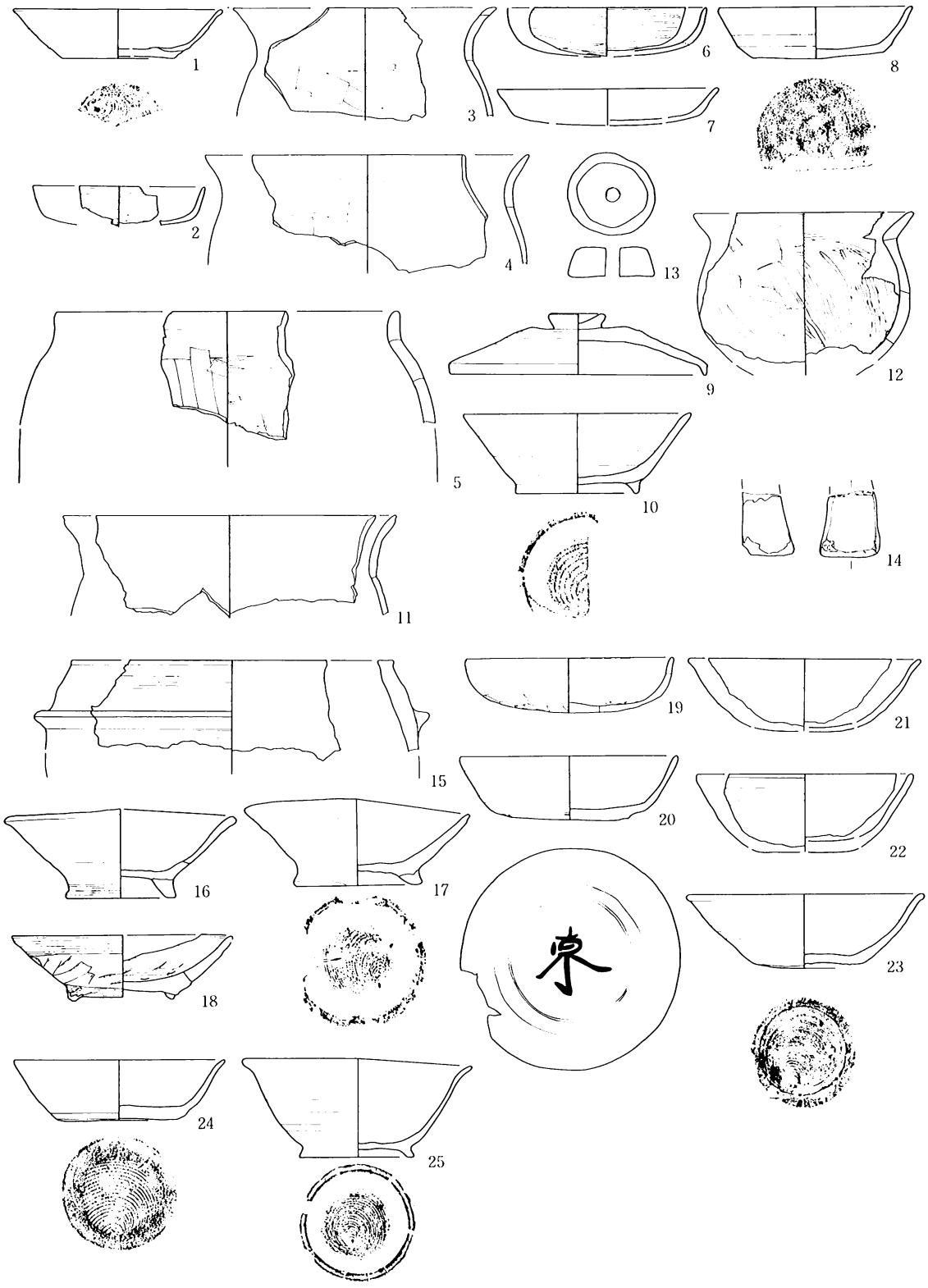
1．　F 4 －23号住、2～21．　F 4 －10号住、22．　F 4 － 9 号住

図38．奈良・平安時代の出土遺物 (3)



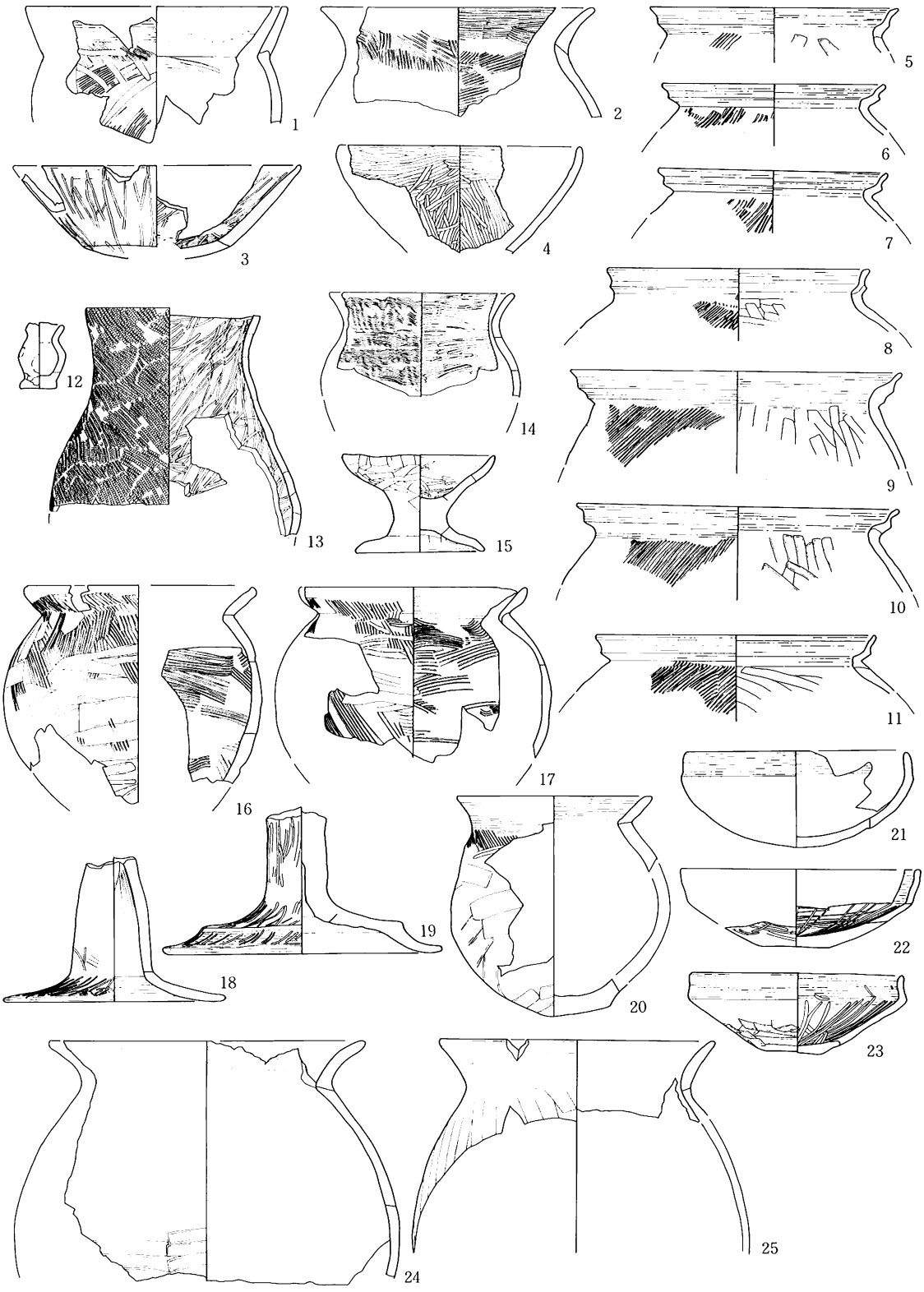
1～6．　F 5 －23号住、7～9．　F 5 － 2 号住、10～13．　F 5 － 5 号住、14～19．　F 5 － 6 号住、20・21．　F 5 －10号住

図39．奈良・平安時代の出土遺物（4）



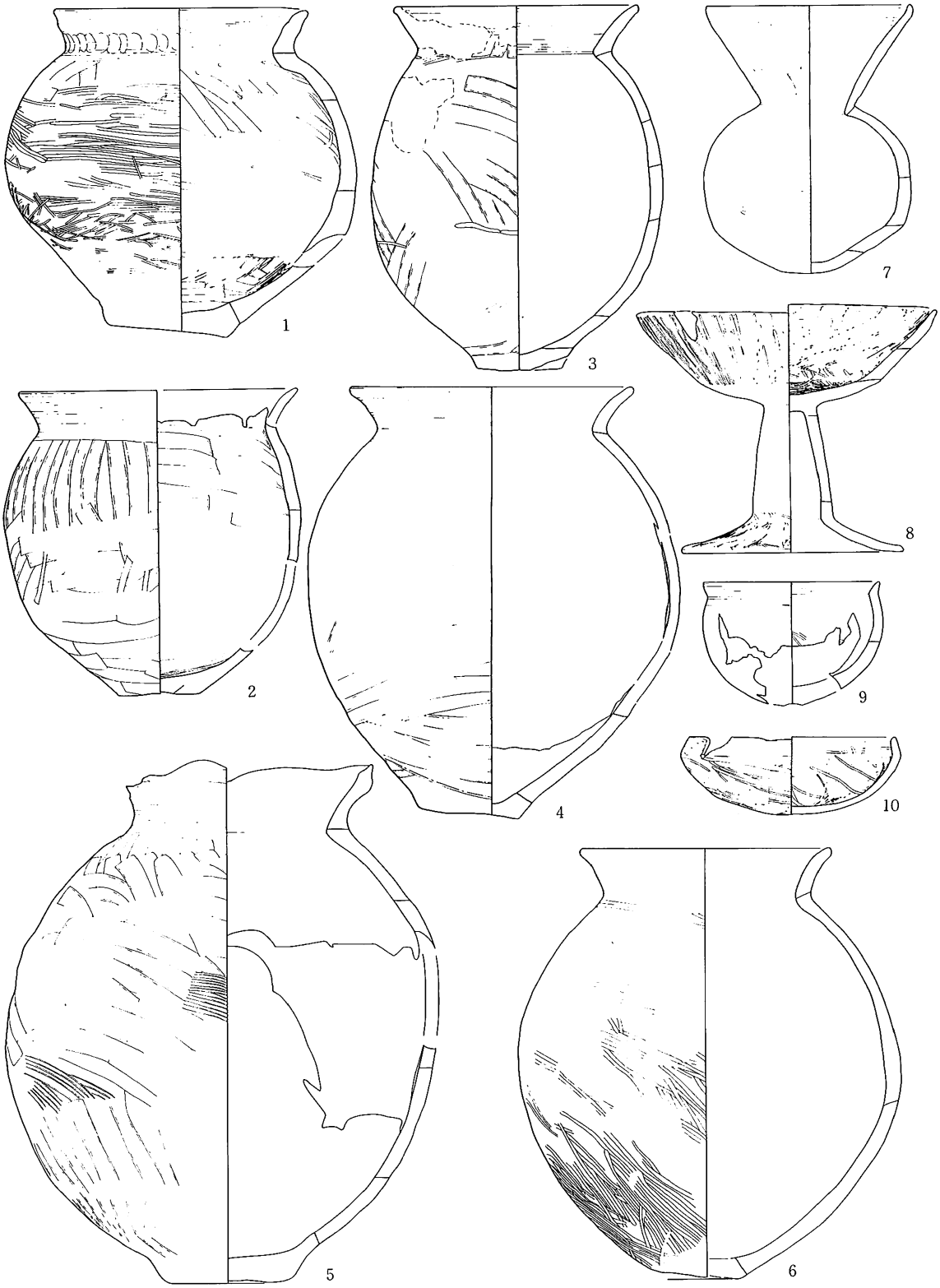
1～4．Ｆ５－７号住、5．Ｆ５－９号住、6～13．Ｆ５－17号住、14．Ｆ５－２号住、15～18．Ｆ５－20号住、19～25．Ｆ22号住

図40．グリッド出土遺物 (1)



1～11．　F 5－B t 30G、12～15．　F 5－B u v－29G、16～25．　F 5－B g－31G

図41．グリッド出土遺物 (2)



1～6．　F 5 — B 1 m—30・31G

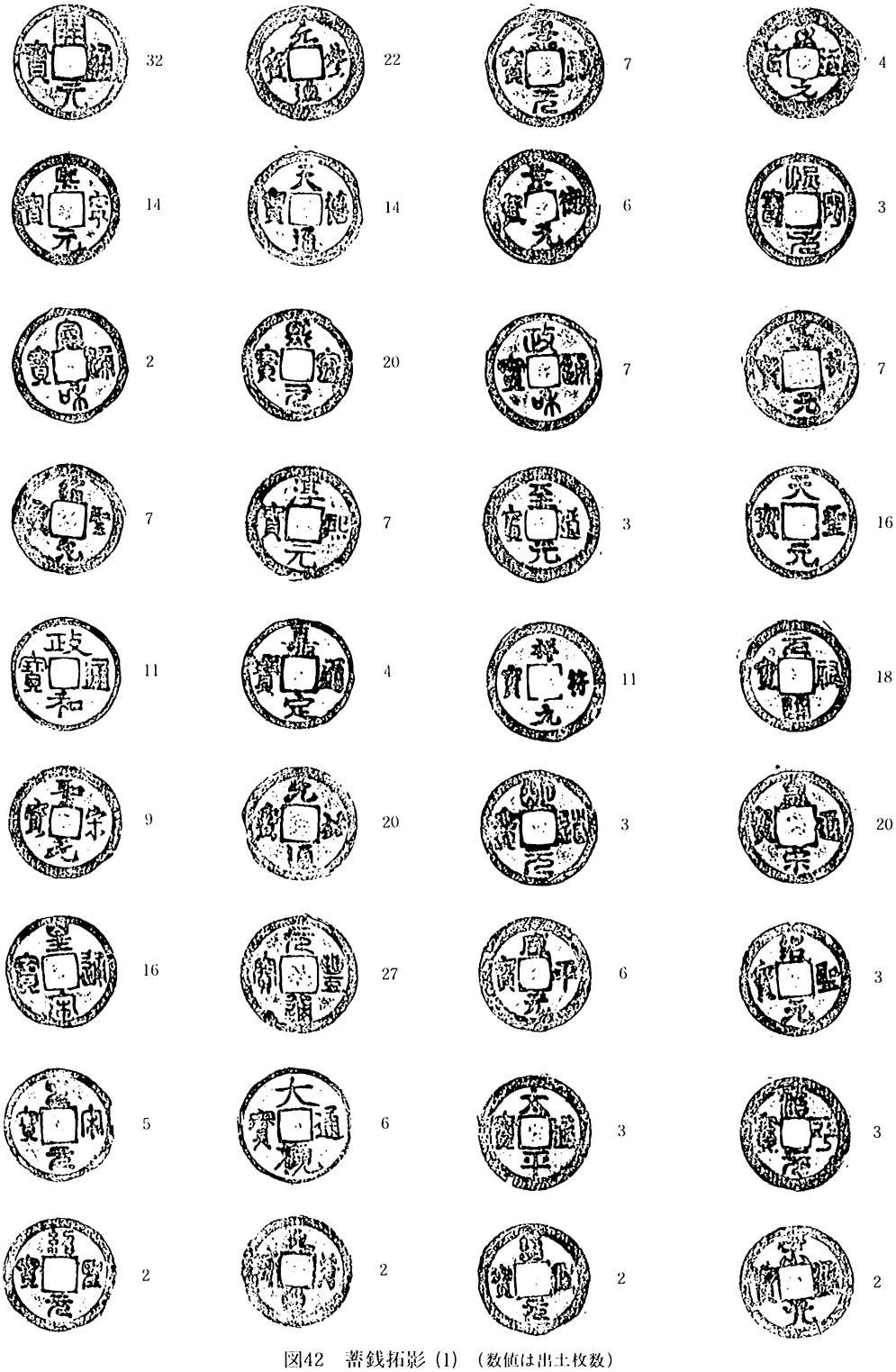


図42　蓄銭拓影（1）（数値は出土枚数）

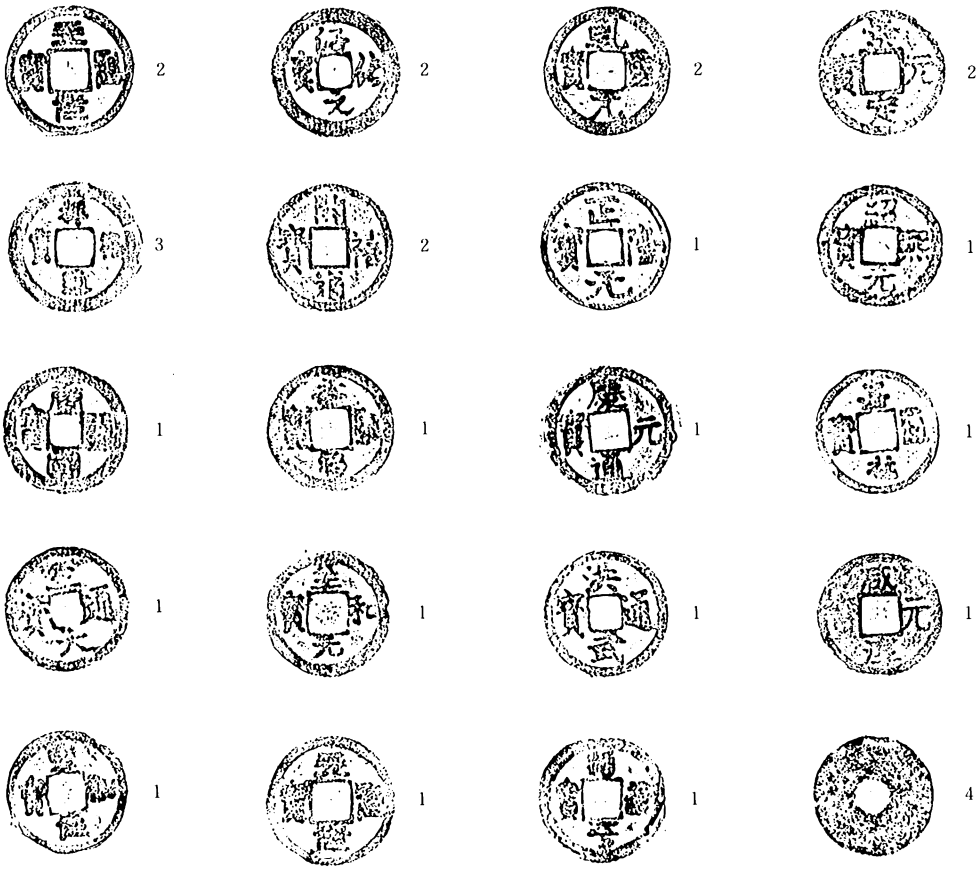


図43　蕃銭拓影 (2)　(数値は出土枚数)

堤頭遺跡では、1軒のみ確認された縄文時代前期後半の住居址を除き、弥生時代後期後半から奈良・平安時代にかけての住居址が54軒確認された。遺跡の周辺の遺物の散布状況からは、まだかなりの数の住居址の存在が予想される。ここでは、今回発掘区域内に確認された54軒の住居址の出土遺物を検討し、遺跡の時間的な変遷をとらえ、まとめとしたい。なを、出土遺物の分類、時間的変遷観について、赤井戸期については小島の分類に、古墳時代中期以降については坂口一の分類を基準とする。

赤井戸式期

13軒の住居址が検出された。これらの資料については、すでに一部を公表し、3期4細分を行い、さらに赤井戸式土器を弥生時代後期後半から古墳時代前期の土器と位置付けた。その後、いくつかの遺跡で資料の増加をみているが、拙稿の中でIII期とした資料の出土が多く、古く位置付けたⅠ、II期の資料の報告はない。このことから、やはり赤井戸式土器は新しいのではないかという疑念が生じるが、しかし、昭和61年度調査粕川村西迎遺跡第20号住居址（図44－1）、昭和62年度調査の同村前原遺跡3号住居址出土遺物、さらには、前橋市荒砥前原遺跡

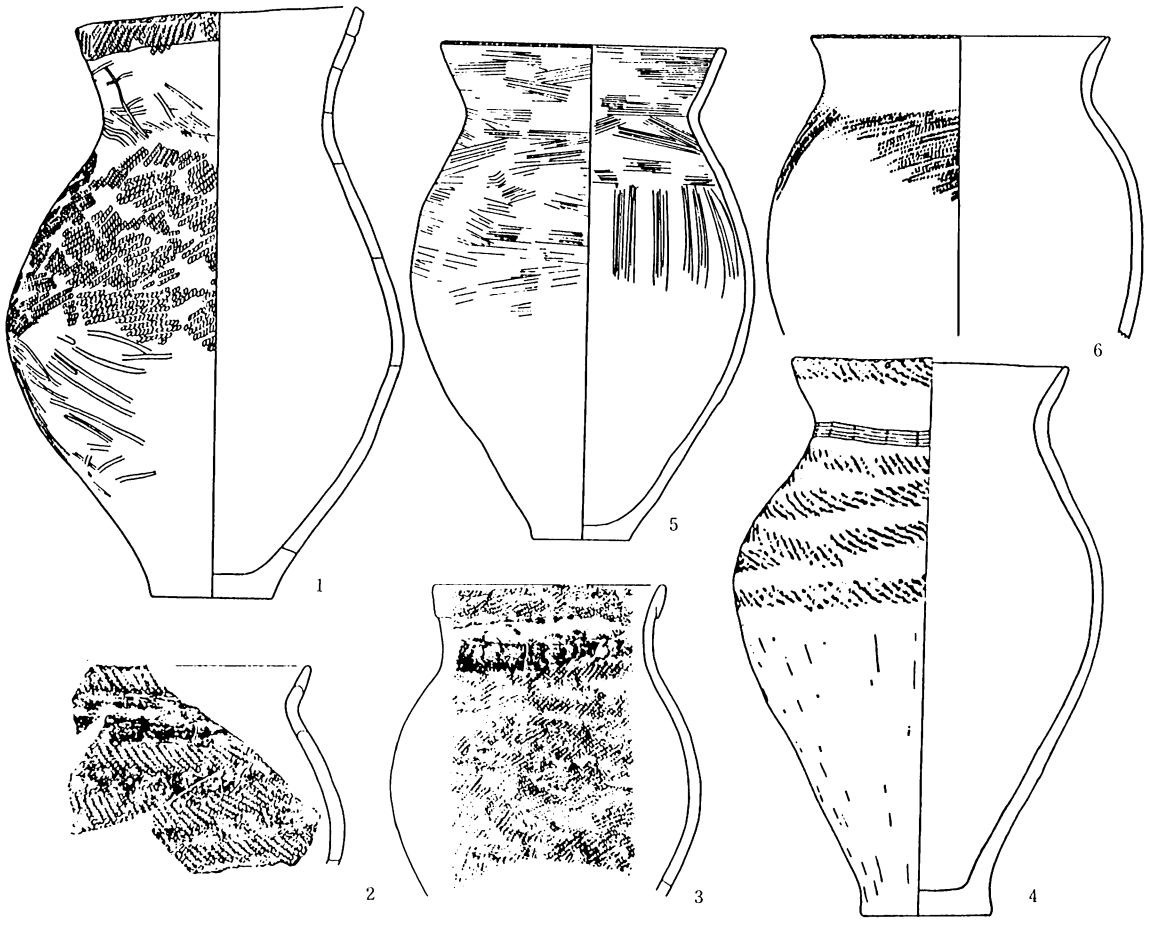


図44　赤城山南麓地域の赤井戸式土器の祖形

5T2号住居址(図44—2)、同5T3号竪穴(図44—3)、同2号住居址出土遺物（図44—4）、伊勢崎市西太田遺跡5号住居址(図44—6)、同135号住居址（図44—5）等の出土遺物の一部には、群馬県で弥生時代中期後半とされる竜見町式期の土器群の中に赤井戸式土器の萌芽を示唆するような資料が存在する。これらの資料からすれば赤井戸式土器の存続年代を弥生時代後期全般にまで及ぶものと考えて行かねばならないだろう。今後は増加しつつ赤城山南麓地域の弥生時代中期土器群からの分析と、古墳時代前期土器群からの遡行的な分析が不可欠となろう。

ここではF4—4・6号住居址（図25—1～7、図26—1～9）→F5—8、F4—32号住居址（図25—11～21、図28—9～18）→F5—25号住居址（図26—10～13）という変遷をとらえ、それぞれ、赤井戸IIa期、IIb期、III期に該当できる。これらの資料について、一応、3世紀後半から4世紀前半の年代観を与えておく。

古墳時代前期

明らかに古墳時代前期に位置付けることのできる住居址はF5—1号住居址（図29・30、図31—1～4）1軒のみである。多くの検討すべき内容をもっている資料であるが、とりあえず4世紀中葉の年代観を与えておきたい。

古墳時代中期（5世紀の土器）

本遺跡では、F4—11(図32—5～10)、12(図32—11～25)、17(図32—1～8)、22(図32—9～13)、29(図32—14～19)号住居址、F5—14(図33—1～9)、18（図33—10～15）号住居址の計7軒、それに土器集中部2カ所（図40—16～15、図41—1～6）の一括土器を当該期の資料として取り上げることができる。ただし、これらの資料の中には須恵器の伴出した資料はない。

該期は坂口によりI～Vまでの5段階に分けられている。本遺跡出土資料の内、この坂口編年のI段階を明瞭に示す資料はない。ただし、B1・m—30・31グリッド出土土器（図41—1～10）は口縁端部が僅かに内傾する大型坩（図41—7）や膨らみを持ち、上位がくびれる脚柱部を持つ高坏（図41—8）などの存在からI段階に近い位置付けが可能であろう。II段階はF4—12、22、29号住居址、F5—18号住居址、Bg—31グリッド出土遺物、III段階はF4—11、17号住居址、IV段階はF5—14号住居址をそれぞれあてることができる。既に公表している当村の前田遺跡の資料では、同様にI段階が欠落しているが、II段階は前田3号住居址、III段階は前田1号住居址、IV段階が前田2号住居址に該当しよう。竈の受容時期は本遺跡ではIII段階からと考えられる。赤城山南麓地域の遺跡でも竈の受容はこのIII段階を前後する時期にあたっている。

古墳時代後期（6～7世紀の土器）

本遺跡では3軒の住居址が検出されている。該期の資料は、坂口によりIII～X段階までの8段階に分けられている。そのうち、F4—18号住居址（図34、図35—1、2）が坂口編年のIV段階、F5—11号住居址（図35—3～10）、がV段階、F4—3号住居址（図35—12～14）がVIIIないしはIX段階に比定されよう。

奈良・平安時代（7～11世紀の土器）

本遺跡では最も住居軒数が多く27軒が検出されている。坂口によればIからXIV段階に分けられている。

F4—3号住居址（図35—12～14）がII段階、F5—17号住居址（図39—6～13）がIV段階、F5—7（図39—1～4）、22（図39—19～22）号住居址がVI段階、F4—10（図37—2～21）、F5—24（図36—3～8）号住居址がIX段階、F4—15（図36—10～15）住居址がIXないしX段階、F5—20（図39—15～18）号住居址がXI段階、F4—24（図36—16，17）、F5—6（図38—14～20）、9（図39—5）号住居址がXVI段階にそれぞれ比定されよう。

以上、堤頭遺跡の集落は弥生時代後期から古墳時代前期にかけて3段階、古墳時代前期1段

階、古墳時代中期4段階、古墳時代後期3段階、奈良・平安時代7段階という18段階の変遷が予測される。このことからすると堤頭遺跡の発掘区域内では一時期、1軒ないし2～3軒での構成となる。そして、古墳時代中期の初頭、古墳時代後期の初頭、9～11世紀における数回など、何回かの集落の途絶がみられる。また、古墳時代中期のII、III段階は最も住居址数が増えるということが指摘できる。

これらのことから、堤頭遺跡は廃絶型の集落としてとらえられるかもしれない。しかし、最初に述べたように、今回の調査は遺跡全体の僅かの部分の調査でしかなく、集落の継続の問題については、周辺の調査の結果を待って吟味していきたい。

また、古墳時代中期に遺構数が増えるという現象がみられるが、この傾向はこの堤頭遺跡での特殊事情ではなく、これまでの粕川村全体の遺跡分布あるいは既調査遺跡からの成果からすれば、むしろ、粕川地区全体の傾向としてとらえることができる。

この点は、すでに鹿田雄三により、県内でもより古い群集墳のひとつである粕川村膳所在の白藤古墳群の分析などを通して、5世紀代の開発にからむ地域的な特質としてとらえられるのではないかという見通しが立てられている（鹿田　1986)。今後は、この白藤古墳群のより精緻な整理分析を通して、この古墳時代中期から古墳時代後期初頭の粕川村における遺跡の増加と集落の大型化の問題について深化していきたい。今後の大きな課題の一つである。

引用参考文献

小島純一　1983　赤井戸式土器について
麻生優編『人間遺跡遺物—わが考古学論集1—』

坂口一ほか　1986　奈良・平安時代の土器の編年—住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討—
群馬県史研究24

坂口一　1986　古墳時代後期の土器編年—三ツ寺III遺跡を中心とした土師器と須恵器の平行関係—
群馬文化208号

坂口一　1987　群馬県における古墳時代中期の土器編年—共伴関係による土器型式組列の検討—
群馬県埋蔵文化財調査事業団　研究紀要4

鹿田雄三　1986　月田古墳群、白藤・新宿古墳群と粕川村の古墳分布—古墳分布からみた地域拡大—
『粕川村の遺跡—遺跡詳細分布調査報告書—』
粕川村教育委員会編

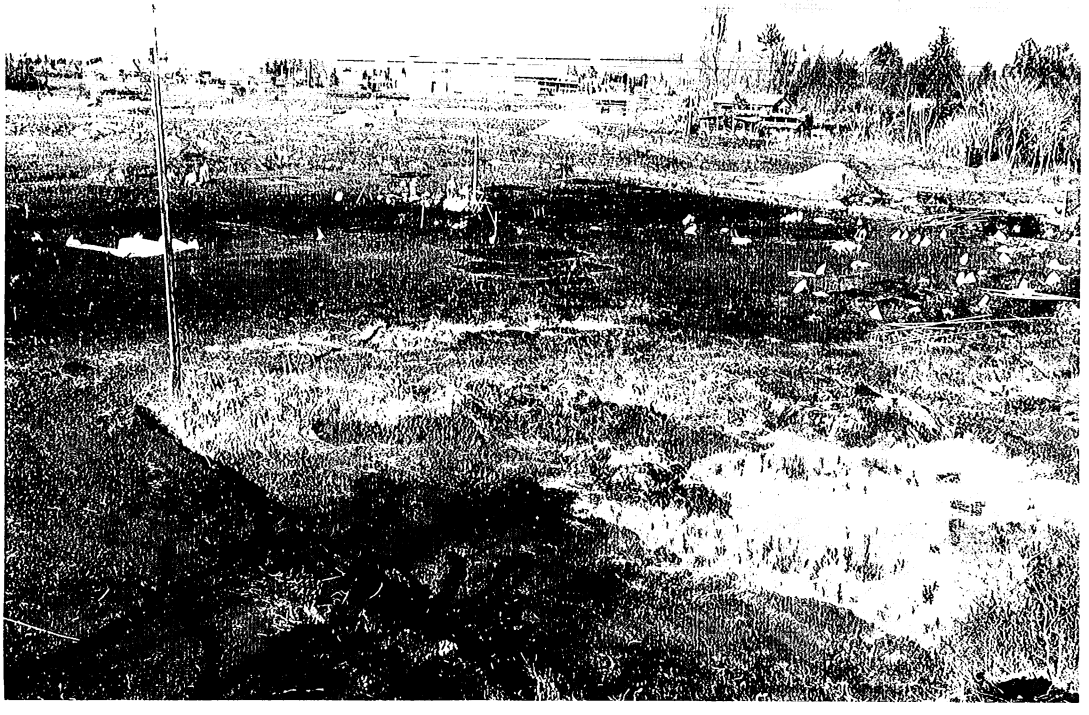
平野進一　1976　群馬県前橋市荒砥前原遺跡—赤城山南麓における弥生時代中期から後期にかけての住居址とその出土遺物について　信濃28—4

藤巻幸男ほか　1985　荒砥前原遺跡　赤石城址
群馬県教育委員会

村田喜久雄ほか　1982　西太田遺跡
伊勢崎市教育委員会

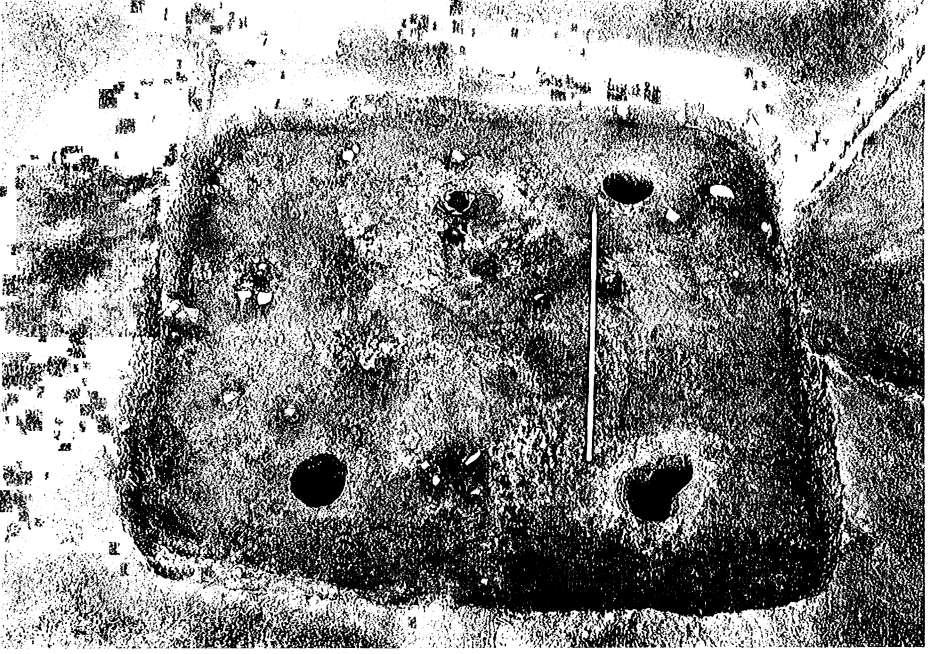
PL. I

提頭地区(Ｆ４)全景

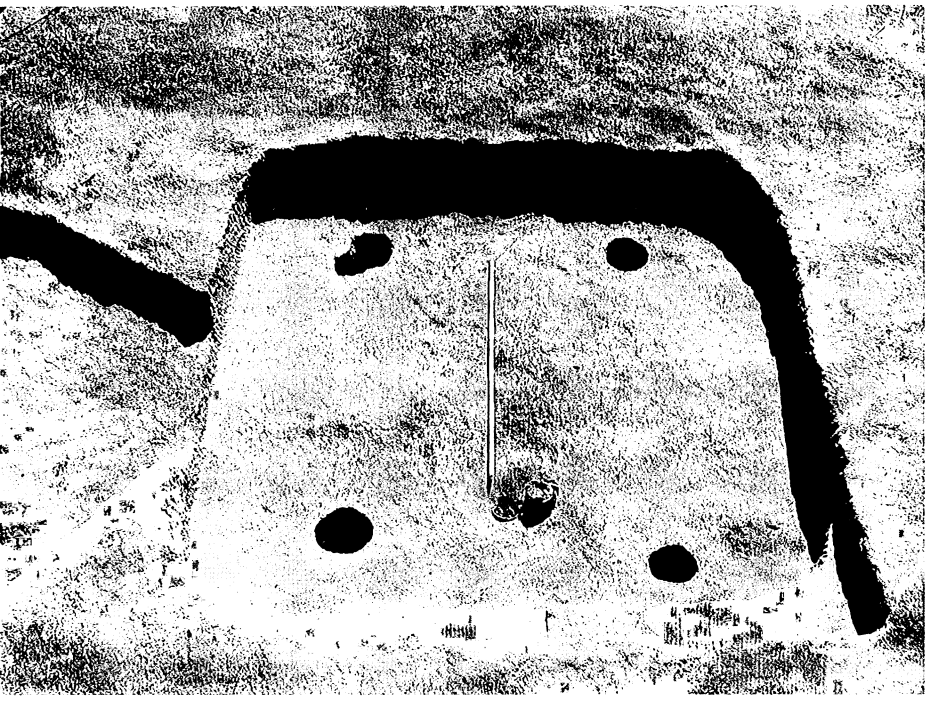


石切地区(Ｆ５)全景

PL. 2



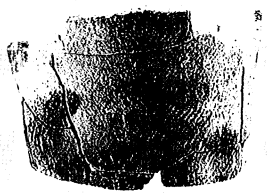
1. F5 -15号住居遺物出土状態



2. 同全景

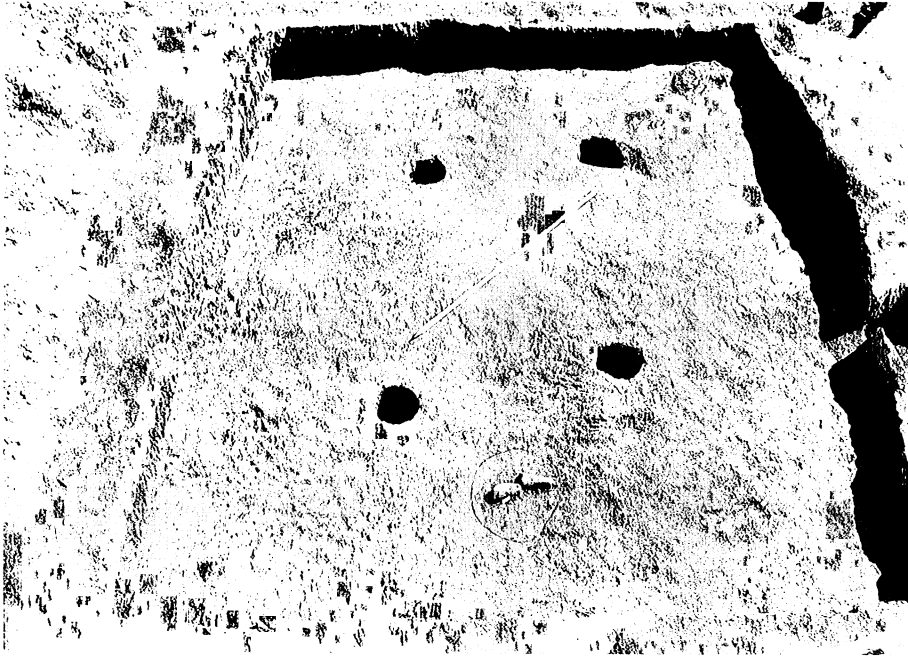
F5-15-24-1

F5-15-24-6



F5-15-24-5

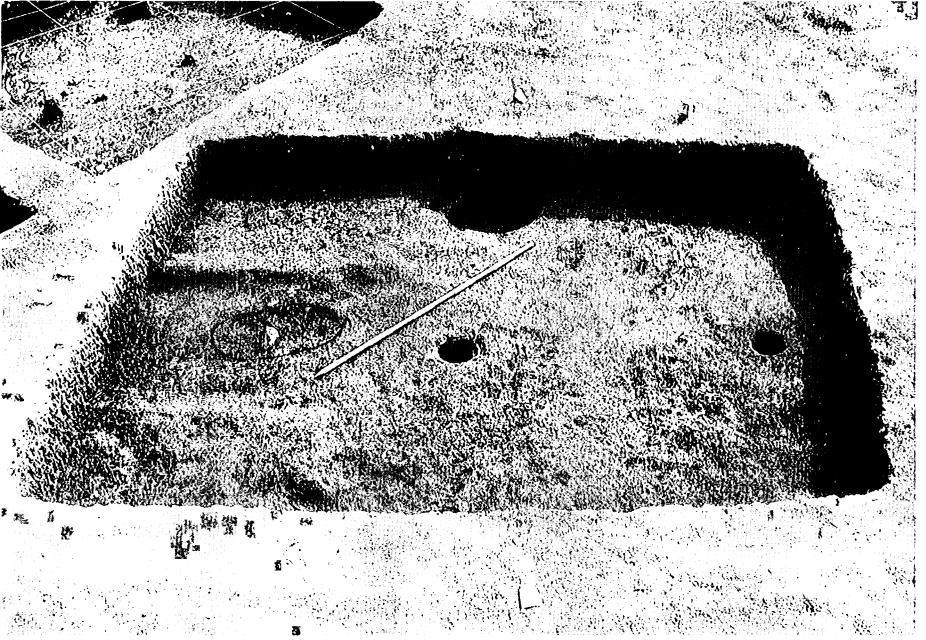
PL. 3



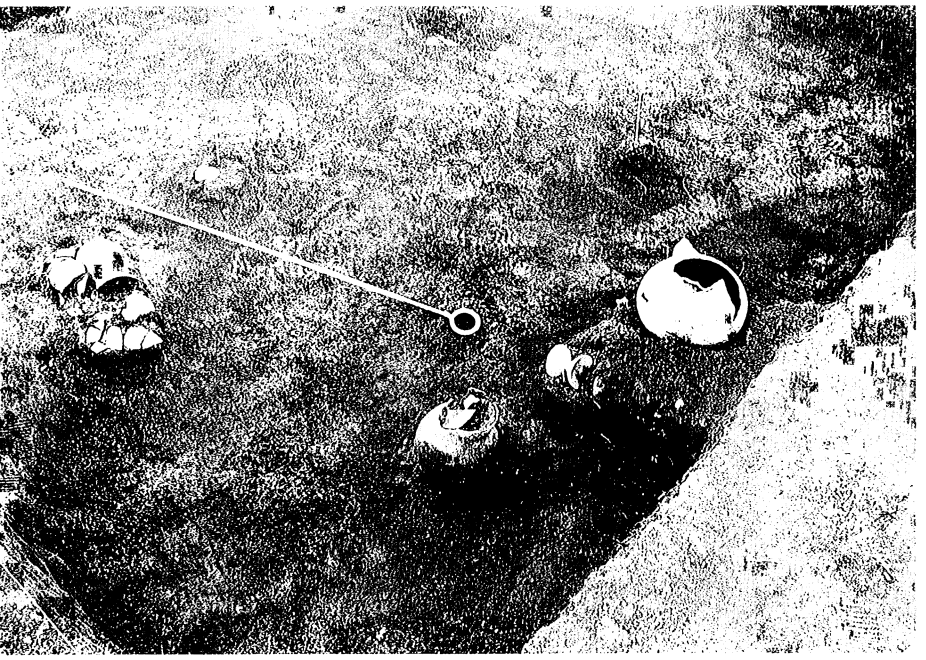
1．F4-6号住居全景

2．同遺物出土状態

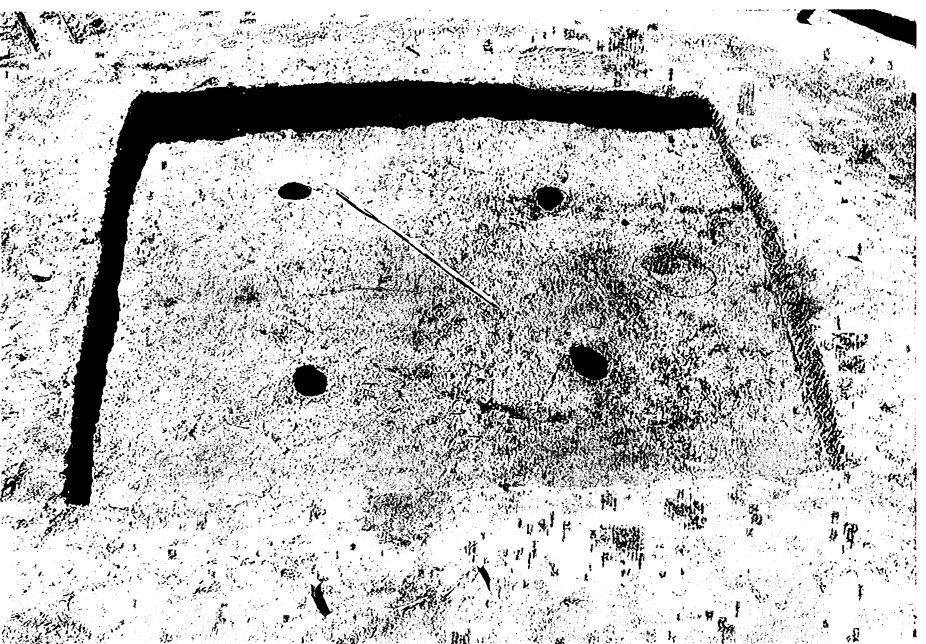
PL. 4



1．F4-13号住居全景

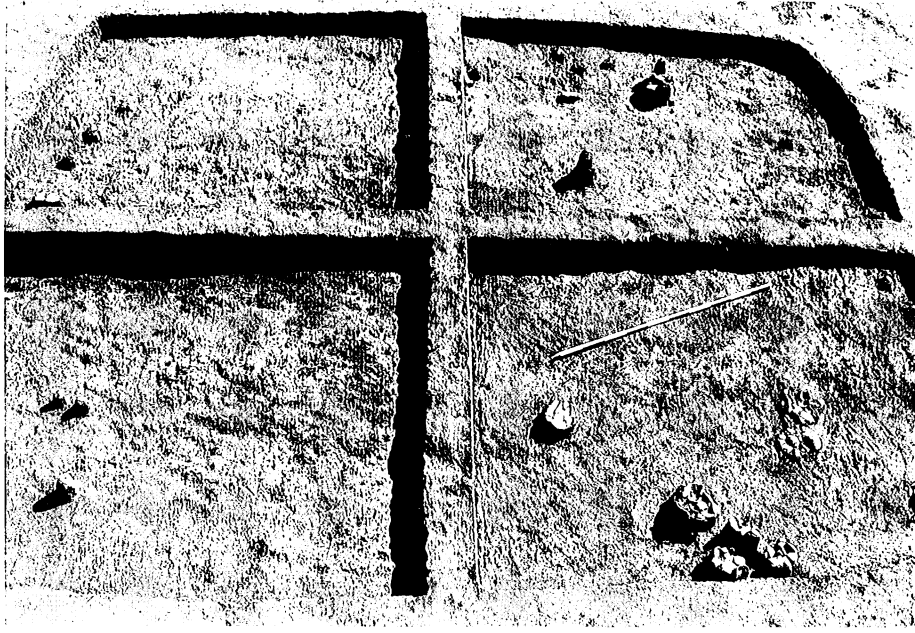


2．F4-14号住居遺物出土状態

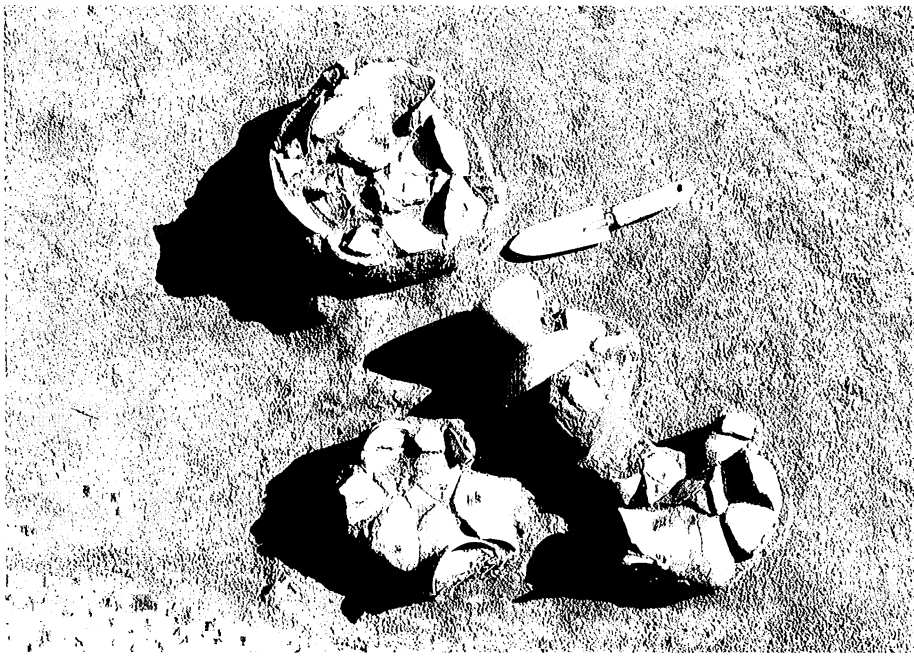


3．同全景

PL. 5

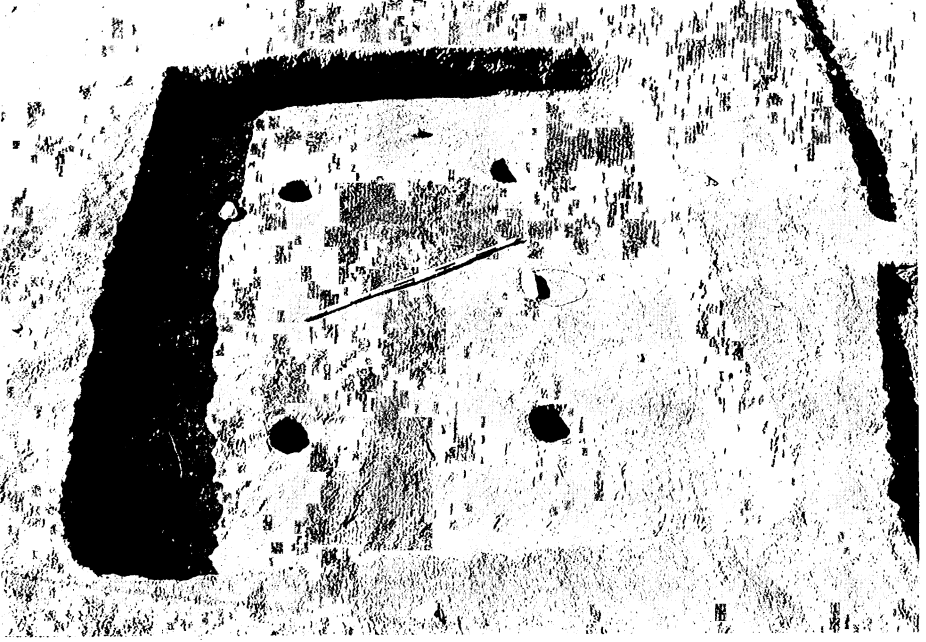


1．F4-16号住居遺物出土状態

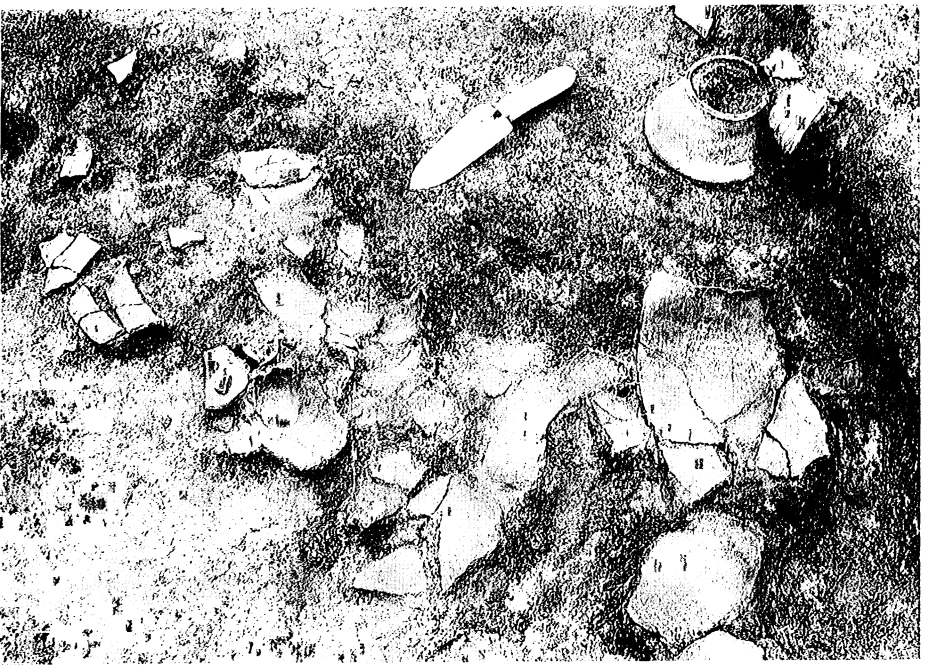


2．同上

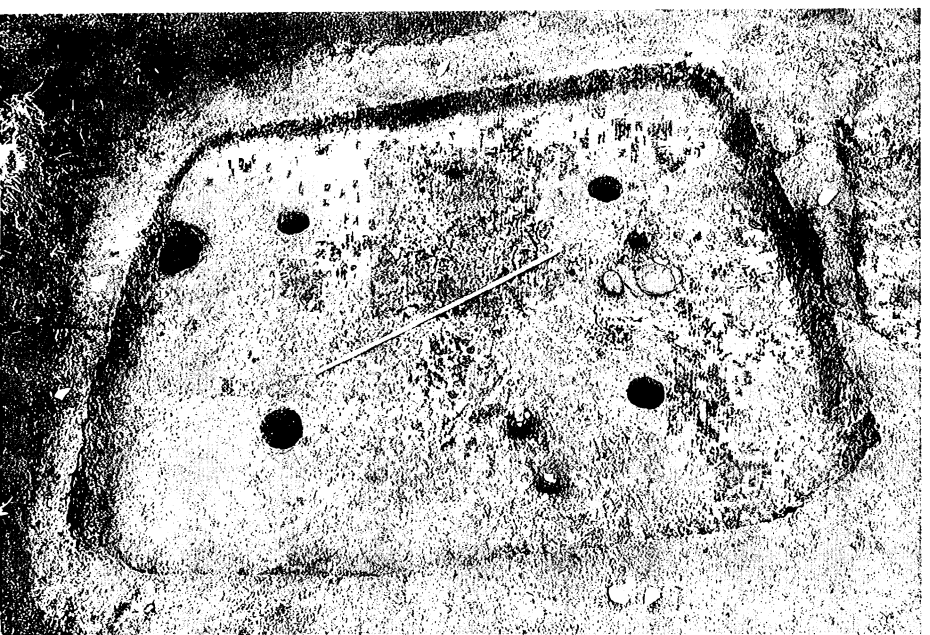
3．同全景



1．F4-24号住居全景



2．F4-32号住居遺物出土状態



3．同全景

PL. 7

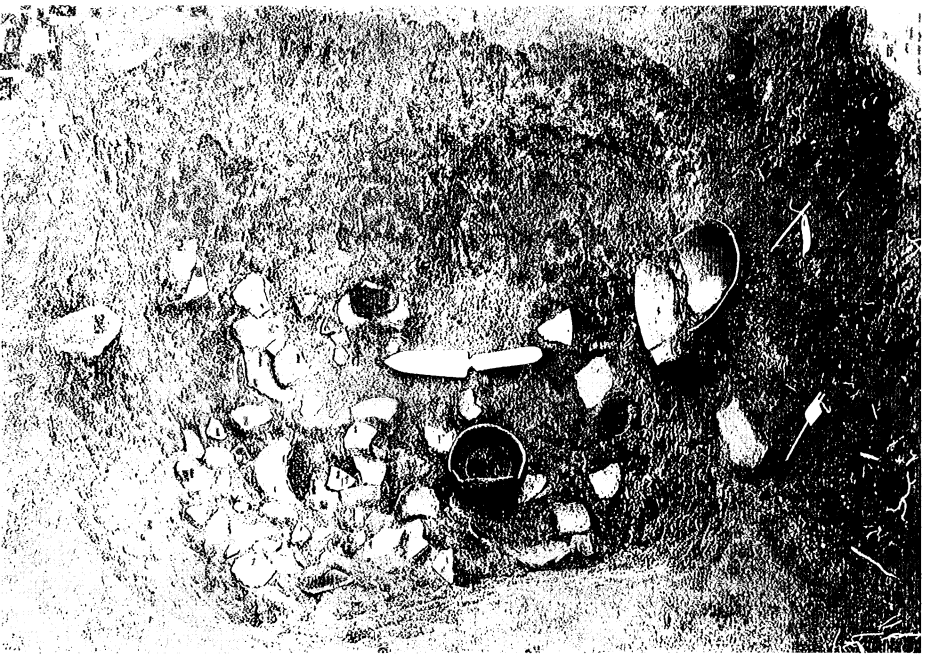
1．F5 -1号住居遺物出土状態

2．同上

3．同全景

PL. 8

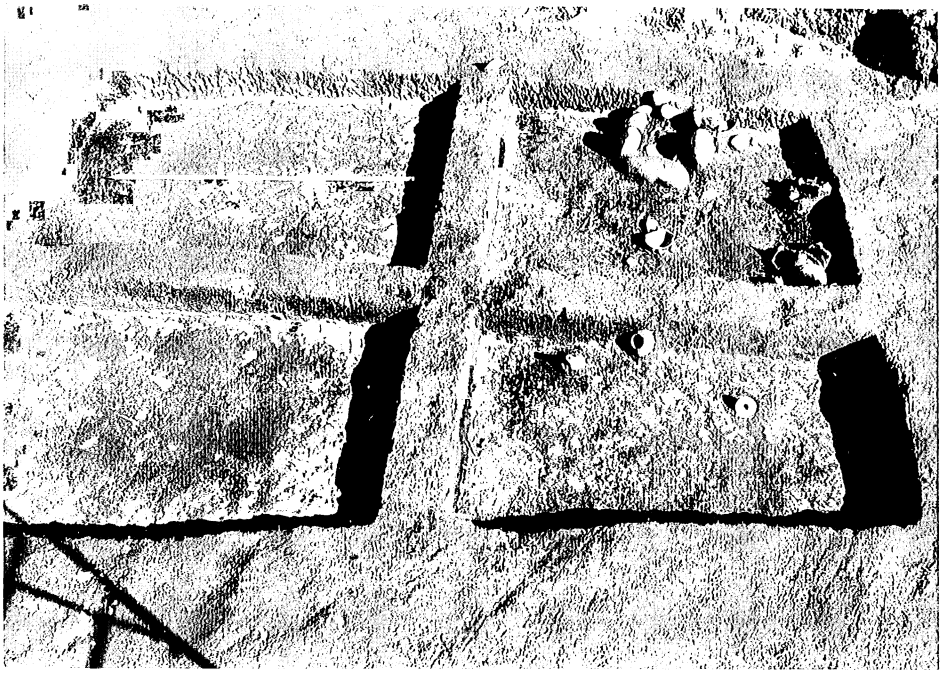
1．F4 -12号住居全景



2．同貯蔵穴内遺物出土状態

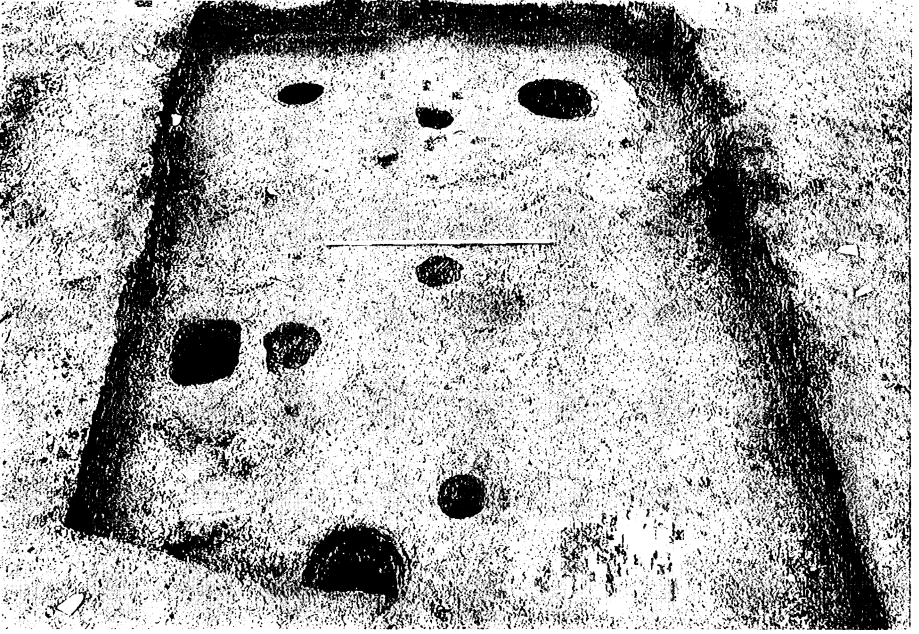
3．F5-18号住居全景

PL. 9

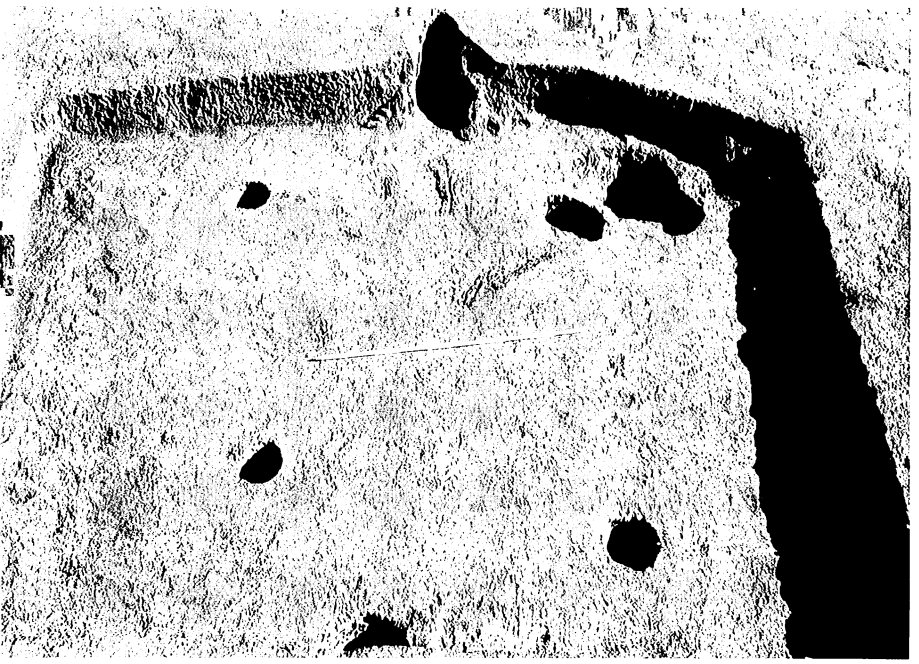


F4-17号住居遺物出土状態

同竈部全景



1．F4-22号住居全景

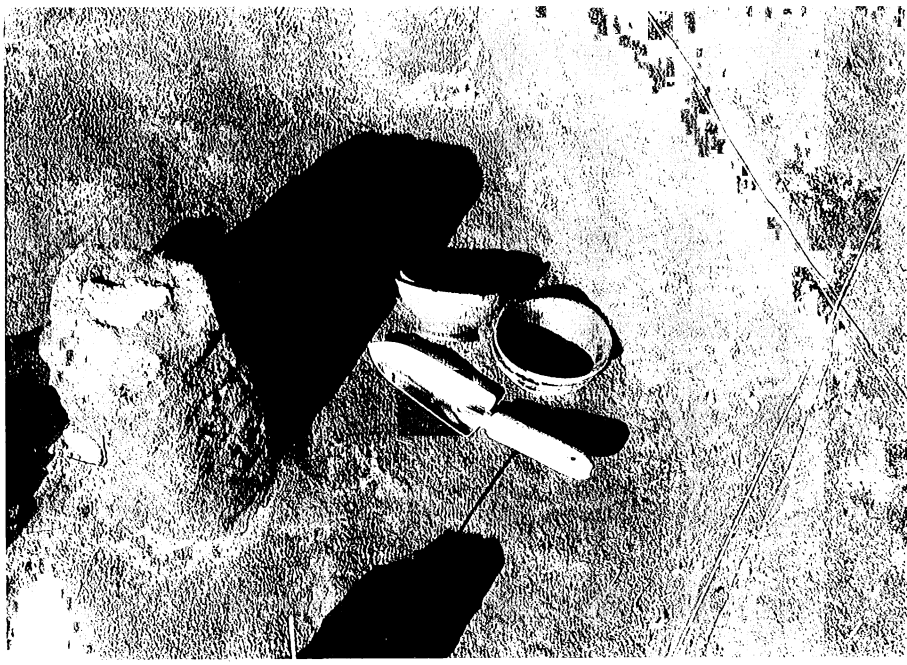


2．F4-18号住居全景

3．F5-11号住居遺物出土状態

PL.11

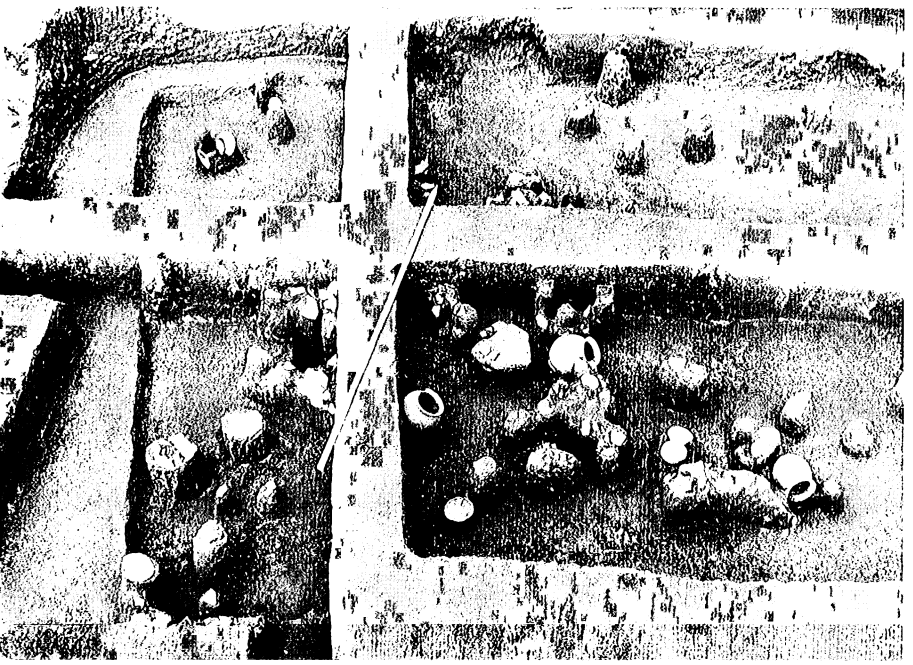
1．F4 -10号住居全景



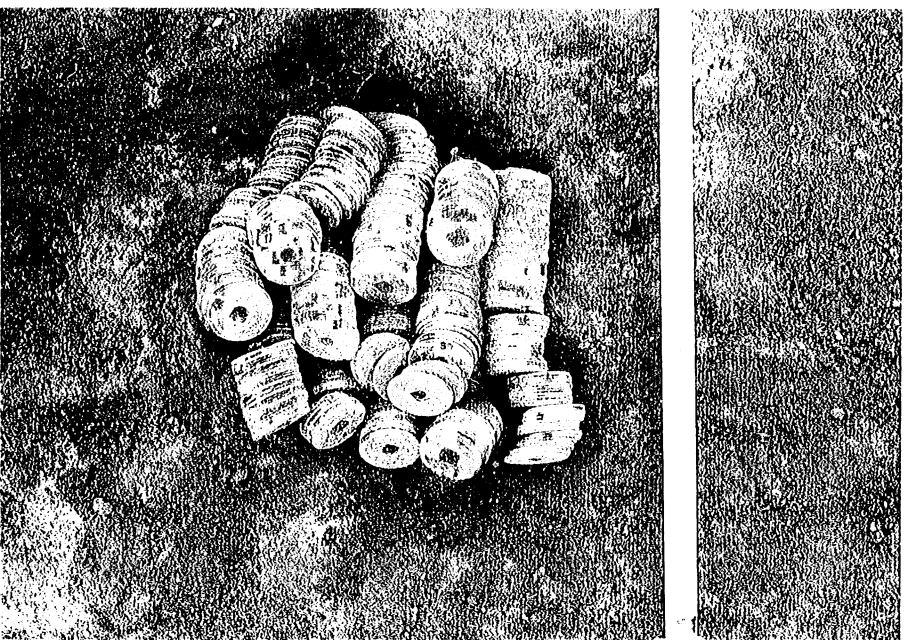
2．同遺物出土状態

3．F 5 -20号住居全景

1. F 5 -Bg-31グリット
遺物出土状態

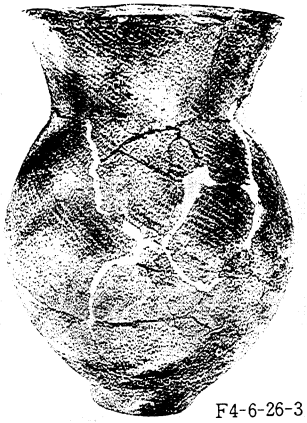


2. F 5 -Bl・m-30・31グリット
遺物出土状態



3. F 4 -Bw-16グリット
蕃銭出土状態

PL.13

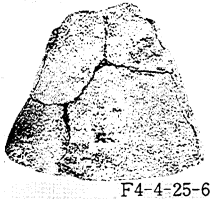


F4-6-26-3

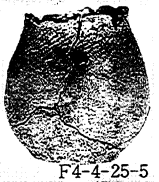
F4-6-26-2

F4-6-26-1

F4-4-25-4



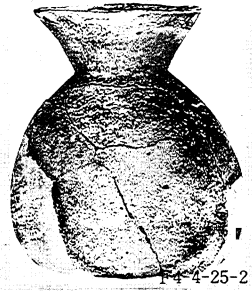
F4-4-25-6



F4-4-25-5

F4-6-26-4

F4-6-26-5



F4-4-25-2

F4-4-25-1

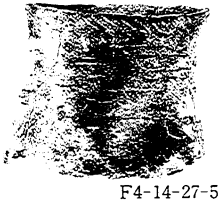
PL.14

F4-14-27-2

F4-14-27-1

F4-14-27-9

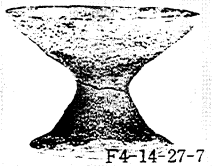
F4-14-27-10



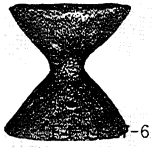
F4-14-27-5

F4-14-27-4

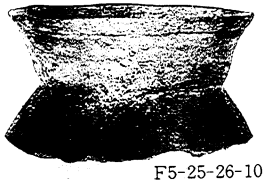
F4-14-27-8



F4-14-27-7

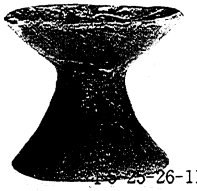


-6



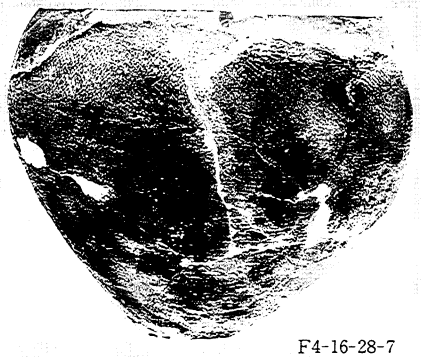
F5-25-26-10

F5-25-26-12

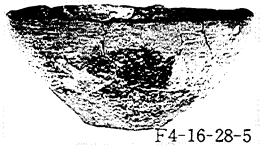


F5-25-26-11

PL.15

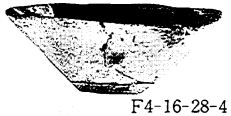

F4-16-28-7

F4-16-27-15

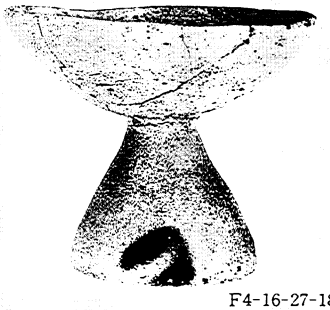

F4-16-28-5

F4-16-27-14

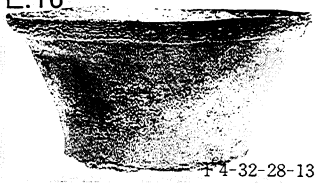
F4-16-27-16

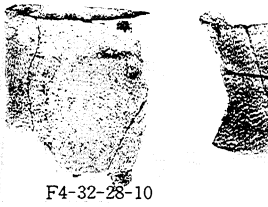

F4-16-28-4

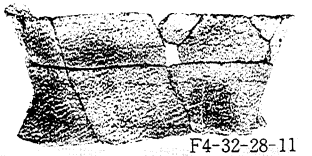
F4-16-27-17


F4-16-27-18

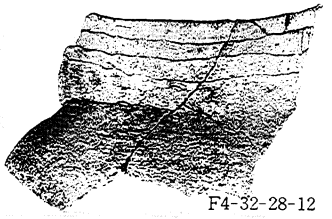
PL.16


F4-32-28-13

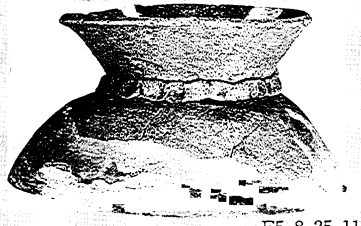

F4-32-28-10


F4-32-28-11

F4-32-28-16

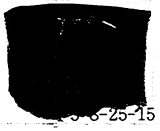

F4-32-28-12

F4-32-28-9

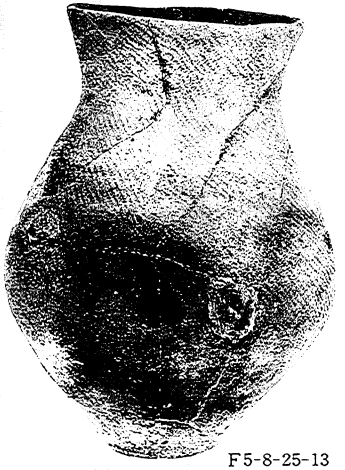

F5-8-25-11

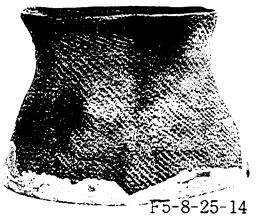
F5-8-25-21

F5-8-25-20


F5-8-25-15

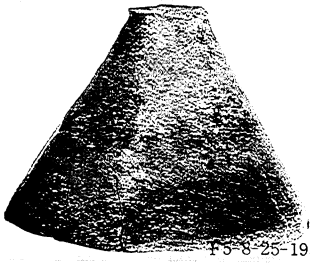
F5-8-25-12


F5-8-25-13


F5-8-25-14

F5-8-25-16

F5-8-25-17

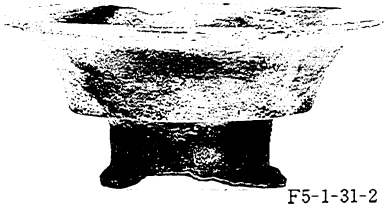

F5-8-25-19

PL.17

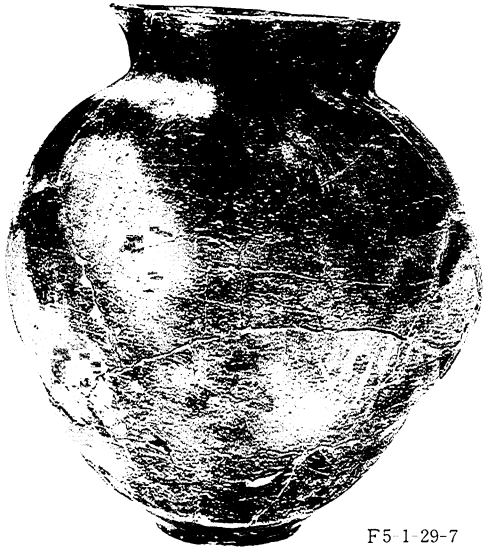
F5-1-31-3

F5-1-31-1

F5-1-30-7



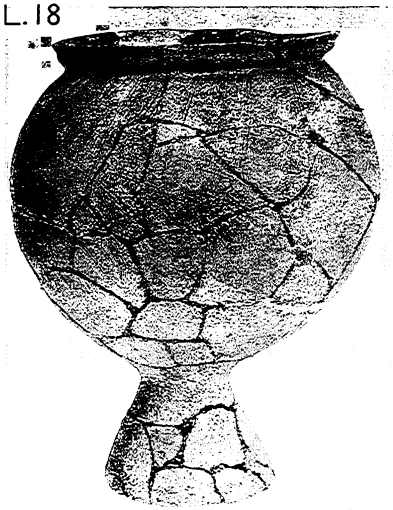
F5-1-31-2



F5-1-29-7

F5-1-30-6

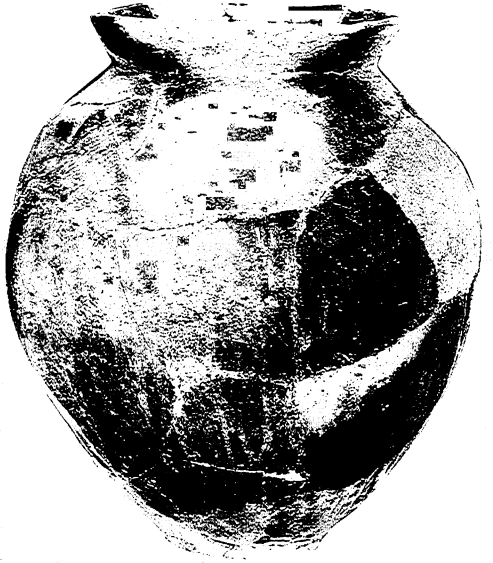
PL.18



F5-1-29-9

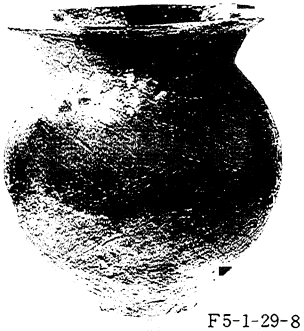
F5-1-30-1

F5-1-29-2



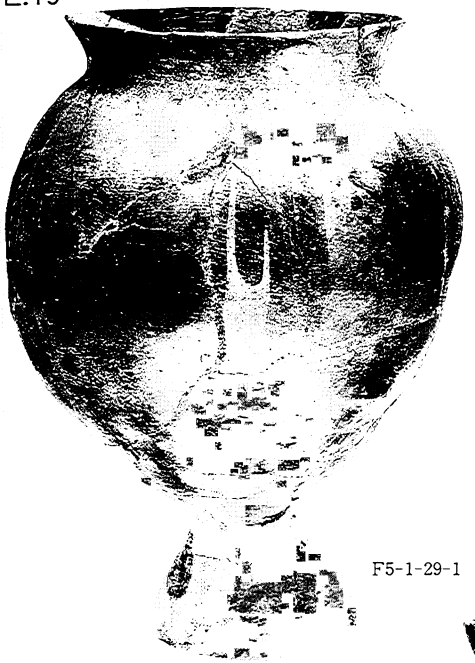
F5-1-26-3

F5-1-29-4



F5-1-29-8

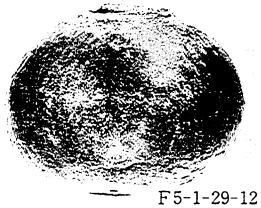
PL.19



F5-1-29-1

F5-1-30-4

F5-1-30-5



F5-1-29-12

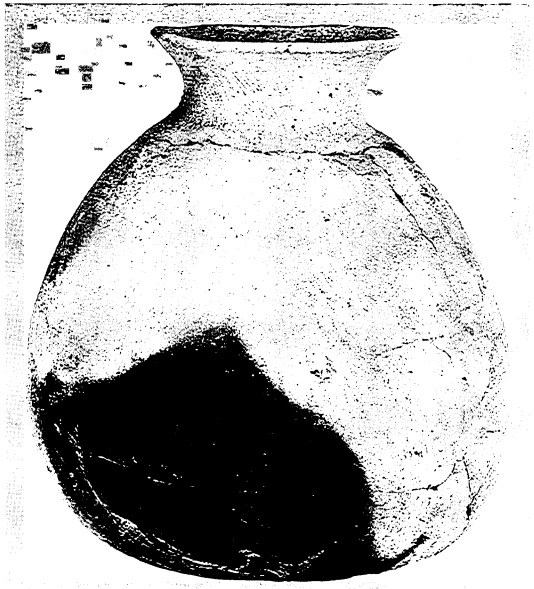
F5-1-29-3

F5-1-31-4

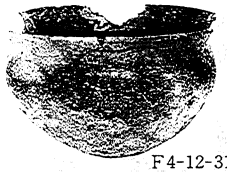
F5-1-29-5

PL.20

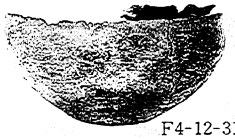
F5-1-30-7



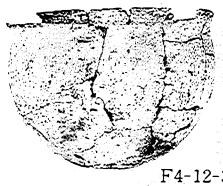
F5-1-30-8



F4-12-31-11



F4-12-31-12



F4-12-31-13

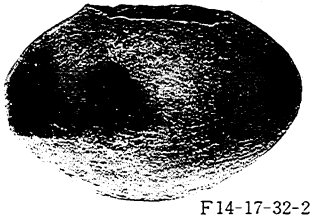
F4-12-31-24

F4-12-31-25

PL.21

F4-17-32-8

F4-17-32-1

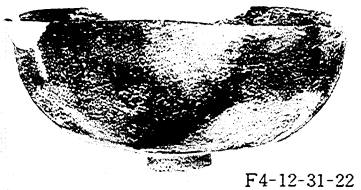


F14-17-32-2

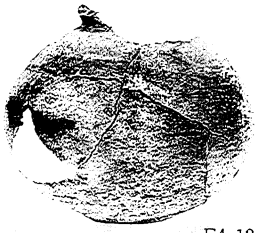
F4-17-32-7

F4-17-32-6

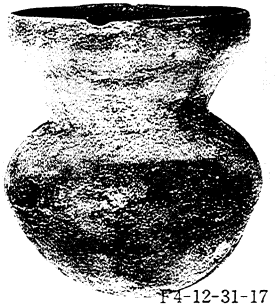
PL.22



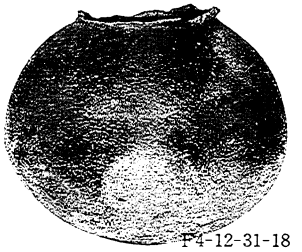
F4-12-31-22



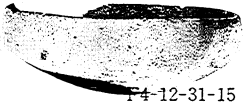
F4-12



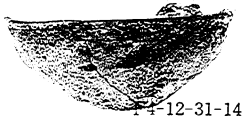
F4-12-31-17



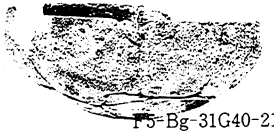
F4-12-31-18



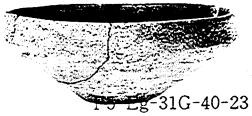
F4-12-31-15



F4-12-31-14

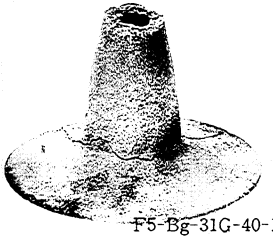


F5-Bg-31G40-21

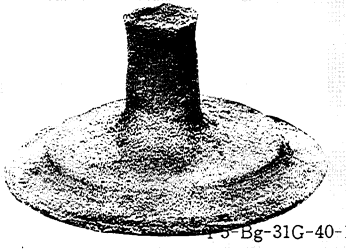


F5-Bg-31G-40-23

F5-Bg-31G46-16



F5-Bg-31G-40-18



F5-Bg-31G-40-19

PL.23

F5-Blm-30·31G-41-4

F5-Blm-30·31G-41-2

F5-Blm-30·31G-41-8

F5-Blm-30·31G-41-5

F5-Blm-30·31G-41-7

PL.24

F5-Blm-30·31G-41-10

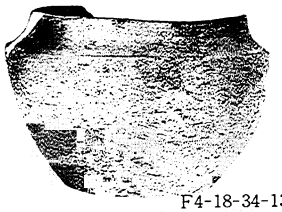
F5-Blm-30·31G-41-1

F5-Blm-30·31G-41-6

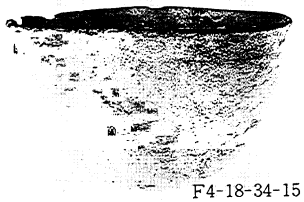
F5-Blm30·31G-41-3

PL.25

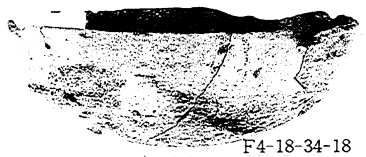
F4-18-34-11



F4-18-34-13

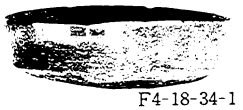


F4-18-34-15

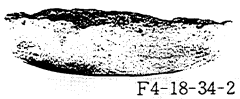


F4-18-34-18

F4-18-34-16



F4-18-34-1



F4-18-34-2

F4-18-34-3

F4-18-34-12

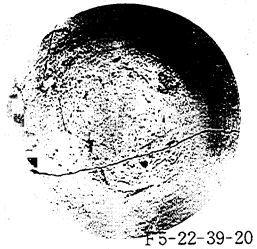
PL.26

F5-11-35-3

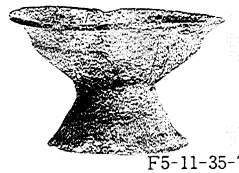
F5-11-35-6

F5-11-35-5

F5-11-35-4



F5-22-39-20



F5-11-35-7

F5-11-35-8

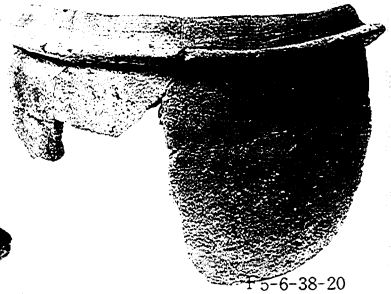
F5-22-39-24

F5-11-35-9

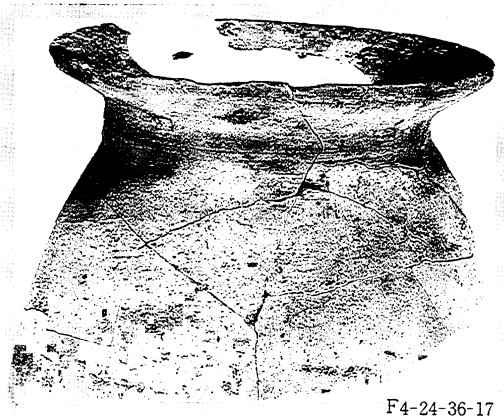
F5-11-35-10

PL.27

F5-23-38-1

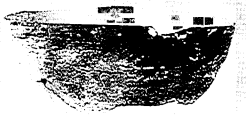


F5-6-38-20



F4-24-36-17

F5-6-38-16



F5-6-38-15

F4-24-36-16

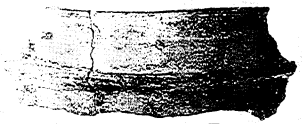
F5-6-38-18

PL.28

F5-24-36-6

F5-20-39-17

F5-20-39-16

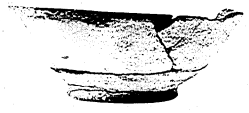


F5-20-39-15

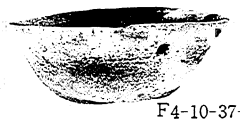
F4-10-37-15

F4-10-37-8

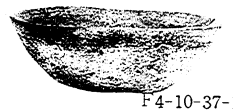
F4-10-37-14



F4-10-37-2



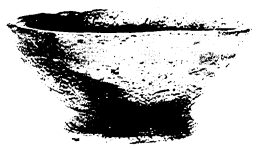
F4-10-37-7



F4-10-37-13

F4-10-37-3

F4-10-37-4



F4-10-37-12

堤　頭　遺　跡

――昭和55年度県営圃場整備事業粕川地区に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書（２）――

昭和63年３月17日　印刷
昭和63年３月20日　発行

編集
発行　粕川村教育委員会

印刷　朝日印刷工業株式会社